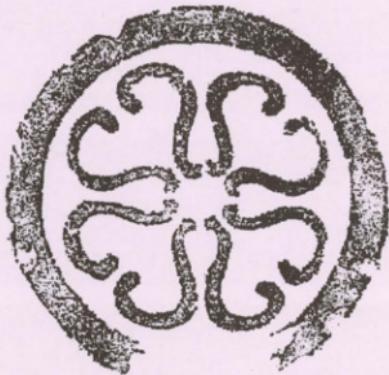


香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）



2002年12月

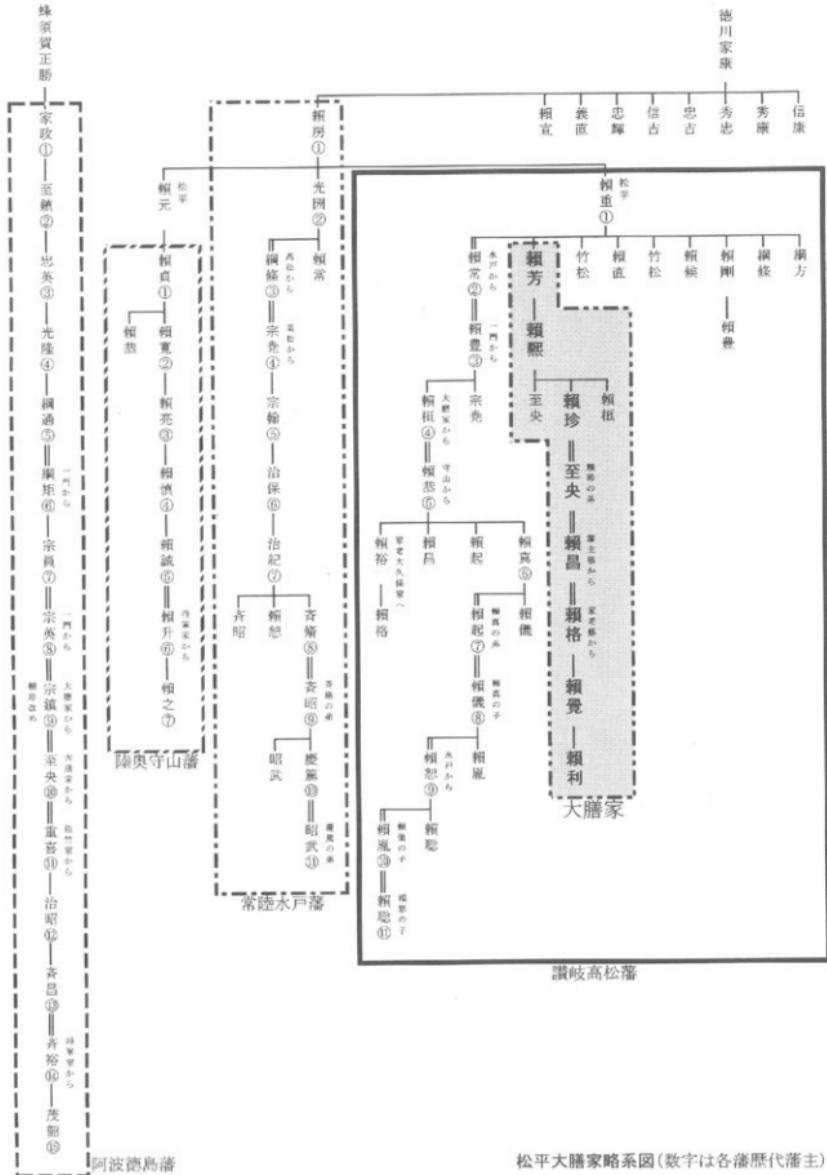
高松市教育委員会
香川県弁護士会

例　　言

1. 本報告書は、香川県弁護士会会館建設に伴う発掘調査報告書で、高松城跡（松平大講家 中屋敷跡）【たかまつじょうあと〔まつだいらだいせんけなかやしきあと〕】の報告を収録した。
2. 発掘調査地ならびに調査期間は次の通りである。
調査地：高松市丸の内2-7　調査期間：平成14年2月1日～3月25日
3. 調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し、その費用は香川県弁護士会が負担した。
4. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。
5. 発掘調査・整理作業には以下の者が従事した。
発掘調査従事者 多田暉那・松下知草（以上奈良大学）、大熊尊、片桐節子、国宗敏一、高木繁夫、松本春雄
整理作業従事者 井口夫美子、出石真理子、大川玲子、山中規子、吉木みどり
6. 発掘調査にあたって、下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。
香川県教育委員会、香川県歴史博物館、（財）香川県埋蔵文化財調査センター、高松高等裁判所、（財）松平公益会
片桐孝浩、北野信彦、口下正剛、佐藤竜馬、陶山仁美、中山尚子、丹羽佑一、乗松真也、松田朝由、松平頼英、
松本和彦、御研義道、森下友子、渡部明夫（五十音順、敬称略）
7. 指図として、「高松都市計画図（中心部）」を一部改変して使用した。
8. 本報告の高度値は海抜高を表し、方位は国土地標第IV系（JH座標）の北を示す。
9. 本書で用いる遺構の略号は次の通りである。SA：柱穴列 SD：溝 SE：井戸 SK：土坑 SP：柱穴
10. 本書に掲載した遺構の縮尺は特別の記載があるものを除き、S=1/40である。
11. 本書に掲載した遺物の縮尺は特別の記載があるものを除き、以下の通りである。
土器・陶磁器・土製品・瓦・木製品・金属器（貨幣を除く）……S=1/4
石器・貨幣……S=1/2
12. 本書で用いる遺物の略号は次の通りである。
肥=肥前系　瀬=瀬戸・美濃系　京=京・信楽系　備=備前焼　堺=堺または明石焼　大=大谷焼
不=产地不明　輸=輸入　陶=陶器　軟=軟質陶器　磁=磁器　十=十師器　須=須恵器
瓦質=瓦質土器　弥=弥生上器　色=色絵　K=金属器　S=石器　W=木器
13. 本書に掲載した遺物の中で網掛け部分は次の意味を示す。
陶磁器類（濃網掛け=鉄胎　薄網掛け=青磁釉）　木器類（濃網掛け=黒漆　薄網掛け=朱漆）
14. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

目　　次

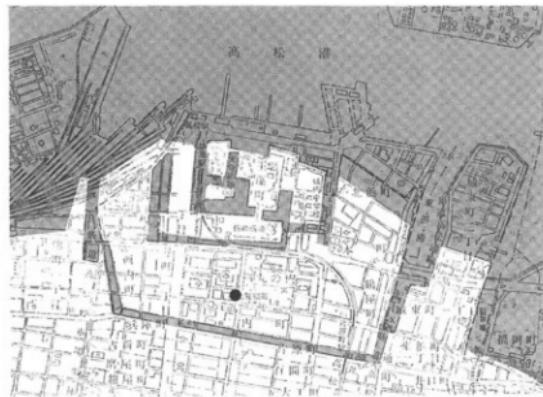
第1章 調査の経緯	1	観察表	51
第2章 地理的・歴史的環境	1	写真図版	65
第3章 調査の成果	2	報告書抄録	70
第4章 まとめ	49		



松平大膳家略系図(数字は各藩歴代藩主)

第1章 調査の経緯と経過

平成13年10月23日に香川県弁護士会から会館建設予定地（高松市丸の内2番7）における埋蔵文化財包蔵地の照会があった。同地は周知の埋蔵文化財包蔵地の高松城跡に該当し、平成12年度に香川県教育委員会による家庭裁判所移転に伴う試掘調査が行われ、旧建物部分以外においては遺構・遺物が認められていた。このため、保護措置が必要になる可能性があると回答した。次いで、11月14日に香川県弁護士会から「埋蔵文化財発掘の届出について（文化財保護法57条の2）」が提出された。これに対し、香川県教育委員会から香川県弁護士会に工事着手前に発掘調査を実施するよう指導があった。これを受け、香川県弁護士会と協議の結果、「香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財調査管理業務」として工事着手前に発掘調査を行うことで合意し、平成13年12月20日に埋蔵文化財協定書を締結した。発掘調査は、香川県教育委員会の試掘結果をふまえ、旧建物部分以外の約115m²を調査範囲として実施することとした。実掘面積は99m²である。現地調査は2月1日から3月25日に実施した。整理作業は平成14年4月1日から12月27日に実施した。



第1図 調査地位置図

第2章 地理的・歴史的環境

高松城跡は瀬戸内海に北面した香川県最大の平野である高松平野の中央先端に位置する。現在の高松市街は、西に石清尾山塊、東に屋島を望み、香東川・御坊川・詫田川・新川などによって形成され、近世以降高松城の城下町として発展してきた。しかしながら、これらの河川及び海浜部の景観は近世初頭の大規模な治水干拓事業によるものである。

中世頃までは高松城周辺は香川郡原庄と呼ばれ、高松城は八輪島と呼ばれる香東川の河口の中州に築城したと言わわれている。中世の遺構や遺物は比較的多く見られ、特に高松城跡東ノ丸で検出した15世紀の漁民の墓である火葬墓などが知られている。中世以前においても同様の景観が推察され、近年の高松城跡周辺の調査において弥生土器・須恵器・土師器等が出土していることから、周辺に集落の存在も否定できない。

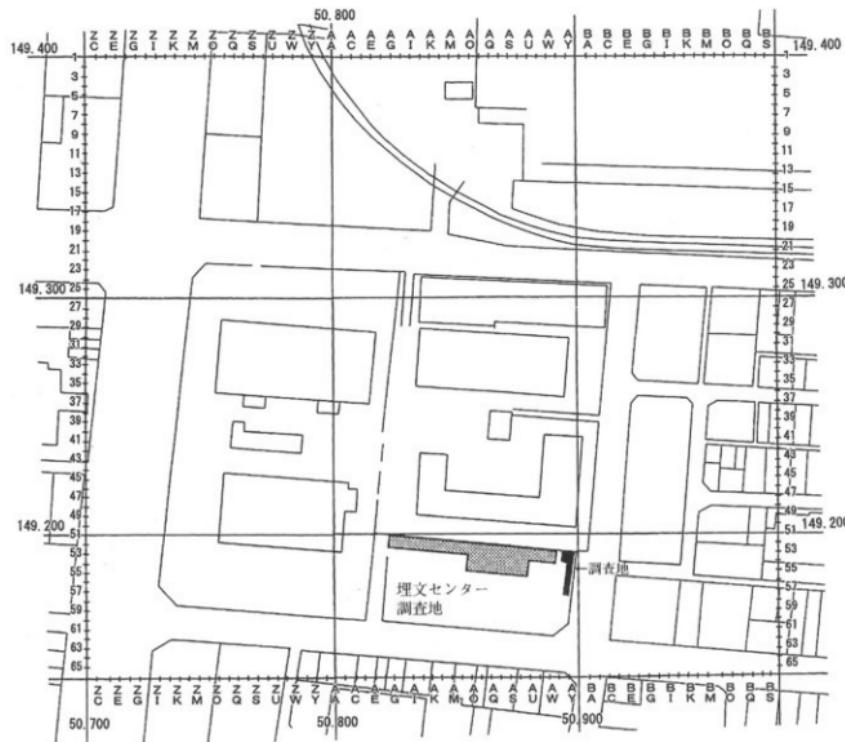
中世後半に入ると高松平野でも戦乱が起こっていたが、長宗我部元親によって四国は統一された。1585年豊臣秀吉の四国征伐により長宗我部氏が敗退すると、讃岐は仙石秀久、その後尾藤知宣に与えられるが、両者とも九州征伐の失敗により改易となり、1587年には生駒親正が入封し、讃岐17万石を領有し、1588年に高松城の築城を開始している。その後の関ヶ原の戦いでは親正は西軍、その子一正是東軍として戦うことでの生き残りを謀り、戦後改めて一正に讃岐一国が与えられた。生駒氏は一正・正俊・高俊と続くが、家臣団の対立から生駒騒動に発展し、1640年に改易され、出羽国矢島へ転封された。なお、生駒氏の在城期には前述のように治水干拓事業が盛んに行われた。家老の西鷗八兵衛の主導によるもので、最も大規模なものは石清尾山の東側を流れていた香東川を石清尾山の西側へ付け替えた香東川の付け替え事業である。さらに、西鷗八兵衛は高松城の東側に広がる「塩焼浜」に目を付け、三ノ丸東側の町人街東側の護岸工事を行い、屋島と高松城の間に広がっていた湾を干拓した。

その後1642年に代り高松に入封した松平頼重は、城郭の改修を行った。この結果、天守閣を中心に14の櫓を連ねる御城式縄張りを採用し、海水を導いた堅固な三重の堀を備えた現高松城になった。また、松平頼重も屋島と高松城の間に広がっていた湾の干拓に力を注ぎ、現在見られるような景観が生まれた。明治4年廃藩置県の令により高松藩は高松県になり、高松城も兵部省（のち陸軍省）の所管となつた。明治23年には旧藩主松平家に払い下げられたが、高松市街の発展とともに城郭外側から市街化され、現在は、本丸・二ノ丸・三ノ丸・桜の馬場・内堀・中堀の一部が残されているに過ぎない。調査地は江戸時代においては大手門の正面に位置し、上級家臣團の屋敷地が立ち並ぶ地域であった。絵図等によると生駒期は大坂八右衛門邸、松平期は松平大膳家の中屋敷であることがうかがえる。

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

調査地は財團法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した高松城跡（丸の内地区）に隣接し、連続する遺構も想定された。このため同調査で採用した高松市丸の内全域に設定した4m四方のグリッド割に従い発掘調査を行った。



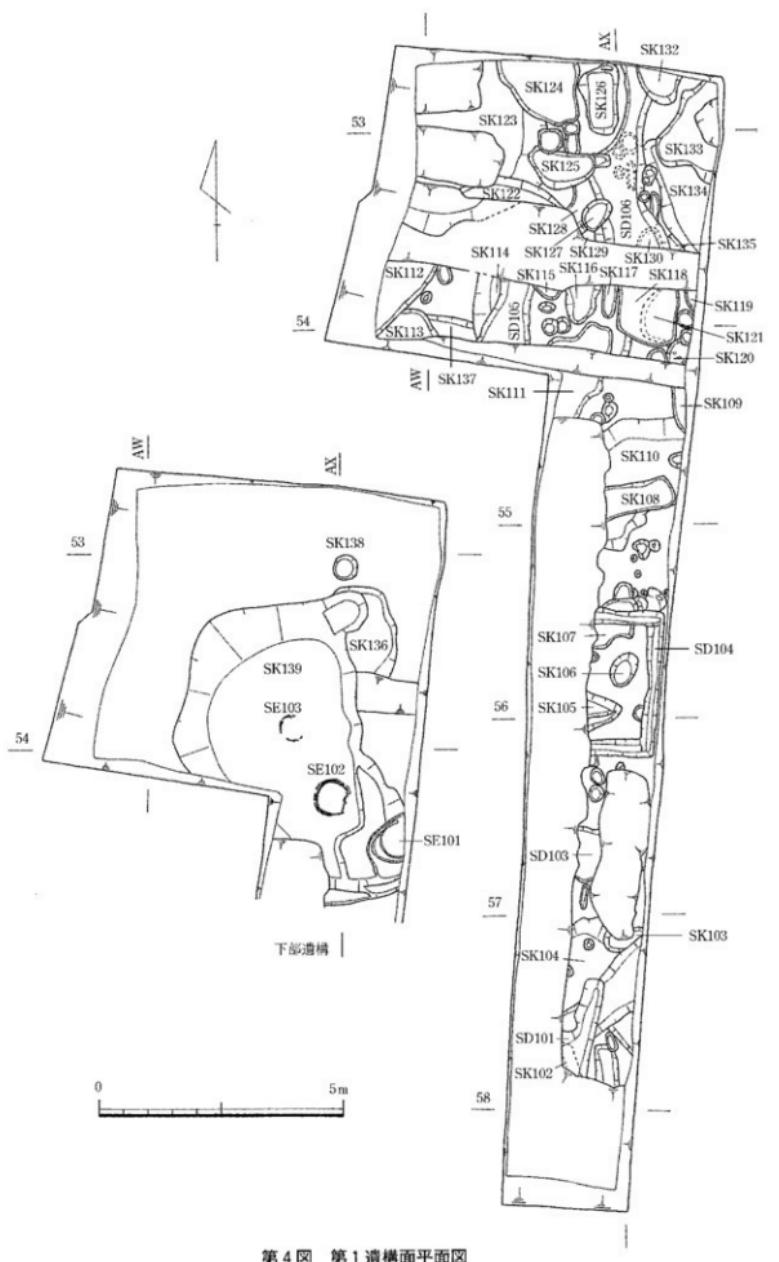
第2図 グリッド割図

第2節 基本層序と遺構面（第3～5図）

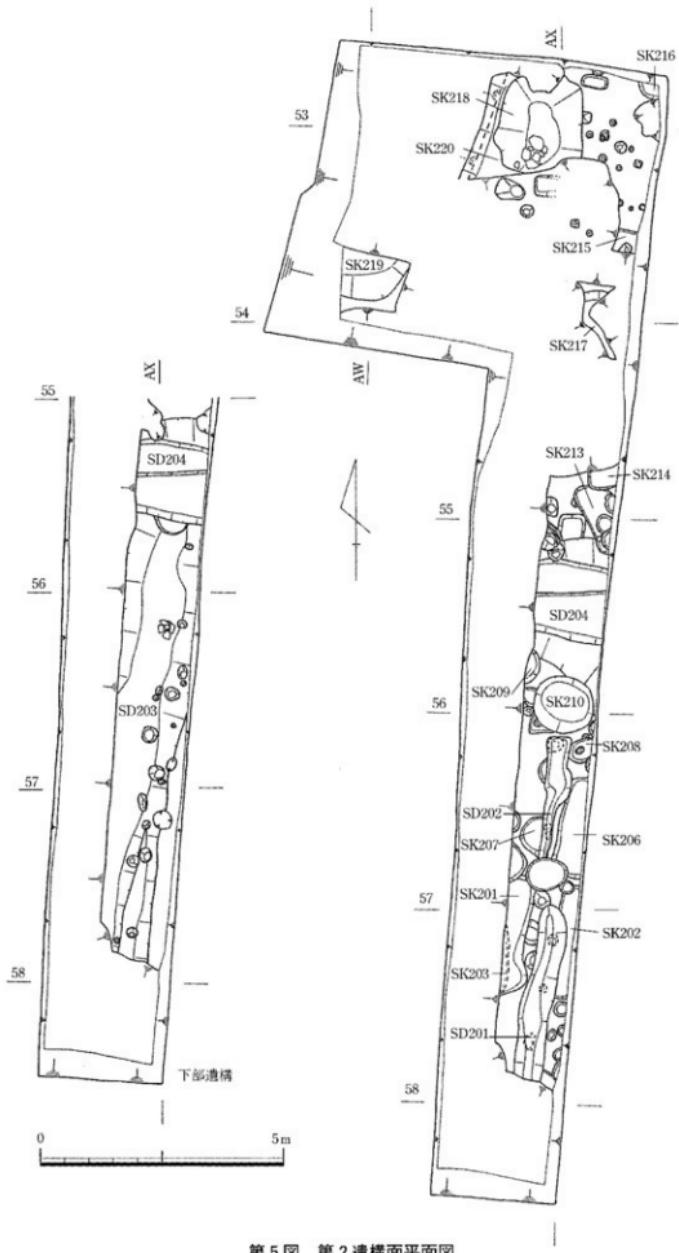
調査地の大半は搅乱を受けており、かろうじて調査区の東壁で土層を確認することができた。現代の搅乱が調査区中央部に大きく入っているものの、北部と南部において高松空襲時の焼土層（17層）を確認した。焼土層の直下が戦前までの面となり、調査区南端の大規模な搅乱は大正～昭和初期頃のものと考えられる。また空襲時の焼土層の下層においてもう1層焼土層を確認した。この直下が概ね19世紀の遺構面になる。当初はこの面で調査を進めていたが、上部からの搅乱が著しく、遺構面の大半が搅乱であることから、この面での調査は断念し、搅乱が少ない所まで掘り下げた。19世紀の遺構面以下は整地層が続くが、その中でも84層の上面において遺構面を確認できた。概ね18世紀の遺構面と考えられ、この面を第1遺構面とした。ただし、搅乱のため調査を断念した19世紀の遺構面から掘り込まれた遺構もこの面で確認しており、18～19世紀の遺構が混在した形で調査を実施した。このためこの遺構面の下限はやあいまいな状況である。84層以下も整地層が認められるが、124層で自然堆積層と考えられるシルト層に変化する。この124層の上面で17世紀の遺構面を確認し、この面を第2遺構面とした。124層以下掘削の及んだ127層まで砂層が続き、遺構面は確認できなかったが、126層からは弥生土器の小片が散点出土しており、弥生時代の包含層と考えられる。



第3図 調査区東壁上層断面図



第4図 第1遺構面平面図



第5図 第2遺構面平面図

表1 高松城跡（弁護士会館）主要遺構一覧

第2遺構面

遺構名	長(cm)	幅(cm)	深(cm)	平面形	断面形	出土遺物	特記事項	頁
SD101	364 ± α	65	20 溝	逆台形	土、肥陶、瓦			7
SD102	248 + α	52	13 溝	逆台形	土、肥陶、瓦			7
SD103	906 + α	144 + α	65 溝	U字	上、肥陶、瀬陶、備陶、瓦、瓦の施木	区画溝、肥陶碗中から瓦の種		7
SD104	144 + α	360	128 溝	逆台形	土、肥陶、志野、備陶、瓦、木	区画溝		7
SK201	245 50+ α	12	溝状	半円形	備陶、瓦			
SK202	232 38+ α	8	溝状	不明	瓦			
SK203	150 + α	14	7 不明	直状	土			
SK204	90 + α	32 + α	3 不明	直状	土			
SK205	—	66	5 朝形	直状	肥陶、瓦			
SK206	210	52 + α	15 不明	逆台形	瓦			
SK207	82	46 + α	10 円形	逆台形	ニシ貝	ニシ貝多量に施露		11
SK208	48 ± α	45	25 不明	逆台形	上			
SK209	68 + α	24 + α	7 不明	四状	土			11
SK210	124	114	45 円形	逆台形	上、肥陶、瓦、鉄	埋土は焼失、焼瓦多量に投棄		11
SK211	—	—	—	—	—			
SK212	—	—	—	—	—			
SK213	108 - α	74	5 不明	直状	土、瓦			
SK214	64 + α	44 + α	6 不明	直状	土			
SK215	98 + α	44 + α	25 不明	逆三角形	土			
SK216	40 + α	32 + α	11 不明	半円形	土			
SK217	112 ± α	50 + α	70 不明	不明	肥陶、志野、瓦			11
SK218	200	182	103 地方	U字	土、肥陶瓶、瀬陶、備陶、瓦、釘、木			11
SK219	168 -	92 + α	34 不明	不明	土、肥陶、備陶			11
SK220	240 + α	120 + α	20 ± α 不明	不明	土			

第1遺構面

SD101	203 + α	50	11 潟	圓状	土、瓦			
SD102	225 + α	97	15 溝	逆台形	上、肥陶、瓦、馬の齒			12
SD103	145 + α	103	32 潟	逆台形	肥陶瓶、瀬陶、瓦	区画溝?		12
SD104	510 + α	35	60 の字	逆台形	上、肥陶罐			13
SD105	130 + α	110	32 潟	逆台形	土、瓦、釘、ニシ貝			13
SD106	363 + α	133	17 潟	逆台形	肥陶瓶、瀬陶、瓦			
SK101	90 + α	46	15 溝状	U字				
SK102	77 + α	32 + α	28 不明	不明	土、肥陶、瀬陶、猿面			13
SK103	89 ± α	51	12 不明	逆台形	上、丸			
SK104	—	232 140 + α	32 不明	逆台形	肥陶、備陶、瓦、刀			14
SK105	85 ± α	70 + α	16 不明	逆三角形	土、肥陶、寛永通宝			
SK106	72	50	11 溝円形	逆台形	土、肥陶、瓦			
SK107	82 + α	76	13 不明	圓状				
SK108	140 + α	60	7 溝状	圓状	土、肥陶、瓦、ニシ貝			14
SK109	82 ± α	28 + α	8 不明	圓状	肥陶瓶、瀬陶、軒、ニシ貝			14
SK110	266	152 + α	44 不明	逆台形	土、肥陶瓶、瀬陶瓶、京陶、大鉢、軒、瓦			14
SK111	294 + α	128	7 不明	圓状	土、肥陶、備陶、軒、土人形、瓦			18
SK112	195 + α	96 - α	27 不明	逆台形	土、肥陶瓶、志野、京陶、瀬陶、砾石			18
SK113	125 + α	61 + α	7 不明	逆台形	肥陶瓶			
SK114	360	134 + α	74 不明	逆台形	土、肥陶瓶、瀬陶瓶、京陶、備陶、火打石			18
SK115	62 + α	22 + α	6 不明	逆台形	土、瓦			
SK116	77 + α	70	7 不明	逆台形				
SK117	67 + α	30	5 溝状	逆台形	土、瓦			
SK118	122	116 + α	7 五形	逆台形	土、肥陶瓶、京陶、瓦			18
SK119	45 + α	22 + α	4 不明	圓状	瓦			
SK120	53 ± α	43 + α	5 不明	圓状	土、肥陶、吹、瓦			
SK121	180 + α	108 + α	115 不明	逆台形	土、肥陶瓶、瀬陶瓶、京陶、備陶、軒、瓦、木	軟質陶器十箇多量出土		18
SK122	221 + α	48 + α	32 不明	圓状	肥陶、京陶、備陶			18
SK123	352	290	65 不明	逆台形	十、肥陶瓶、瀬陶、京陶、備陶、壠陶、瓦、木	人體家紋瓦・家紋入り理兵衛旋出土		20
SK124	167	135 + α	141 不明	圓状	上、京陶、瓦			
SK125	138	79	20 二角形	逆台形	十、肥陶、瀬陶、京陶、瓦			41
SK126	146	81	91 長方形	逆台形	土、肥陶、瀬陶、京陶、瓦、寛永通宝、硯			41
SK127	70	47	13 溝円形	逆台形	土、肥陶、丸、釘			41
SK128	145 + α	70	35 溝状	U字	土、肥陶瓶、京陶、備陶、壠陶、瓦、火打石			42
SK129	94 + α	79	46 良方形	U字	肥陶瓶、瓦			42
SK130	52 + α	41 + α	6 棱円形	逆台形	不窓			
SK131	135 + α	125 + α	35 不明	不明	肥陶瓶、瓦			
SK132	96	72 + α	7 不明	圓状	土、肥陶、瓦			
SK133	917 ± α	130 + α	18 不明	逆台形	上、肥陶、丸			
SK134	250 + α	150 + α	25 不明	逆台形	肥陶、瓦			
SK135	68 - α	49 ± α	43 不明	不明	土、肥陶、瀬陶、京陶、備陶、瓦			42
SK136	171 + α	151	35 良方形	逆台形	更岡銘、京陶、備陶、瓦			42
SK137	133 ± α	36 ± α	23 不明	逆台形	肥陶、京陶、備陶、瓦			42
SK138	51	49	22 円形	逆台形	肥陶瓶、備陶、木			42
SK139	650	375	158 棱円形	U字	土、肥陶瓶、瀬陶、京陶、備陶、軒、瓦	擂鉢、陶器、漆器を埋納		42
SE101	113 + α	75 + α	190 円形	不明	肥陶、京陶			42
SE102	118 + α	118 + α	94 円形	不明	軒、上、肥陶、瀬陶、京陶、備陶			42
SE103	122 + α	122 + α	130 円形	不明	土、肥陶、瀬陶、京陶、軒			42

第3節 第2遺構面

第2遺構面は海拔85cm～1mで検出した。調査区の南から北に向かって遺構面が高くなっている。遺構面の時期は、概ね17世紀と考えられ、生駒期から松平期の初期に該当すると考えられる。現代の擾乱や第1遺構面の遺構により、調査地の人大半が擾乱を受けた状態ではあったが、調査区の南半を中心と土坑20基、溝4条、ピット多数を検出した。以下、遺物の図示できた遺構を中心に述べていく。その他の遺構については、主要遺構一覧（表1）を参考にしていただきたい。

SD201（第6・7図）

幅65cm、深さ20cmを測る溝で、両側は擾乱によって削平されている。出土遺物は肥前系陶器、土師器が見られる。

SA201（第6図）

SD201を完掘すると下層から柱穴を検出した。SD201とはほぼ同じ方位で4基の柱穴が並ぶ。検出長は3.3mを測る。柱間はすべて約1.1mと統一されている。遺物は出土していない。

SD202（第6・7図）

SD201の北側で検出した幅52cm、深さ13cm、長さ2.5mの溝である。出土遺物は肥前系陶器、土師器が見られる。

SA202（第6図）

SD201と同様に、SD202を完掘すると下層から柱穴を検出した。SD202とはほぼ同じ方位で4基の柱穴が並ぶ。検出長は4.4mを測る。柱間は約1.2m～1.8mとばらつきがある。南端の柱穴には漆器椀の痕跡が残っていたが、その他の柱穴からは遺物は出土していない。

SD203・SA203・204（第6・7図）

推定幅約180cm、深さ65cmを測る溝である。断面形状は浅いU字を呈し、溝中央部はやや窪んでいる。埋土は10層に分層でき、埋土最上層は地山の粘土ブロックを多量に含んでいることから人為的に埋め戻された整地層と考えられる。溝は南から北へ流れ、SD204につきあたり、SD204以北へは延びていない。SD204との合流部分については、半円形に一段低く掘り込まれている。出土遺物は肥前系陶器および土師皿が目立つ。概ね17世紀中葉のものと考えられる。なお、第7図23の肥前系陶器箇の中からは瓜の種が多数出土した。

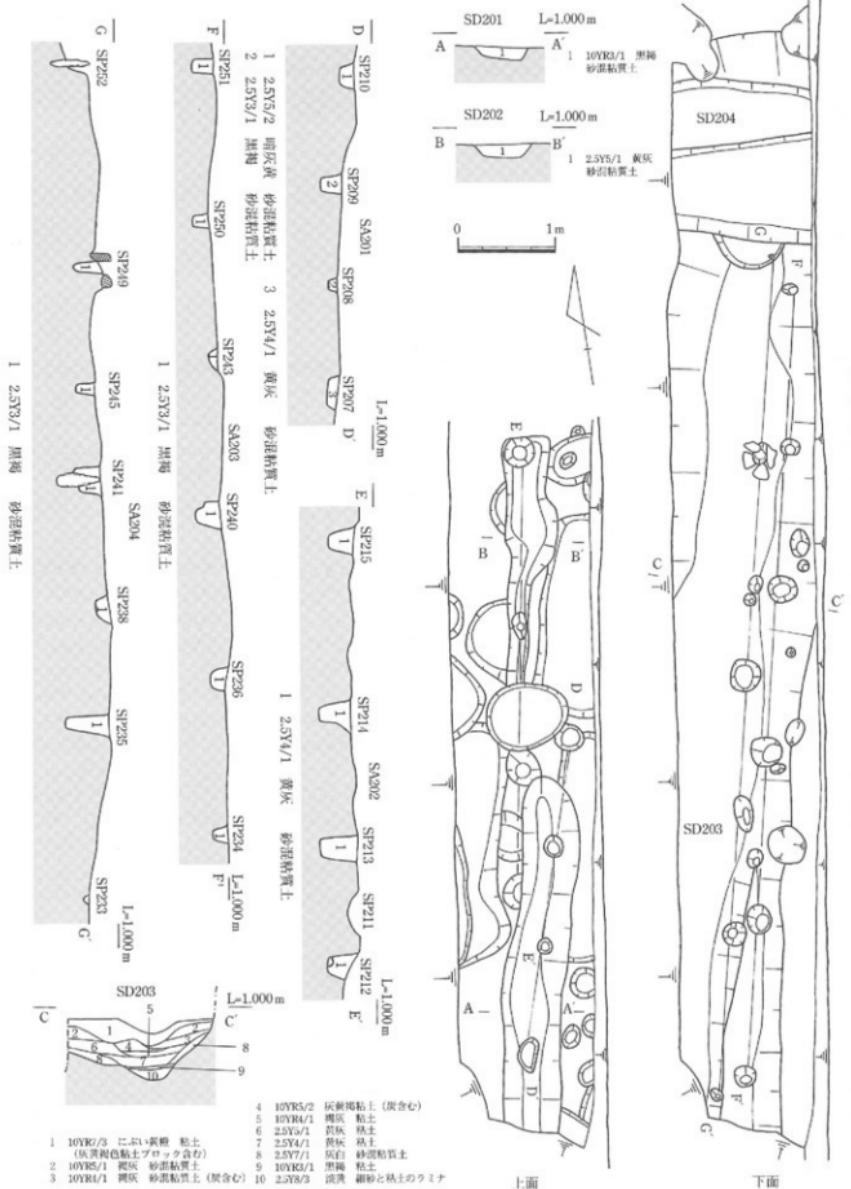
さらに、SD203の底面で溝の東岸に沿って2列の柱穴列SA203・204を検出した。SA203は6基の柱穴により構成され、検出長7.8mを測る。柱間は約1.4～1.6mとほぼそろえている。SA204は7基の柱穴により構成され、検出長8.6mを測る。柱間は0.8～2.2mとばらつきがある。なお、一部の柱穴には杭が残存していた。また、柱穴の周りに石組みを施している柱穴も見られた。SA203・204とも遺物は出土していない。

SD203・SA203・204の性格としては屋敷地の区画に伴う溝や柱穴列と考えられる。しかしながら、現存する生駒期の城下絵図（『生駒家時代賛岐高松城屋敷割図』推定1638～1639年製作、高松市歴史資料館蔵）においては、南北方向の区画溝がT字になる部分は周辺には無く、すべて十字に交差して描かれている。クランクした溝を絵図では簡略化して十字に書いた可能性もあるが、SD204との切り合い関係からも絵図以前の地割の可能性を考えたい。

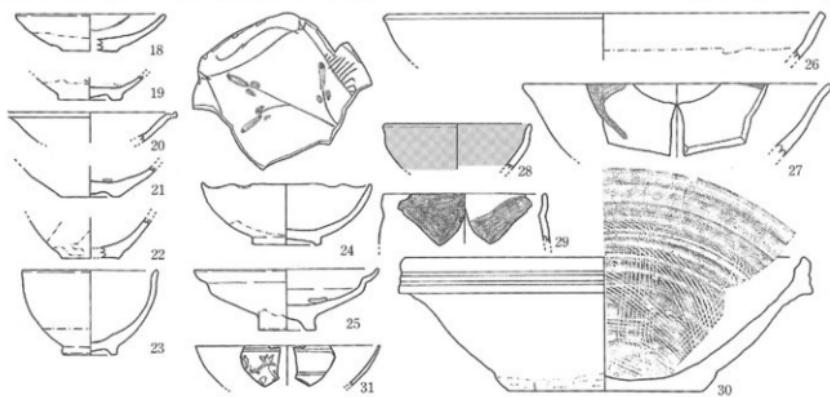
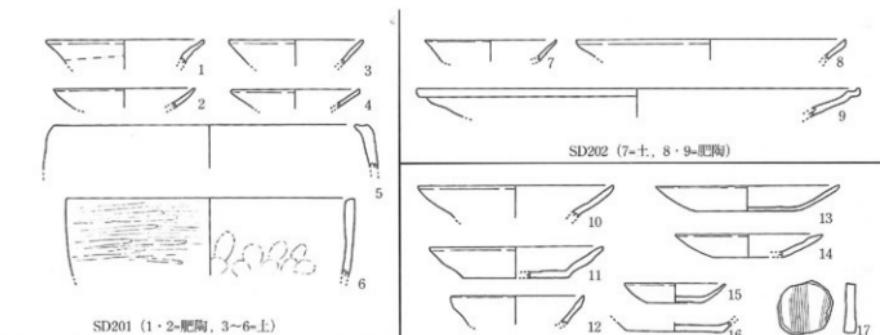
また、前述のようにSD203は人為的に埋め戻され整地されているが、その後もSD201・202・SA201・202が作られることから、埋没後もある程度区画を意識していたことがうかがえる。

SD204（第8図）

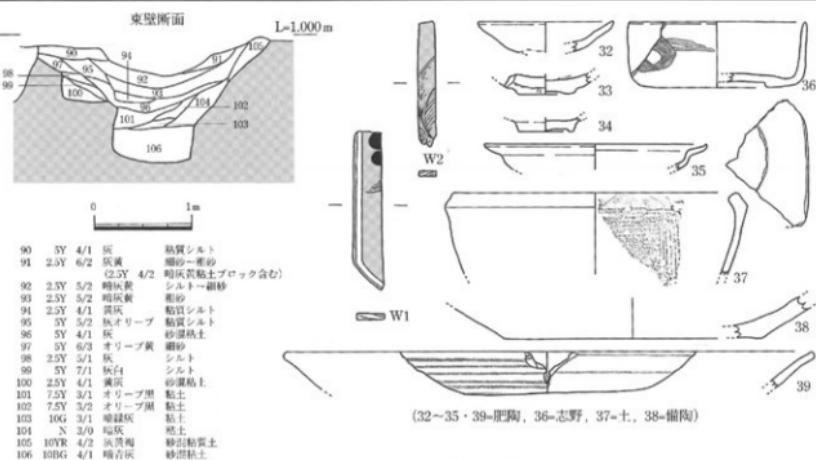
調査区が狭いため、当初は溝という認識が無く、土坑として調査を行っていたが、屋敷の区画溝と考えられるSD203がSD204につきあたって途切れることや、隣接地の高松城跡（丸の内地区）の調査で検出されているSK08・10がSD204の延長部分になる可能性が考えられることから、SD204は東西方向へ延びる区画溝であると判断した。幅360cm、深さ128cmを測り、SD203のほぼ倍の規模である。断面形状はV字にゆるやかに掘り下がり、下層部分は幅80cmの範囲を約60cm垂直に掘り下げている。溝底は海拔マイナス30cmである。埋土は17層に分層できた。溝が掘り込んでいる層は砂層であるため崩れやすいためか、数度の掘り返しを実施したことが断面観察により認めることができる。また、埋土の最上層部分はSD203と同様に粘土ブロックを多量に含んでおり、人為的な埋め戻しによる整地がなされている。なお、SD203とSD204の合流部分はSD203からSD204へ排水するよう一段段差を設けていることから同時期に機能していたと考えられるが、両者は切り合い関係をもっており、充溝についてはSD203を先に埋め戻し、一定期間はSD204だけが機能していた時期を経て、その後SD204が埋め戻されたと考えられる。出土遺物は志野をはじめ肥前系陶器等の陶磁器類



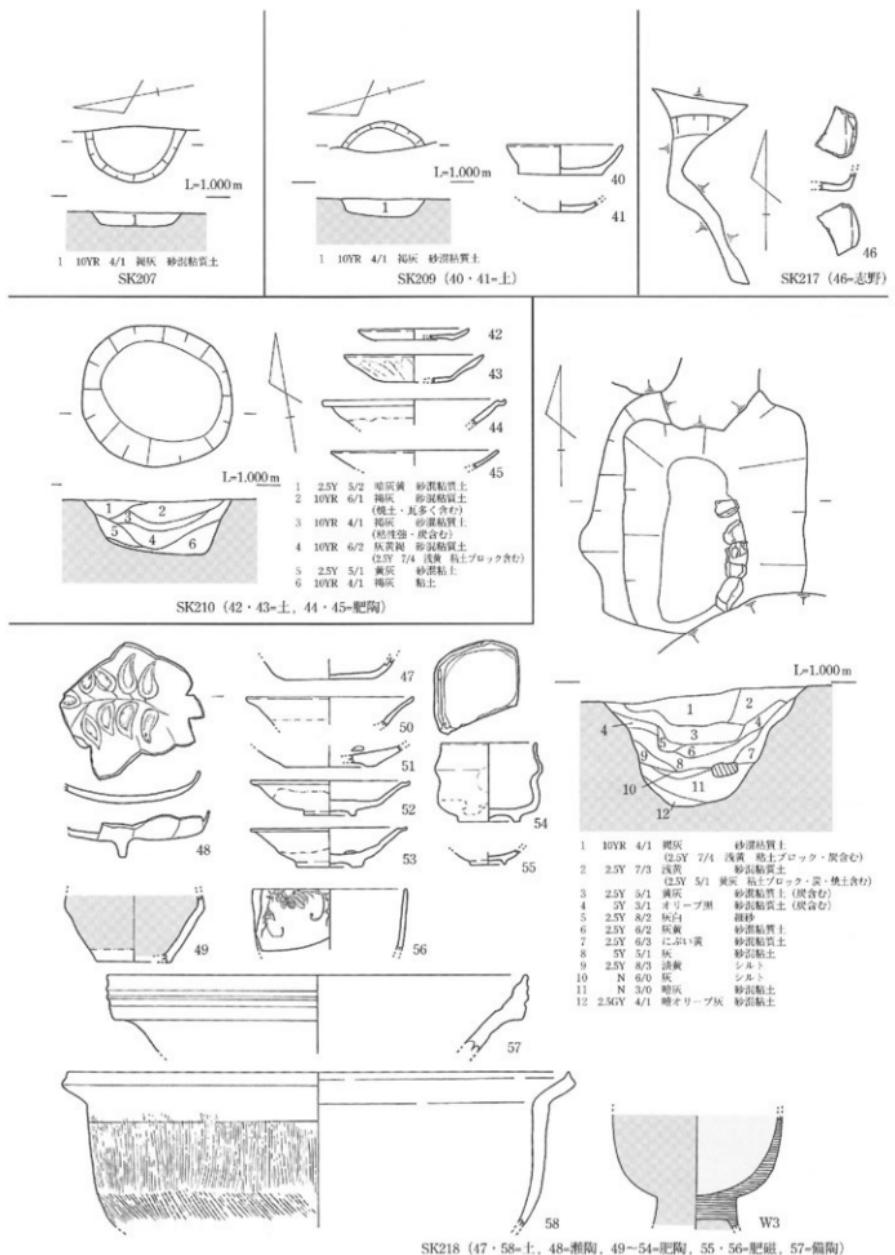
第6図 SD201・202・203, SA201・202・203・204平・断面図



第7図 SD201・202・203出土遺物実測図



第8図 SD204断面図及び出土遺物実測図



第9図 第2造構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図

の他、漆器も見られる。概ね17世紀中葉のものと考えられる。

また、絵図との対比では、前述の『生駒家時代讚岐高松城屋敷割図』には東西方向の区画溝が描かれているが、松平期の初期に描かれたとされる『高松城下図屏風』(推定17世紀中頃製作、香川県歴史博物館蔵)では調査地部分は南北に細長い屋敷地であったことがうかがえ、東西方向の区画は存在しない。その後、『高松城下図』(推定1716~1736年製作、鎌田共済会郷土博物館蔵)では再度東西方向の区画が見られる。遺物の時期と合わせて推察するとSD204は『生駒家時代讚岐高松城屋敷割図』に描かれた溝と考えられる。また、同絵図および隣接地の高松城跡（丸の内地区）の調査成果からSD204以北は大塚八右衛門邸、以南は柴山忠右衛門邸と考えられる。

SK207（第9図）

SD202に切られているが、円形の土坑と考えられ、長径82cm、深さ10cmを測る。遺構内からは多量のニシ貝の貝殻が隙間無くつめられた状態で出土しており、貝殻の廐棄土坑と考えられる。その他の遺物は1点も出土しなかった。

SK209（第9図）

遺構の半分が搅乱により壊れているが、円形の土坑と考えられる、長径68cm、深さ7cmを測る。埋上は単層で、土師皿2点のみ出土した。

SK210（第9図）

円形の土坑で、長径124cm、短径114cm、深さ45cmを測る。火事などの後始末に利用されたのか、遺構内は焼土とコントナ4箱分にも及ぶ焼けた瓦が出土した。その他は肥前系陶器と土師皿がわずかに出土したにすぎない。概ね17世紀中葉と考えられる。当該期の火事としては、1662年の火災が文献で知られている。

SK217（第9図）

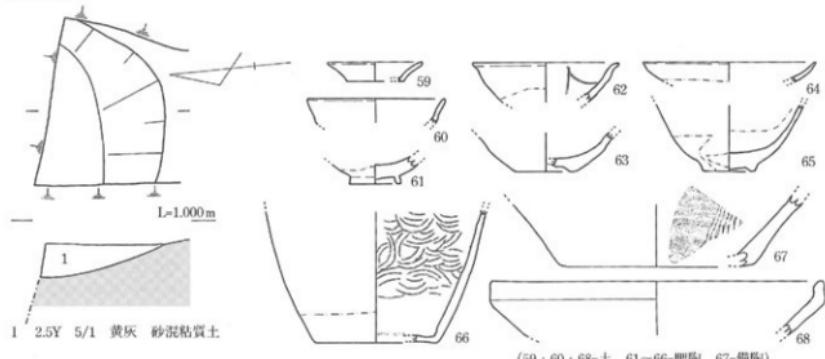
遺構の大半が第1遺構面からの掘り込みにより失われているため規模は不明である。図示した志野の他、肥前系陶器が出土した。

SK218（第9図）

調査区の北端で検出した方形の土坑で、長辺200cm、短辺182cmを測る。U字の断面形状を呈し、埋土は12層に分層できる。下層部分で東壁に平行して5個の石からなる石列を検出した。石列は自然石を利用するものの、西面をそろえて並べている。また、遺構の上面においても礎石状の集石遺構が認められたが、SK218との関連は不明である。出土遺物は肥前系陶器の他、漆器碗も見られる。概ね17世紀前半と考えられる。

SK219（第10図）

調査区西端で検出した土坑で、西側は調査区外へ延びている。出土遺物は肥前系陶器を中心で、概ね17世紀前半と考えられる。



第10図 SK219平・断面図及び出土遺物実測図

第4節 第1遺構面

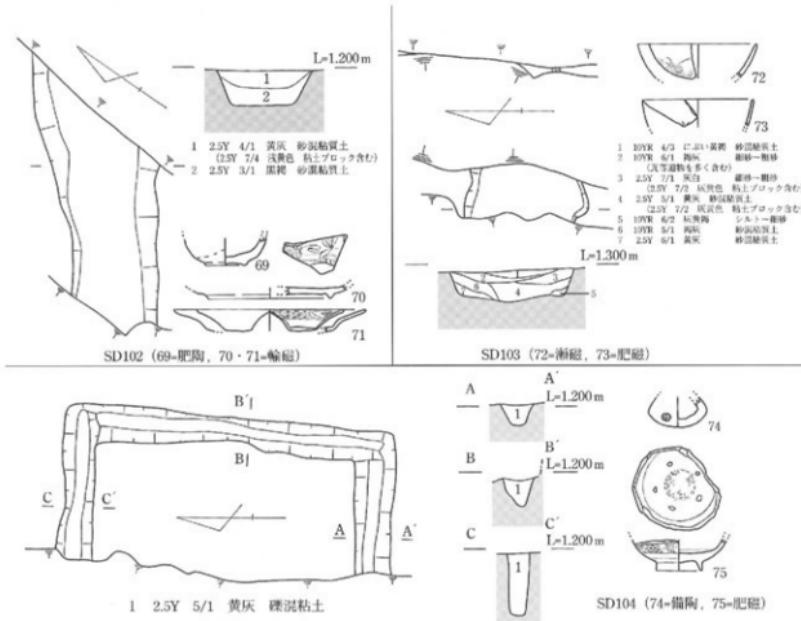
第1遺構面は海拔1.15~1.25mで検出した。遺構面の時期は、概ね18世紀後半と考えられるが、上層からの掘り込みの19世紀の遺構も同一面で調査を行ったことから18~19世紀の遺構が混在している。上層の19世紀の遺構面から確実に掘り込んでいる遺構は明治以降のものであるが、搅乱が著しく、遺構面の下限を正確に判断することはできなかった。第1遺構面では土坑39基、溝6条、井戸3基、ピット多数を検出した。特に調査区北半は遺構面を形成する整地層が見られないほど遺構が重複した状況で検出した。以下、遺物の図示できた遺構を中心に述べていく。その他の遺構については、主要遺構一覧（表1）を参考にしていただきたい。

SD102（第11回）

幅97cm、深さ16cmを測る。地割に斜行するため土坑の可能性も考えられる。出土遺物は肥前系陶器、輸入陶磁器等17世紀前半の遺物ばかりであるが、いずれも下層遺構の遺物が混入したものと考えられる。図示した遺物以外に馬の歯も出土した。

SD103（第11回）

搅乱により遺構の大半が消滅しているものの、幅103cmを測る東西方向の溝と考えられる。埋土は7層に分層でき断面形状は逆台形を呈する。3・4層部分は粘土ブロックを含み、遺物は上層のみで出土した。遺物中に瀬戸美濃系磁器碗が見られることから、19世紀に埋没したと考えられる。なお、今回の調査地付近には東西方向の屋敷の区画が存在していたことが18世紀以降幕末までの各絵図において描かかれている。調査範囲が非常に狭いため、正確な判断ができたとは言い難いが、調査区内においては東西方向の溝はこの1条しかなく、他の区画施設も見られない。第2遺構面で検出した生駒期の区画溝に比べると規模が小さく、積極的に区画溝という判断はできないが、その可能性も捨て切れない。仮にこの溝を区画溝とすれば、現存する絵図等からSD103以北が松平大膳家の中屋敷、以南が小夫家または久米家の屋敷と考えられる。



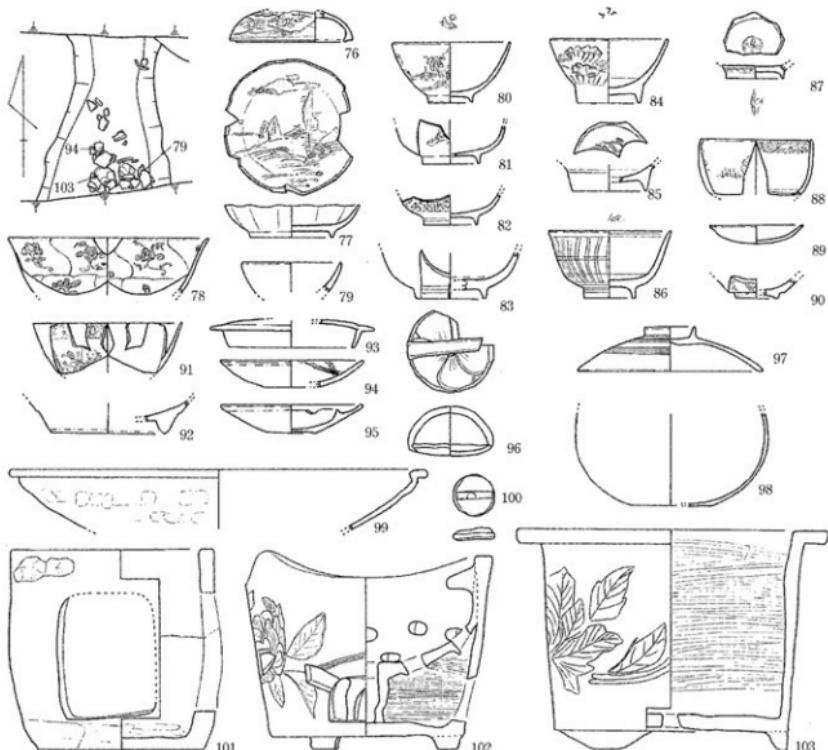
第11図 第1遺構面 溝 平・断面図及び出土遺物実測図

SD104（第11図）

西側が搅乱を受け不明であるが、南・東・北の3方にコの字状に流れる溝である。その延長は5.1m、最大幅は35cmを測る。各溝は段差をもち、南・東・北と順に深くなっている。北西部の最深部は深さ65cmを測る。埋土は單層で、埋土中には拳大の礫を隙間なく詰め込まれていた。出土遺物に型紙刷の肥前系磁器皿が見られることから明治の遺構と考えられる。

SD105（第12図）

南北とも擾乱により長さは不明であるが、幅1.1mの溝である。埋土は3層に分層でき、断面形状は逆台形である。埋土中には粘土ブロックや炭を多く含み、遺物は中層部分でまとまって出土した。肥前系磁器の広東碗、瀬戸美濃系磁器、軟質陶器等が見られることから19世紀前半の遺構と考えられる。

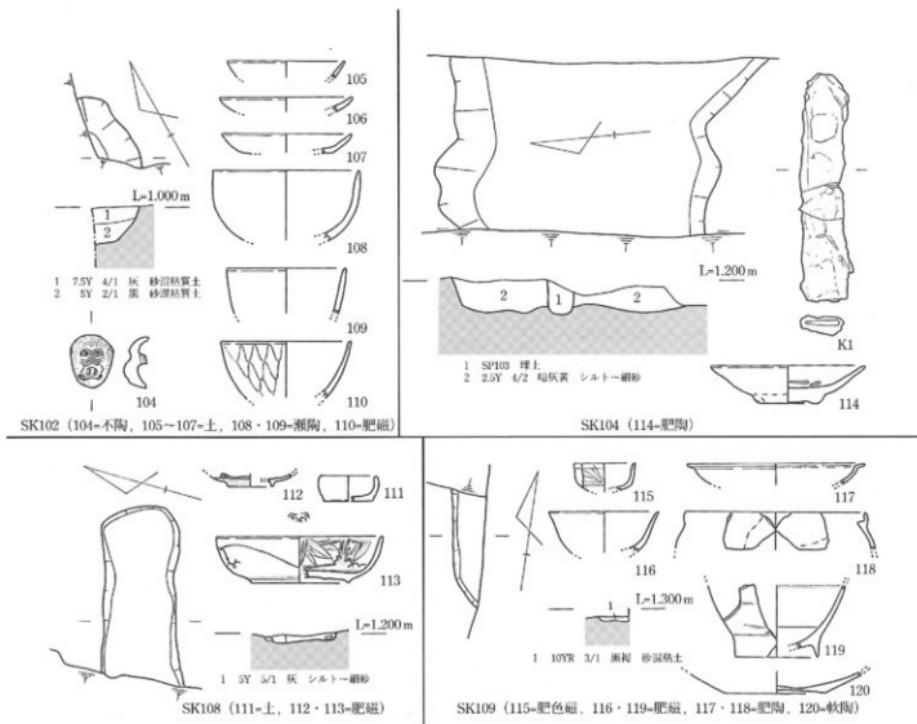


(76~87=肥前、88~瀬戸、89~京、90~96=京、97~98=軟、99~103=土)

第12図 SD105平面図及び出土遺物実測図

SK102（第13図）

調査区の南端でSD101の下層で検出した遺構である。南と西は擾乱で削平されており、規模・形状ともに不明である。検出面のレベルは第2遺構面とほぼ同レベルであり、掘り込み面がSD101によって削平されているので第1・第2遺構面いずれの遺構かは判断しづらく、第2遺構面の遺構の可能性も考えられる。ここでは第1遺構面の調査中に検出したことから、第1遺構面の遺構として報告しておく。遺物は猿顔の芥子面の他、土師皿等が見られる。17世紀後半と考えられる。



第13図 第1遺構面 土坑 平・断面図及び出土遺物実測図①

SK104 (第13図)

SK104は長辺2.32m、短辺1.4m以上の土坑である。出土遺物のほとんどが17世紀前～中葉の遺物で、下層遺構の遺物が混入したと考えられる。

SK108 (第13図)

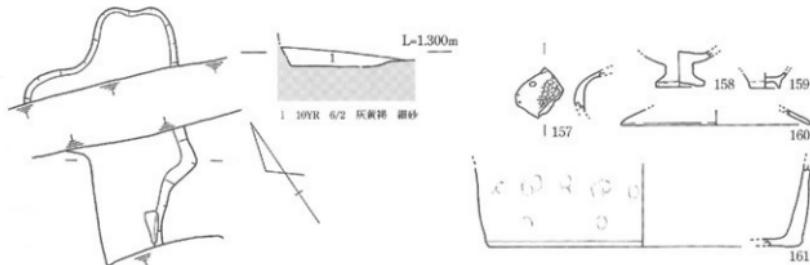
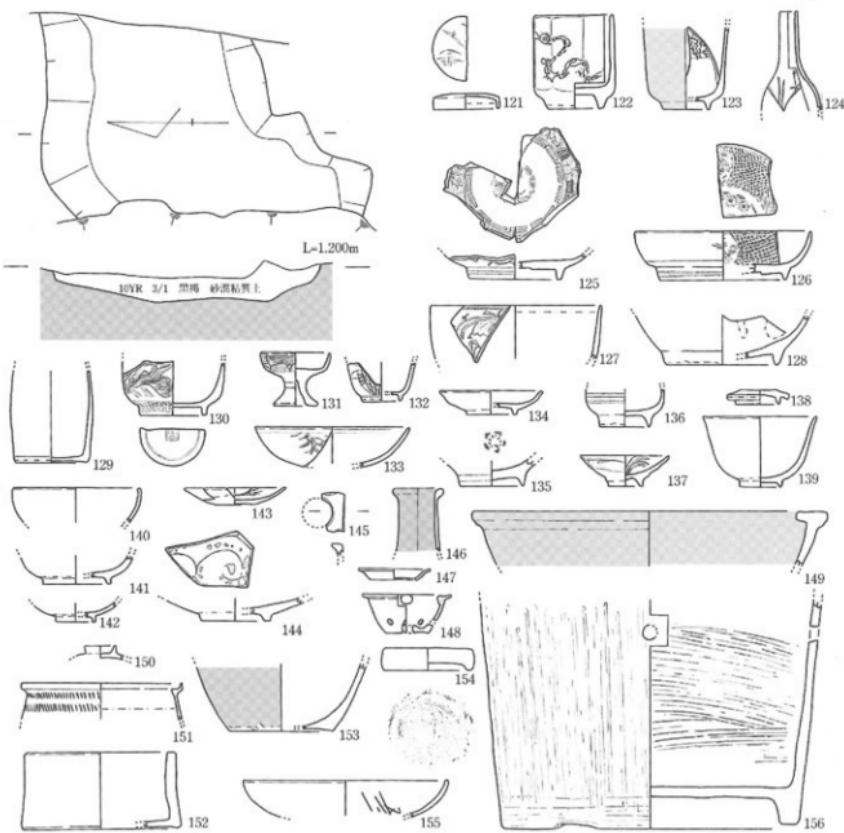
長辺1.4m以上、短辺60cmの溝状の土坑である。深さは7cmで断面形態は浅い皿状を呈する。出土遺物は土師器の小碗や蛇の目凹形高台を有する肥前系磁器など18世紀後半頃の様相を示すが、切り合い関係にあるSK110に明治の遺物が見られることから、明治以降の遺構と考えられる。

SK109 (第13図)

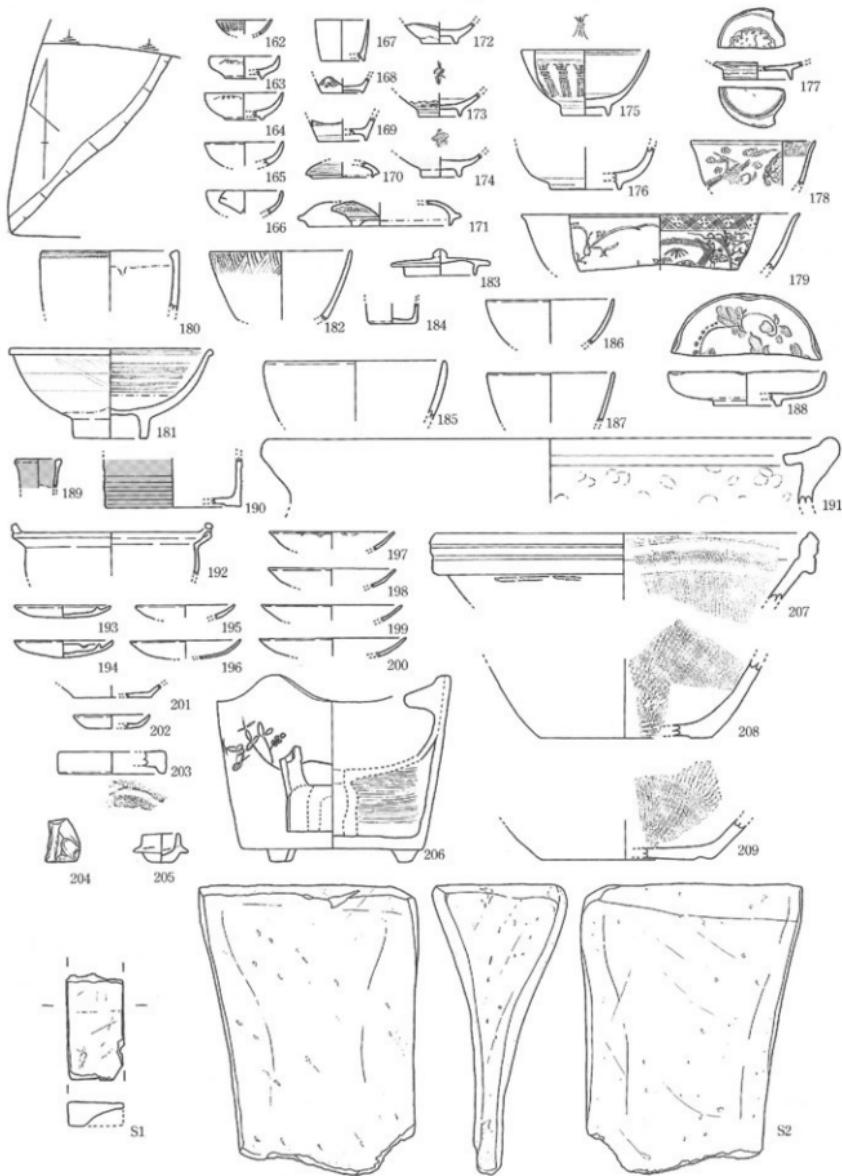
長辺82cm以上、短辺28cm以上、深さ8cmの土坑である。出土遺物は肥前系磁器の広東碗が見られることから19世紀初頭の様相を示すが、SK108同様、切り合い関係にあるSK110に明治の遺物が見られることから、明治以降の遺構と考えられる。

SK110 (第14図)

長辺2.66m、短辺1.5m以上になる不整形の土坑である。SK108・109に切られている。出土遺物は土師質土器、肥前系陶磁器、瀬戸美濃系陶磁器、京信楽系陶器、大谷焼等多種多量に見られるが、全体的に混じりのある資料群で18世紀後半～明治の遺物が見られる。

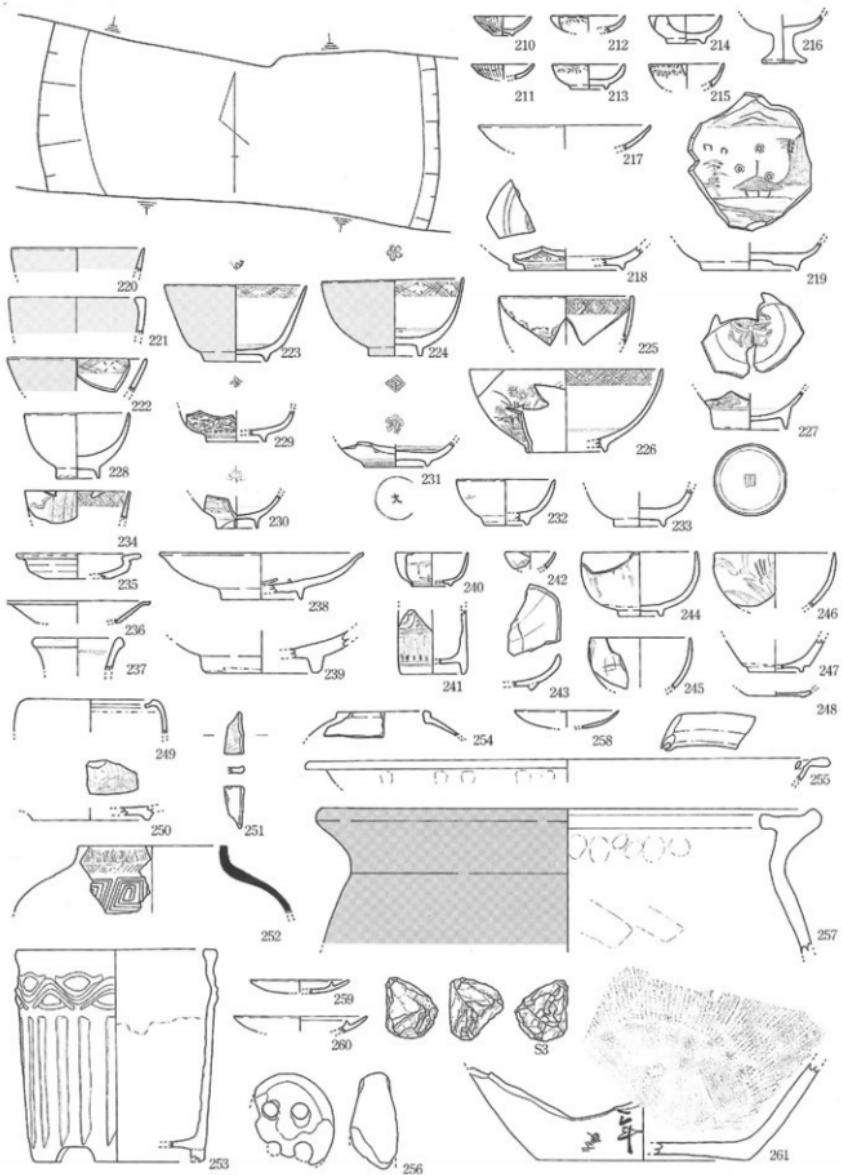


第14図 第1造構面 土坑 平・断面図及び出土遺物実測図②



SK112 (162~179=肥罐, 180~181=肥陶, 182=志野, 183~187=京陶, 188=京陶色, 189~190=不陶, 191~200=207=蜀陶, 201~206=土, 208~209=蜀陶)

第15図 SK112平面図及び出土遺物実測図



SK114 (210~234=四田, 235~239=肥田, 240~242=稻絆, 243~244=圓財, 245~246=印陶色, 247~249=三脚, 250~251=西内, 252~253=不陶, 255~256=土, 257~260=錢財, 261=壁)

第16図 SK114平面図及び出土遺物実測図

SK111（第14図）

長辺2m以上になる不整形の土坑である。埋土は単層で、深さは7cmの浅い皿状の堆積である。出土遺物中には瀬戸美濃系磁器の盃や軟質陶器が見られ、概ね19世紀中葉と考えられる。

SK112（第15図）

調査区の西端で検出した土坑である。遺構は調査区外にのびるが、隣接する高松城跡（丸の内地区）では検出されていないことから、西側へはほとんど延びないことが想定できる。肥前系磁器、京・信楽系陶器、備前焼等が主体を占める。また、ミニチュアの盃、犬の土製品などの玩具類も出土した。19世紀前半の遺構と考えられる。

SK114（第16図）

北と南が搅乱により削平されているが、径3.6mの円形の土坑になると考えられる。深さ74cmを測る埋土は7層に分層でき、各層から多量に遺物が出土した。肥前系磁器、京・信楽系陶器が主体を占め、その他瀬戸美濃系陶磁器、備前焼、火打ち石などが見られる。250・251は瀬戸内焼の可能性が高い。261は明石焼の擂鉢で、外面に「久喜」の刻印と「丁年」の墨書きが見られるが、上部が欠損しているため、年号が不明である。遺構の時期としては外面青磁釉の肥前系磁器碗など18世紀後半の様相を示すものも多いが、瀬戸美濃系磁器など後出する要素を持つ遺物も多量に含むことから19世紀の遺構と考えられる。

SK118（第17図）

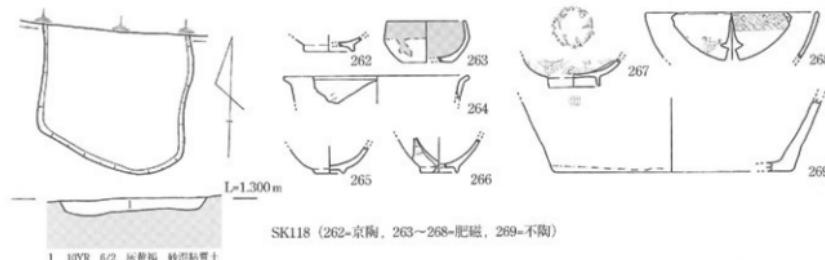
SD106の南側延長部分にあたるため、溝の続きとも考えられるが、深さ、埋土ともSD106と異なることから、別の遺構として取り扱った。北側が搅乱により削平されているが、東西1.22m、南北1.16m以上を測る方形の土坑である。埋土は単層で、断面形状は浅い逆台形を呈する。SK121と切り合い関係にあり、下層のSK121が19世紀の遺構であることから、19世紀以降の遺構と考えられる。

SK121（第18・19図）

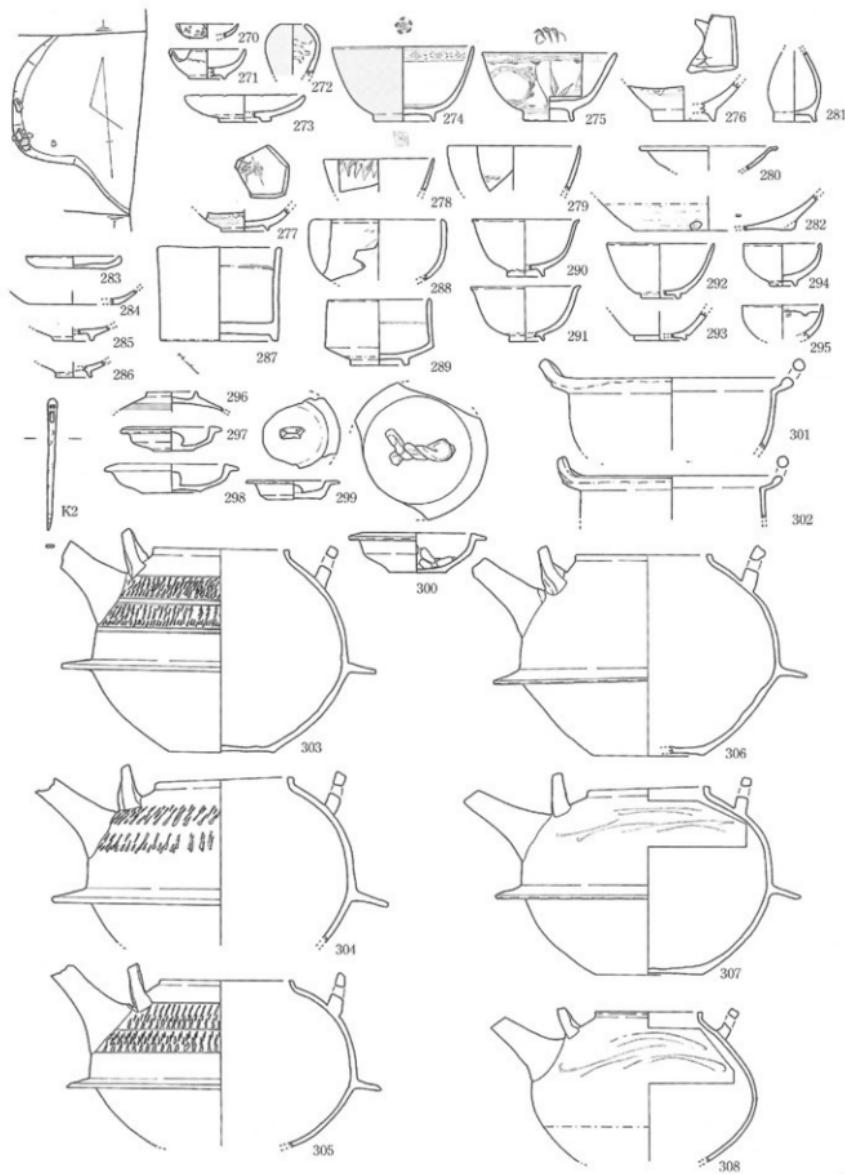
SK118の下層で検出した遺構である。東側は調査区外へ延びるため規模は不明であるが、長辺1.5m以上、短辺1.06m以上、深さ1.15mを測る。埋土は6層に分層でき、上層は調査区東壁断面図の70～75層に該当する。埋土は全体に炭を含むが、特に中層（72層）および下層（74層）に多量の炭が含まれていた。出土遺物は陶器類と木製品が見られる。陶器類は上層（70・71層）から出土した。肥前系磁器、京信楽系陶器、軟質陶器が主体を占める。特に軟質陶器の土瓶が6個体出土しており、いずれも完形に近い。また、最下層（75層）からは下駄、漆器碗等、多量の木製品が出土した。端反碗、軟質陶器が見られることから19世紀の遺構と考えられる。

SK122（第20図）

長辺2.21m以上、深さ32cmの土坑である。埋土は4層に分層できる。外面青磁釉の肥前系磁器碗や京信楽系陶器の煎じ碗などが見られ、18世紀後半の遺構と考えられる。

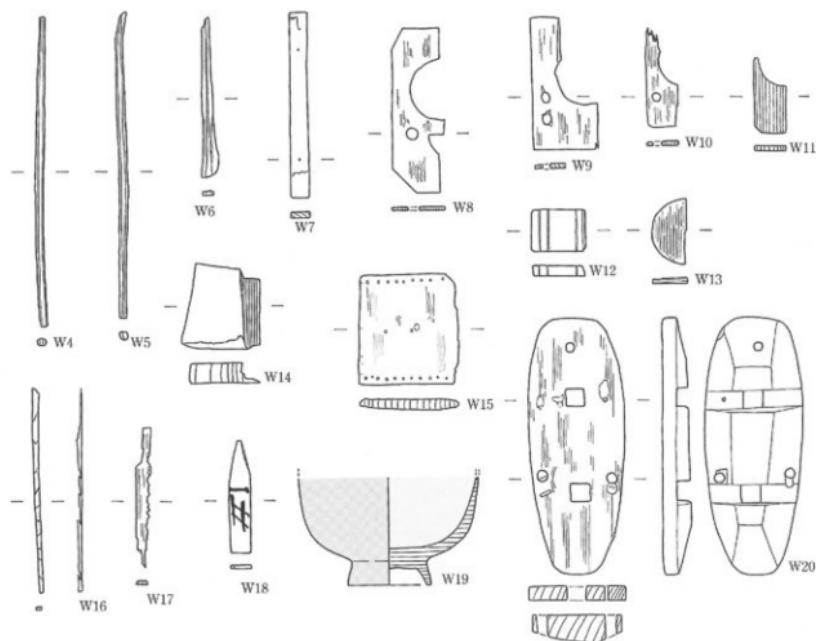


第17図 SK118平・断面図及び出土遺物実測図

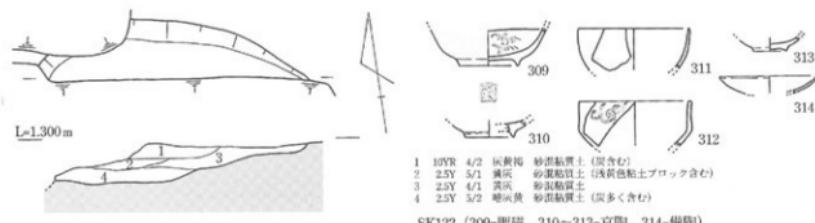


SK121 (270~279=肥磁, 280=肥陶, 281~282=不陶, 283~284=土, 285~295=京陶, 296~308=軟)

第18図 SK121平面図及び出土遺物実測図



第19図 SK121最下層出土木製品実測図



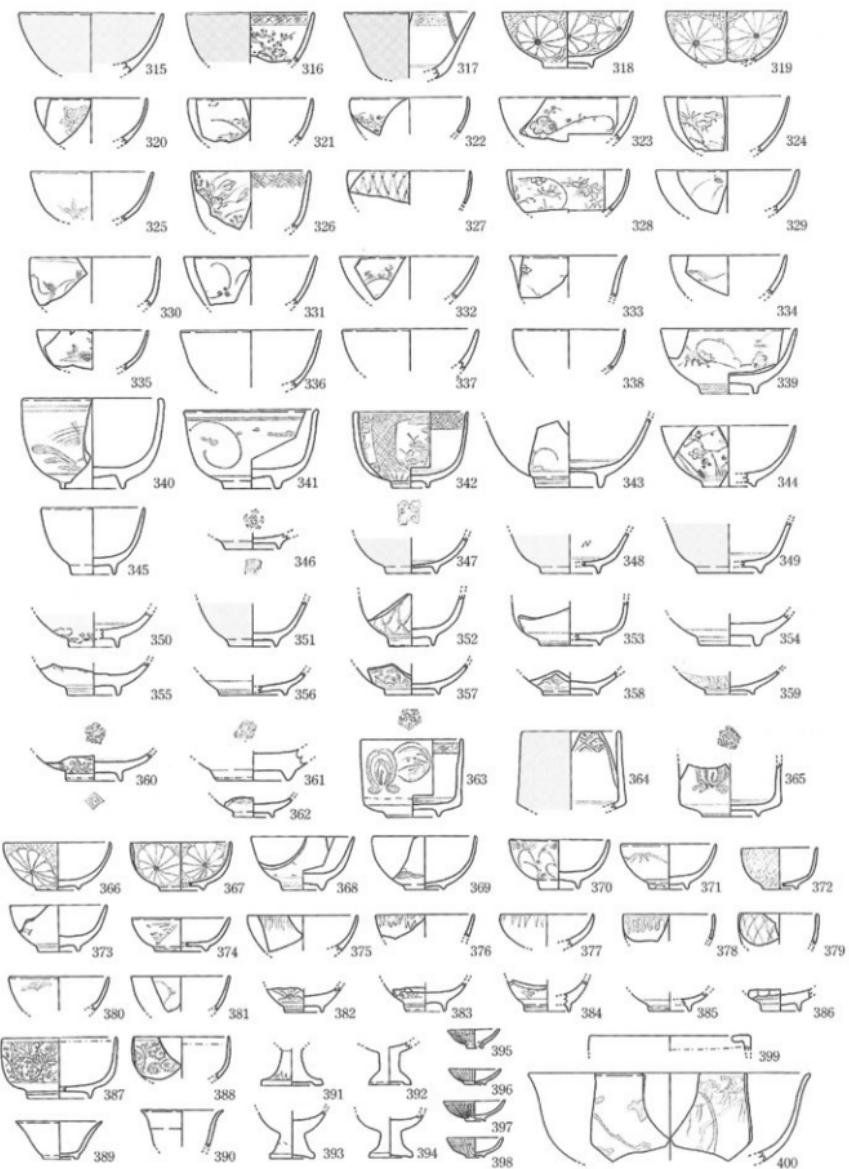
第20図 SK122平・断面図及び出土遺物実測図

SK123 (第21~40図)

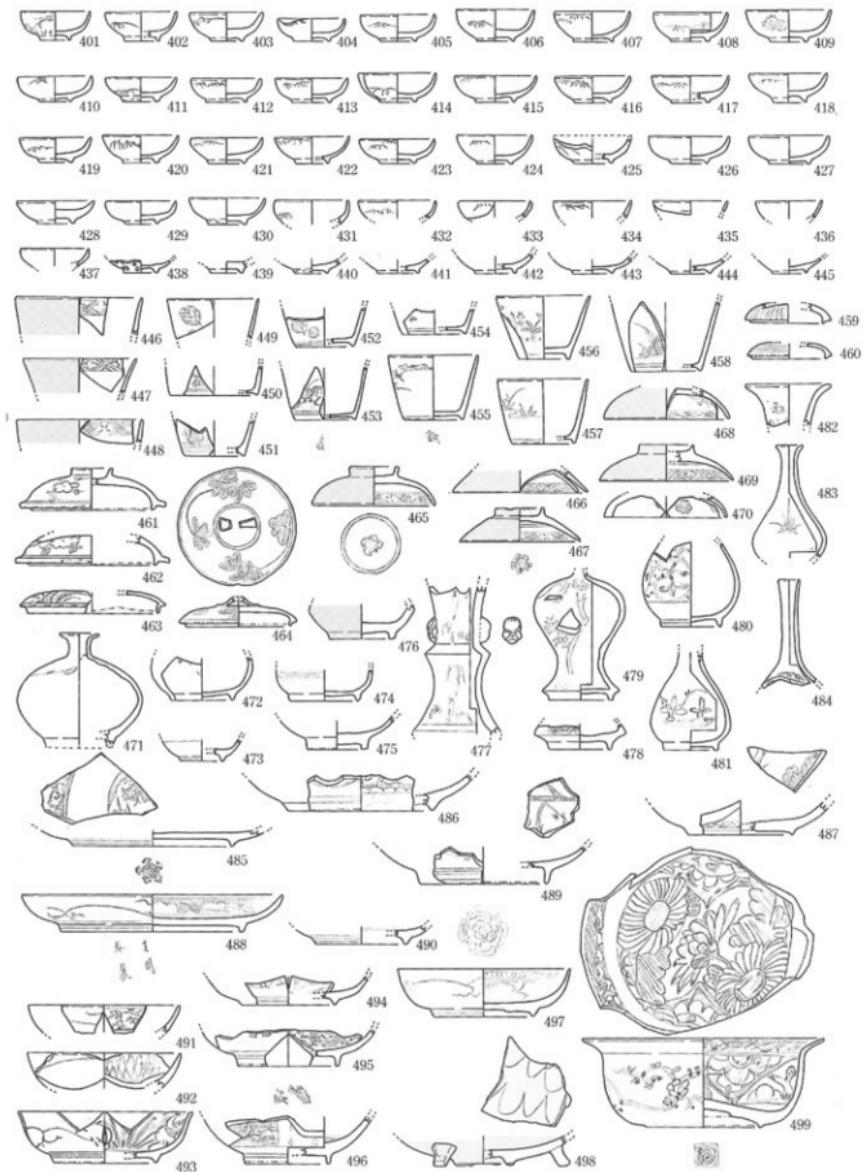
調査区北西隅で検出した大型の土坑である。検出部分の規模は東西約2.9m、南北約3.3m、深さ65cmを測る。検出部分は遺構の南東隅部分と考えられ、西側は高松城跡（丸の内地区）のSK07につながり、東西約4.5mの規模になる。埋土は4層に分層でき、断面形状は逆台形を呈する。出土遺物はコンテナ100箱以上にのぼり、今回の調査で出土した遺物の半数はこの遺構のものである。土器類では肥前系陶磁器、瀬戸美濃系陶器、京信楽系陶器、備前焼。土師質土器等、木器類では漆器碗、曲物、箸等が見られる。その他、馬、人、茄子、社等の土製品やミニチュアの食器類等玩具類も出土した。遺物は遺構内に隙間なく折り重なるようにして検出したが、主に土器類が上層中心に、木器類が下層を中心に出土した。遺構上部が擾乱を受けていたためか、遺構の上面からの掘り込みではなく、遺物の混入がほとんどなく、18世纪第3四半期の良好な資料群と言える。漆器碗や箸が多いことから、饗宴後の後片付けに利用された可能性が考えられる。



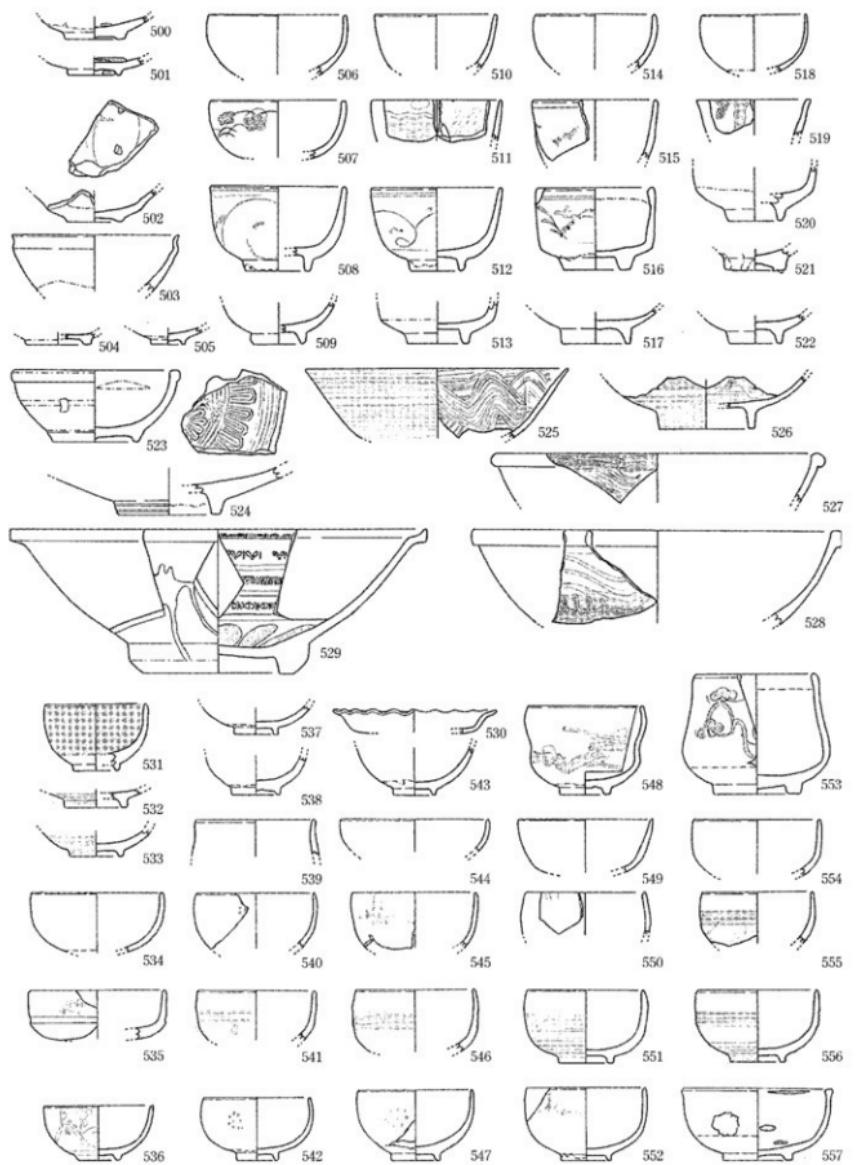
第21図 SK123平・断面図



第22図 SK123出土遺物実測図(肥前系磁器①)

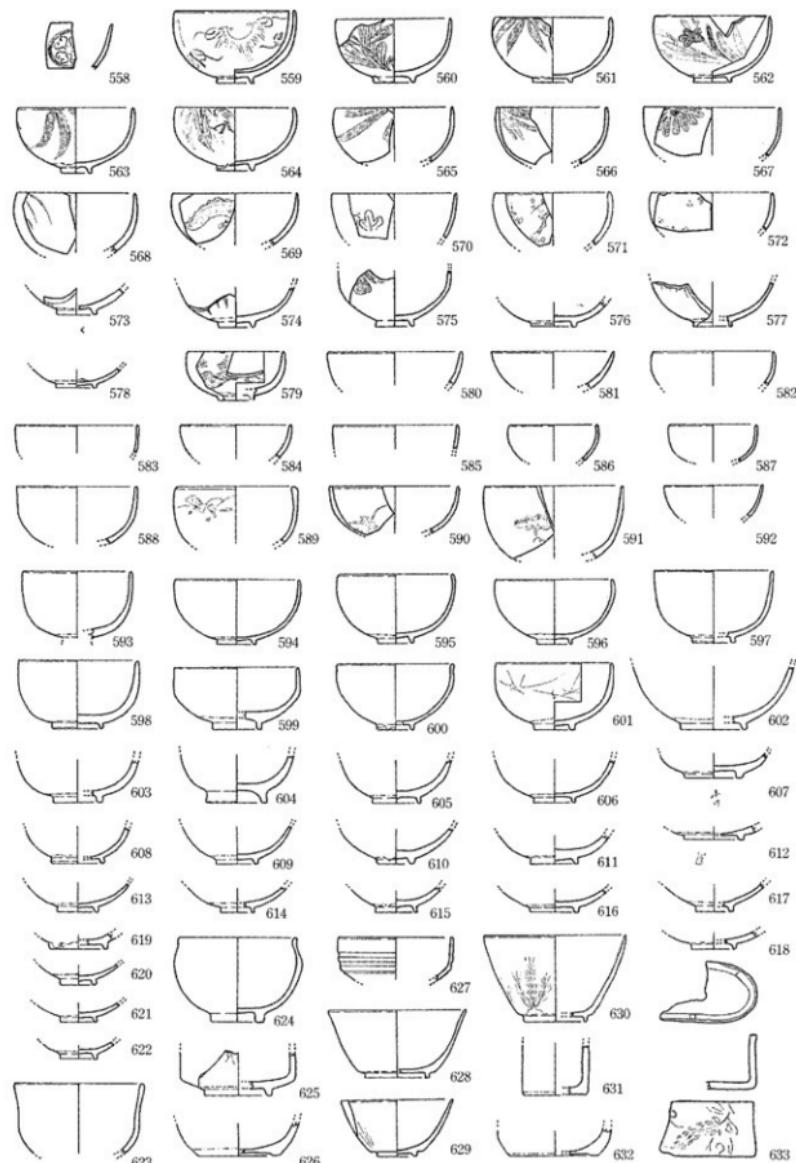


第23図 SK123出土遺物実測図(肥前系磁器②)

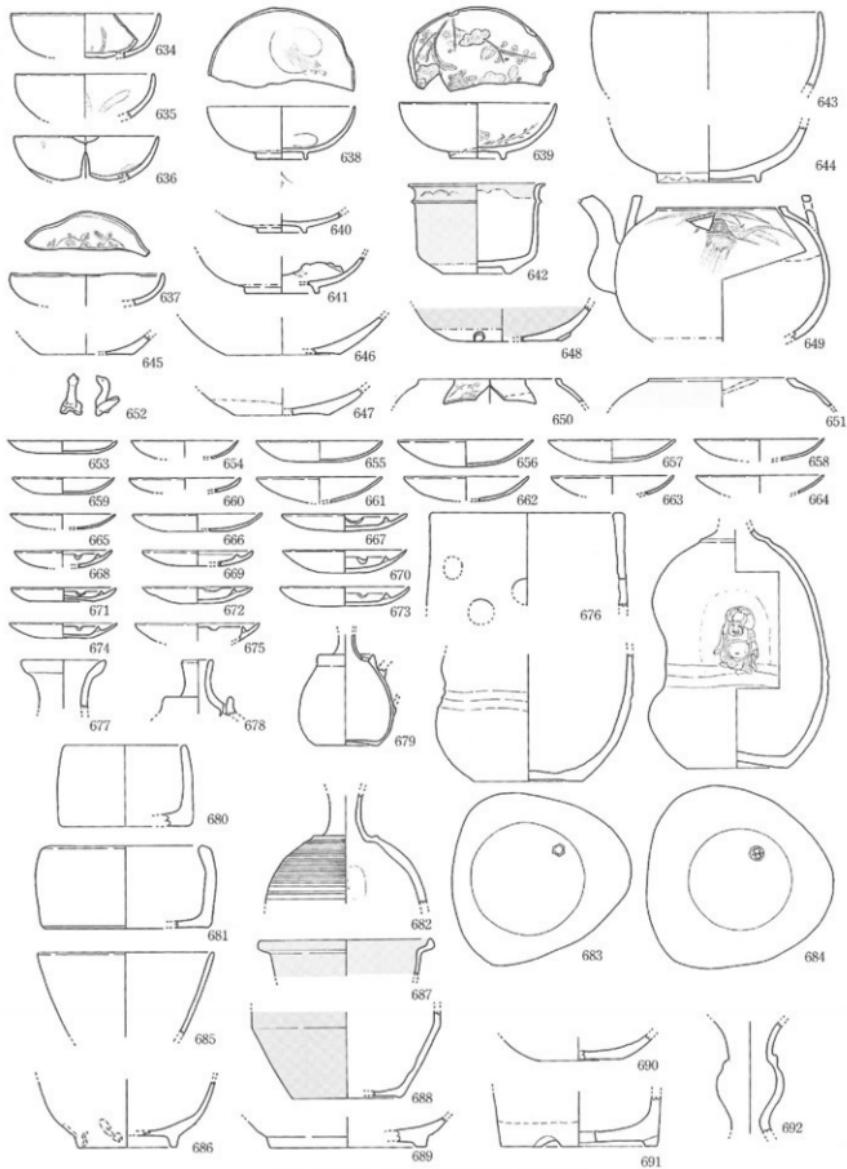


(500~528=肥陶、529~557=漬陶)

第24図 SK123出土遺物実測図(肥前・瀬戸美濃系陶器)

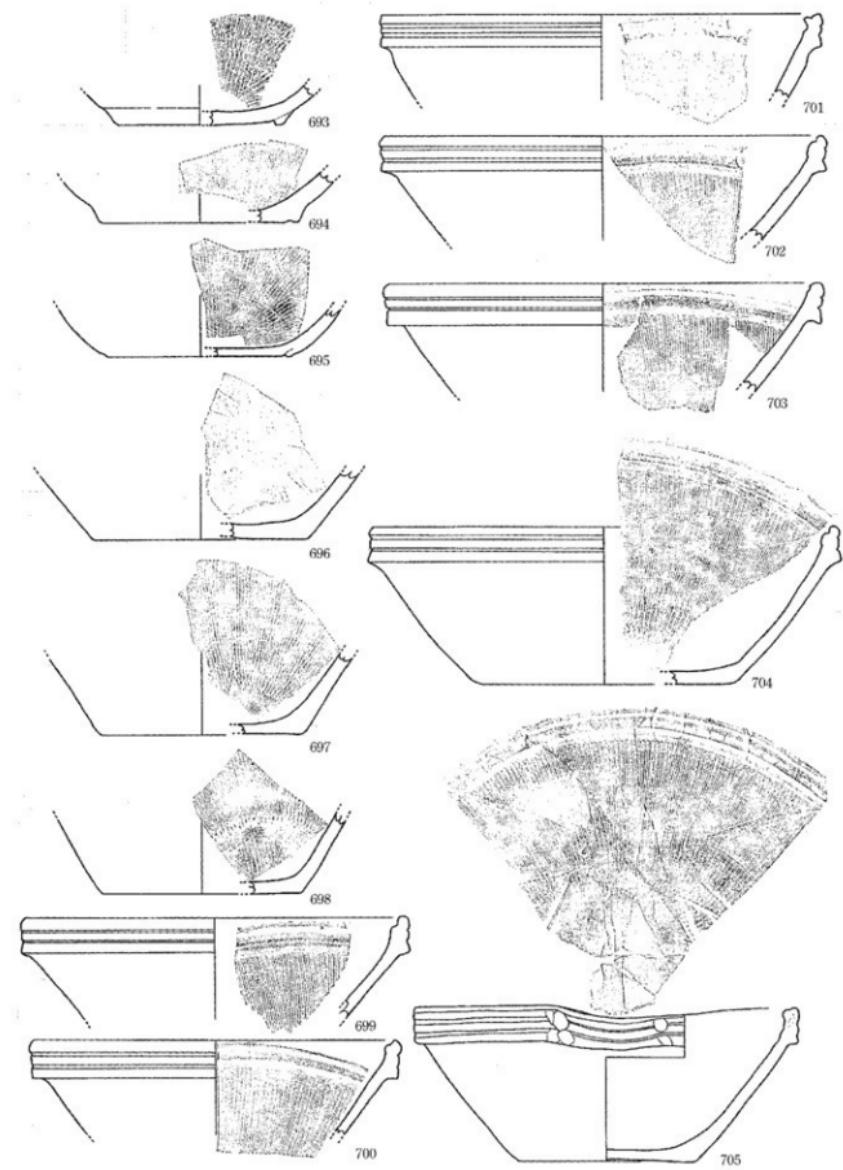


第25図 SK123出土遺物実測図（京信楽系陶器）

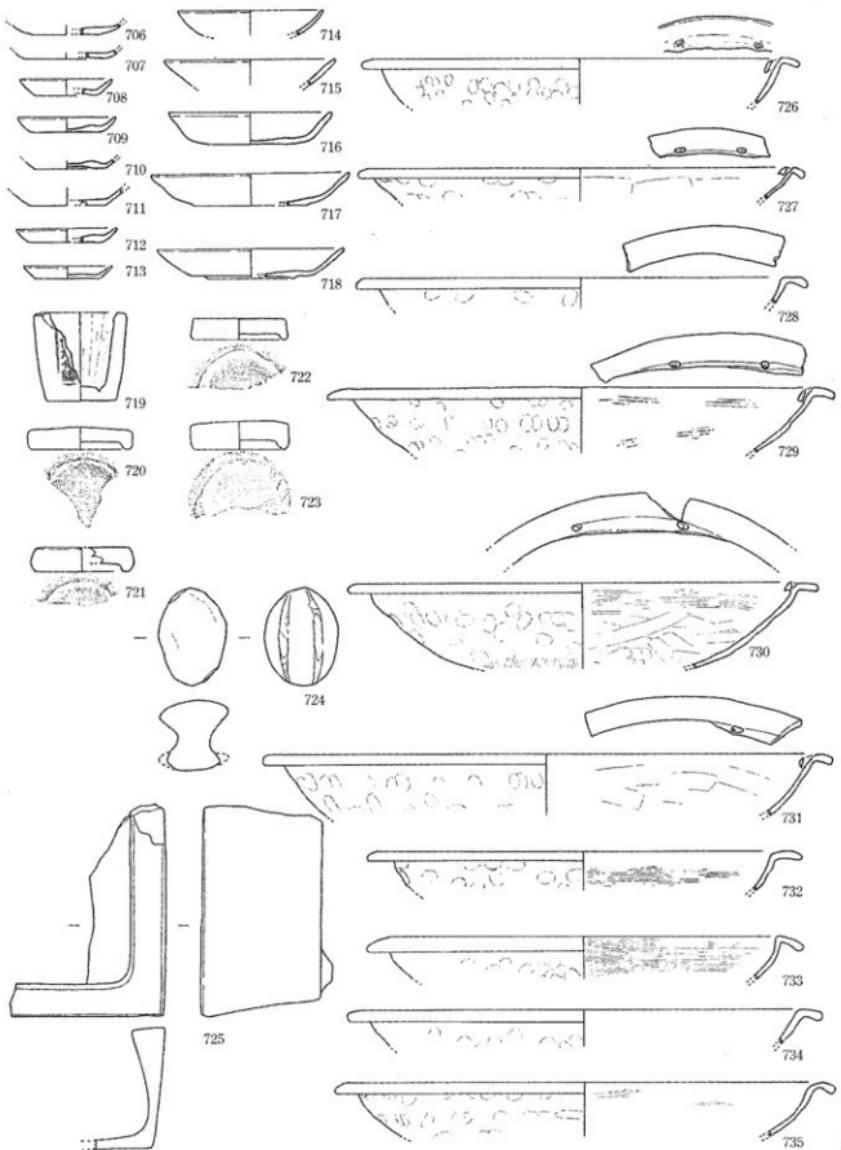


(634~652=京陶、653~684=備陶、685~692=不陶)

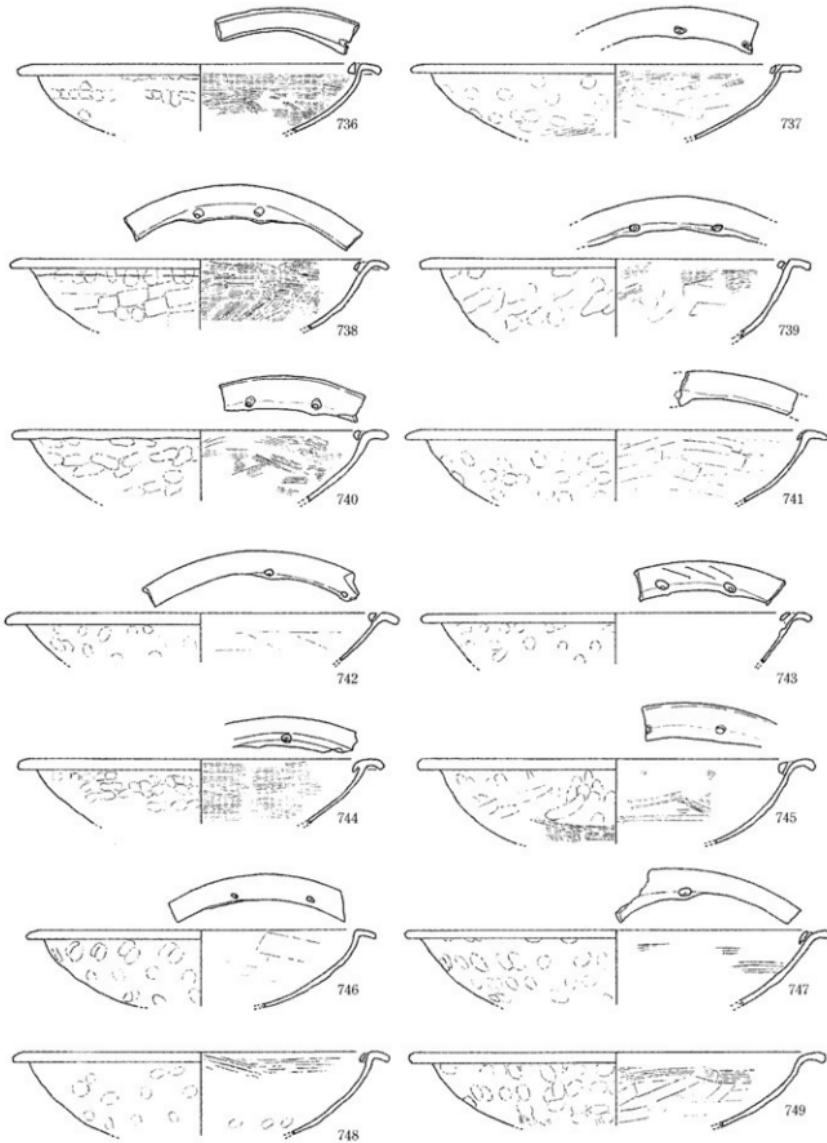
第26図 SK123出土遺物実測図（京信楽・備前・产地不明陶器）



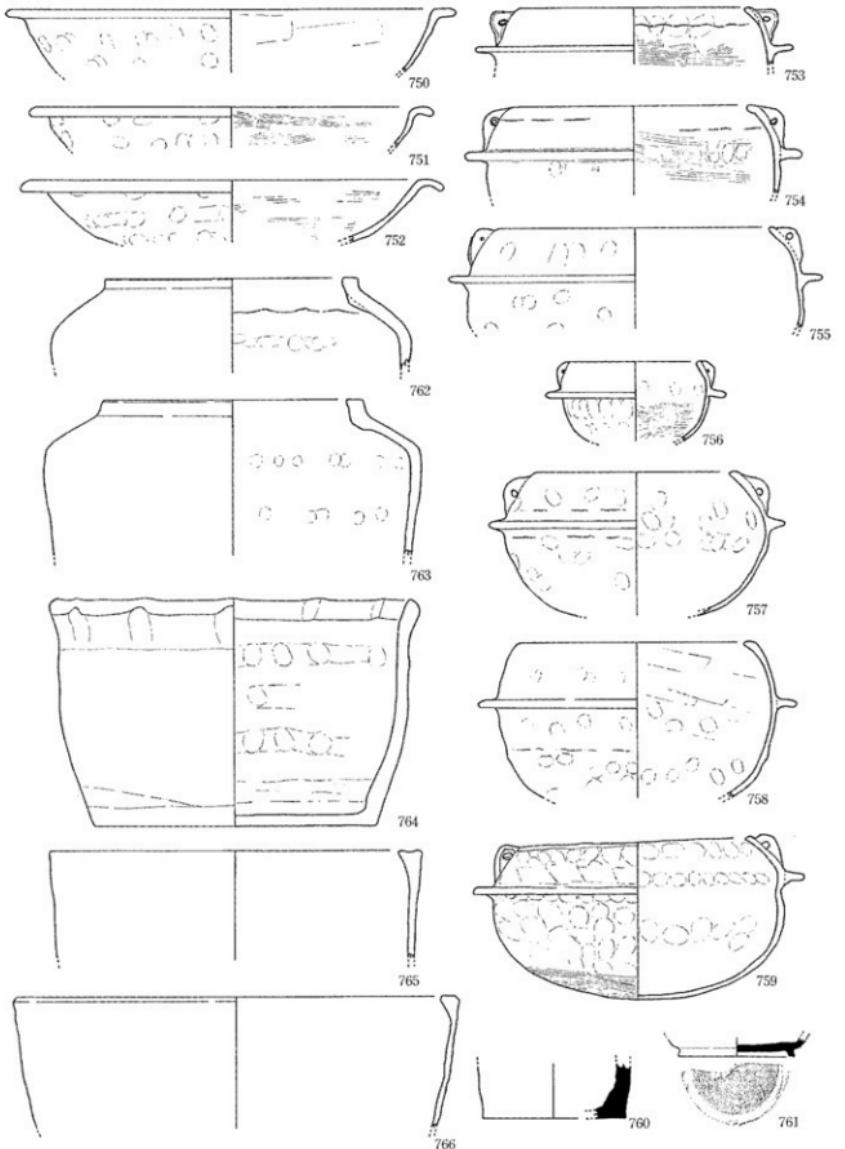
第27図 SK123出土遺物実測図（堺焼擂鉢）



第28図 SK123出土遺物実測図（土師質土器等①）



第29図 SK123出土遺物実測図（土師質土器等②）

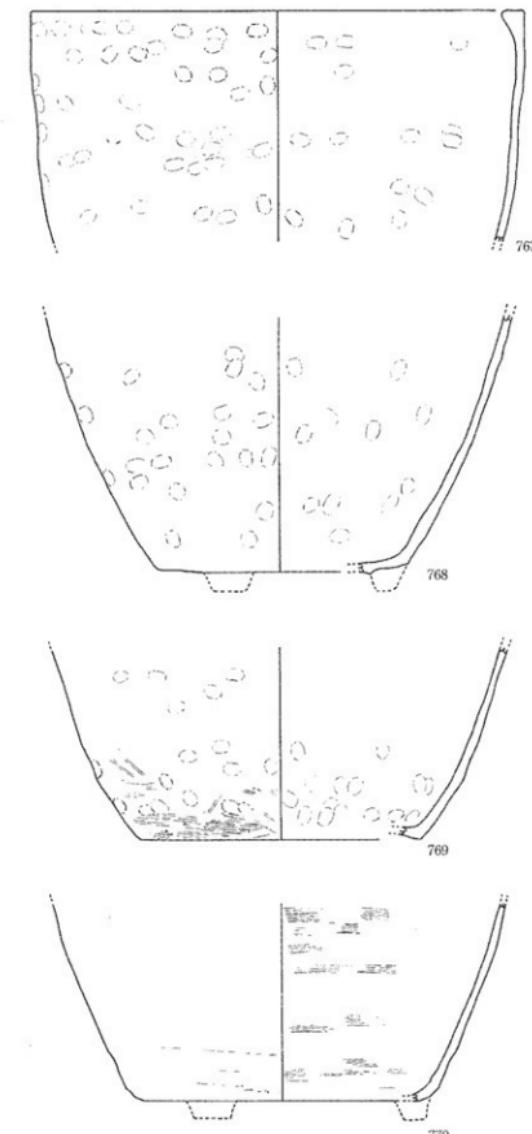


第30図 SK123出土遺物実測図（土師質土器等③）

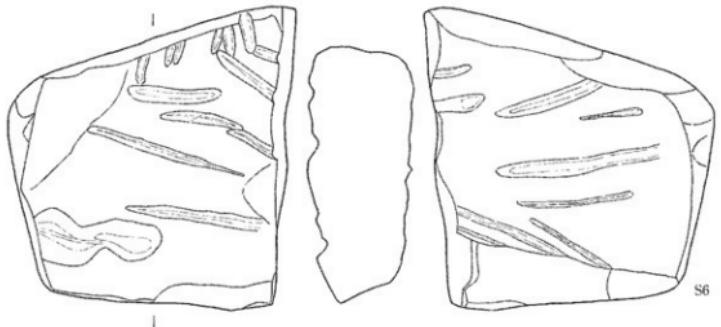
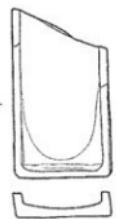
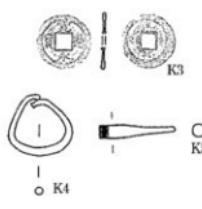
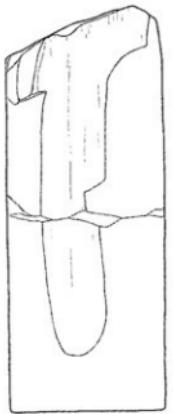
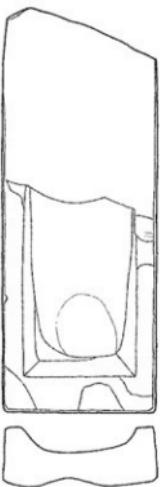
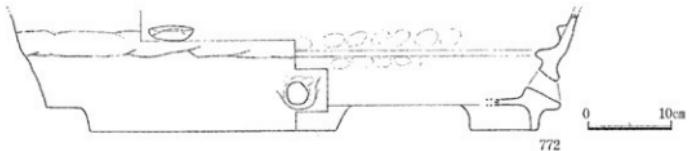
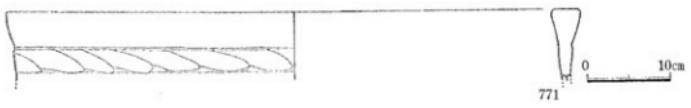
315～499は肥前系磁器である。315～386は碗形態のもので、315～365までの大振りの碗と366～386の小振りの碗に分けができる。316・317・346～351・364は外面青磁釉を施している。318・319・367は内外面ともに菊花散らしが見られる。見込みに施される五弁花文のコンニャク印判は346・347・360・361・363・365の大振りの碗のみに認められる。一方、小振りの碗には375～378に見られるように雨降り文が多い。なお、小振りの碗には盃や仏飯貝の口縁部が含まれていると考えられる。387・388は口縁部内面が無釉となっており、蓋物である。389・390は盃である。391～394は仏飯貝で、無地のものが主体を占めるが、391のように裾部に文様を施すものも見られる。395～398は紅皿で、外面下半を無釉にしている。399・400は鉢である。401～445は紅猪口である。409のはとんどの口縁部に笠の染付けが認められる。446～458は蕃文猪口である。446～448は外面青磁釉、内面四方標が見られる。459～470は蓋である。459・460は小型で合子の蓋と考えられる。461～464は口縁部に返しが付いており、盃・蓋物の蓋と考えられる。465～470は碗の蓋である。465～469は外面青磁釉、内面四方標が見られる。471・472は油盃である。473～475は内面が無釉であり、瓶と考えられる。476～478は花生である。476は青磁釉。477は人面の耳が付く。480～484は鶴首瓶である。485～499は皿である。488は見込みに五弁花文高台内に「大明年製」の名が見られる。497・499は蛇の目四形高台を有する。498は青磁の脚付きの皿である。

500～529は肥前系陶器である。500～503は胎土日や砂目を有する皿・碗で17世紀前半のもので混入品と考えられる。504～522は碗である。508・512・515・516のように陶胎染付も多い。また、513・516のような筒形碗も見られる。523～529は鉢である。525・526は刷毛目が見られる。

530～557は瀬戸美濃系陶器である。530は口縁部波状の皿である。531～556は碗である。536・542・545・547・550・552は陶胎染付である。557は鉢で、内外面に溶着痕が見られる。



第31図 SK123出土遺物実測図（土師質土器等④）



第32図 SK123出土遺物実測図（土師質土器・金属器・石器）

558は理兵衛焼である。口縁部の小片であるが、薄手の碗形態になると考えられる。青色の上絵付けて松平大膳家の家紋である丸に中陰四つ葵の家紋が描かれている。

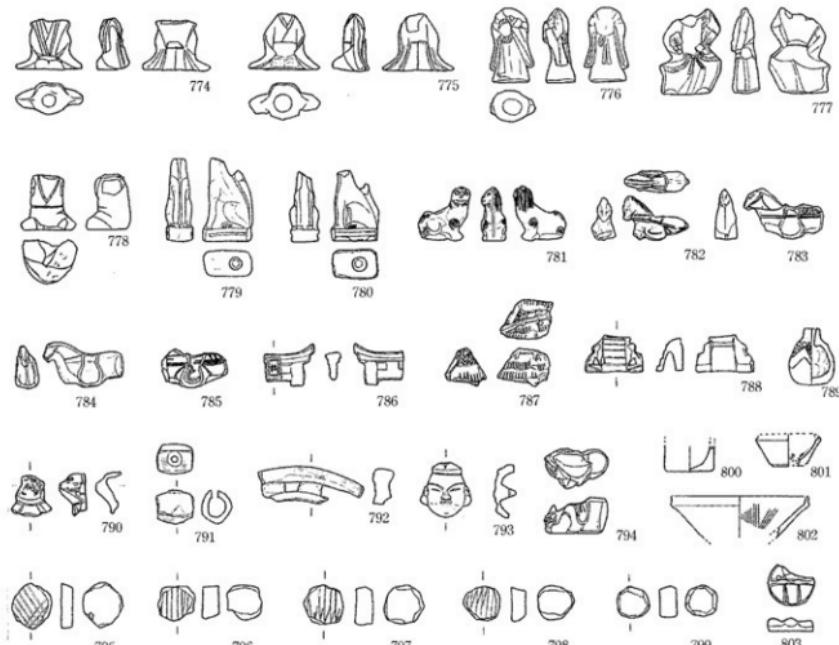
559～652は京信楽系陶器である。559～630は碗である。559～579が色絵である。559は吉祥文、561・563・564は芭の葉が描かれている。570・571には一部金の使用が認められる。631～633は鉢である。634～641は皿である。634～639は色絵である。642～644は鉢である。642は外面青磁釉で、内面無釉である。645～652は土瓶である。652は注口根元の飾りと考えられる。

653～684は備前焼である。653～675は灯明皿で、653～666のような皿形態のものと、667～675のように返しが付くタタイプの2種類見られる。いずれも口縁部には煤が付着している。676は不明の製品で、円孔が見られる。677は瓶の口縁部である。678・679は油徳利である。体部上半に油垂れを防ぐ返しと円孔が見られ、679のように取っ手が付く。680・681は鉢である。682～684は徳利である。683・684は底部に刻印が見られる。

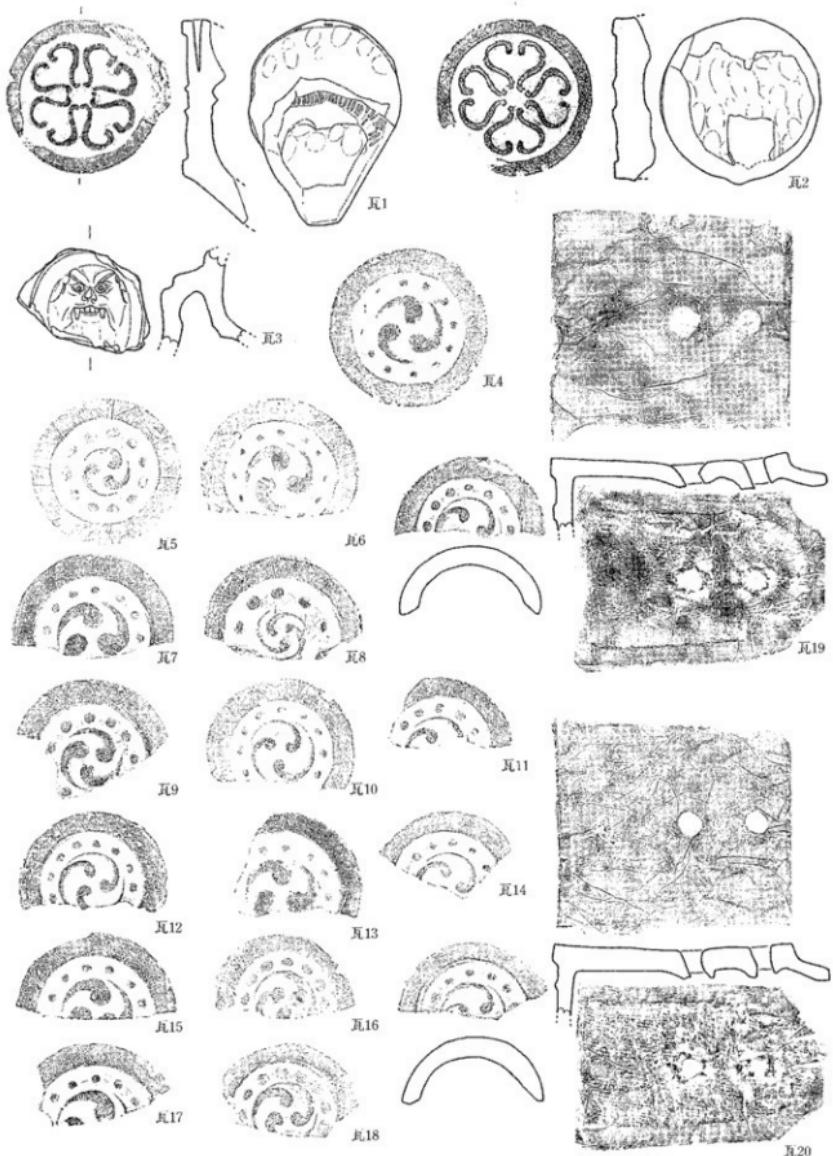
685～692は产地不明の陶器である。685・686は碗。687～690は鉢である。691は底部に円孔が見られることから植木鉢、692は花生である。

693～705は堺または明石焼の擂鉢である。693～695には形駿化した高台が見られる。705は見込部分に放射状の擂り目が見られる。

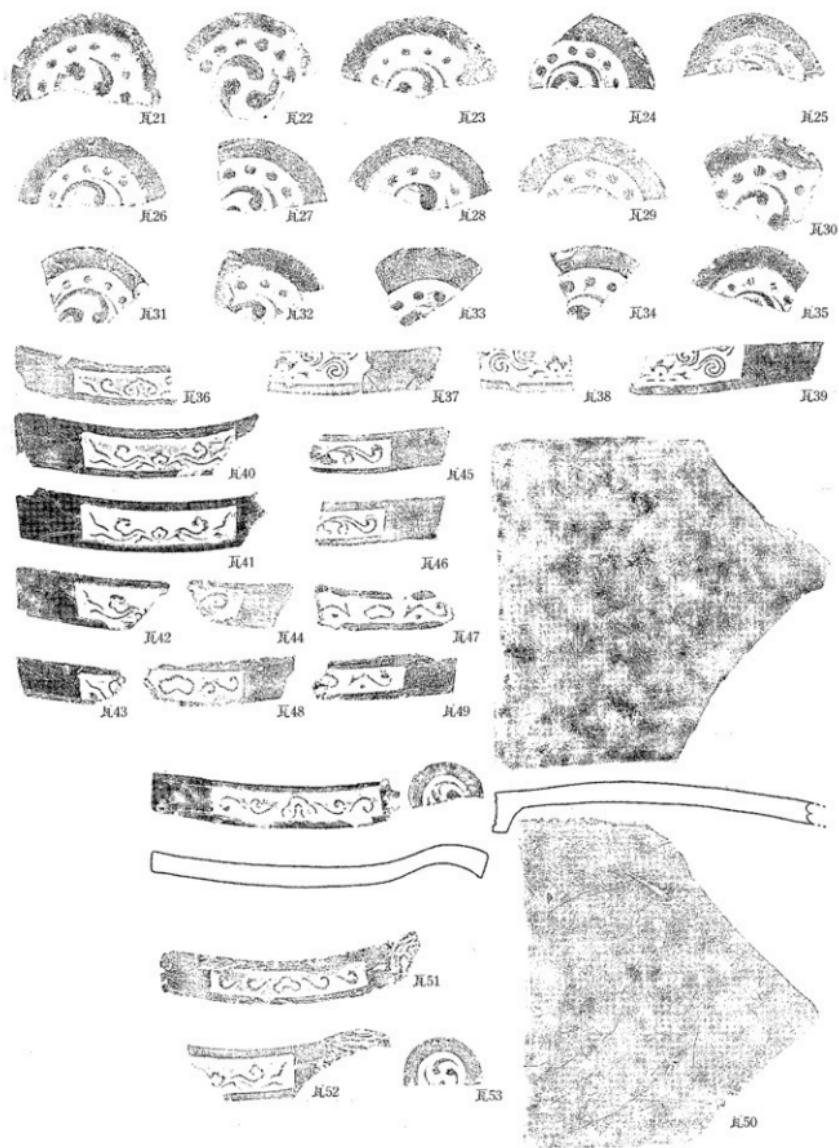
706～773は土器類である。706～718は皿である。719は焼塩壺で、外側には刻印が見られる。720～723は焼き塩壺の蓋で、内側には布目压痕が見られる。724は土鍤である。725は瓦質の火鉢で、四隅に脚が付く。726～752は土師質の焰烙である。内耳の幅は狭く、円孔も貫通しないものや、貫通していても不十分なものが多い。外側は指頭压、内側は一部板ナデのものも見られるが、ヨカハケのものが多い。753～759は羽釜である。760・761は漬入品の須恵器である。761の底部には爪痕が数多く残る。762～770・773は火鉢と考えられる。762・763は体部上半が内傾し、短く直立する口縁部をもつ。764は口縁が波状で、浅い鉢のような形態を呈する。765～770・773はやや深めで、底部に3方向の脚をもつ。771は井戸枠、772は風呂釜である。



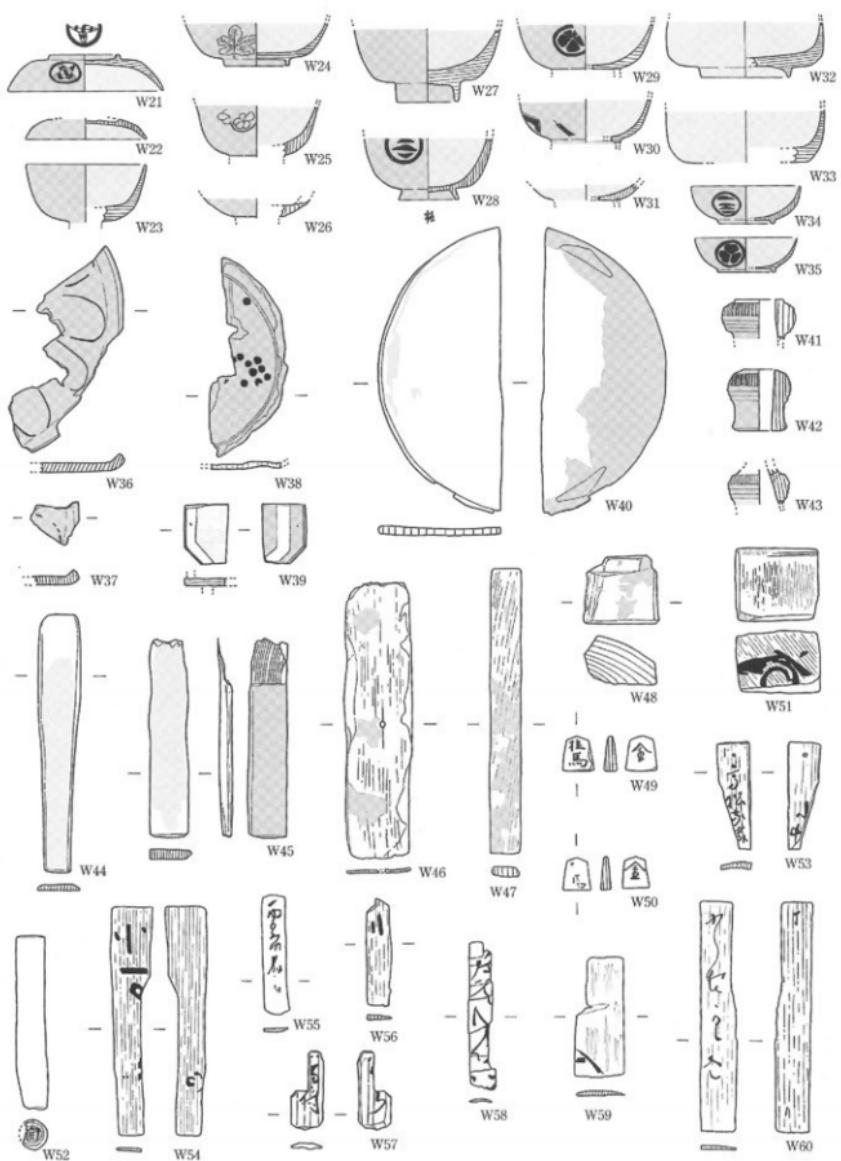
第33図 SK123出土遺物実測図（玩具類）



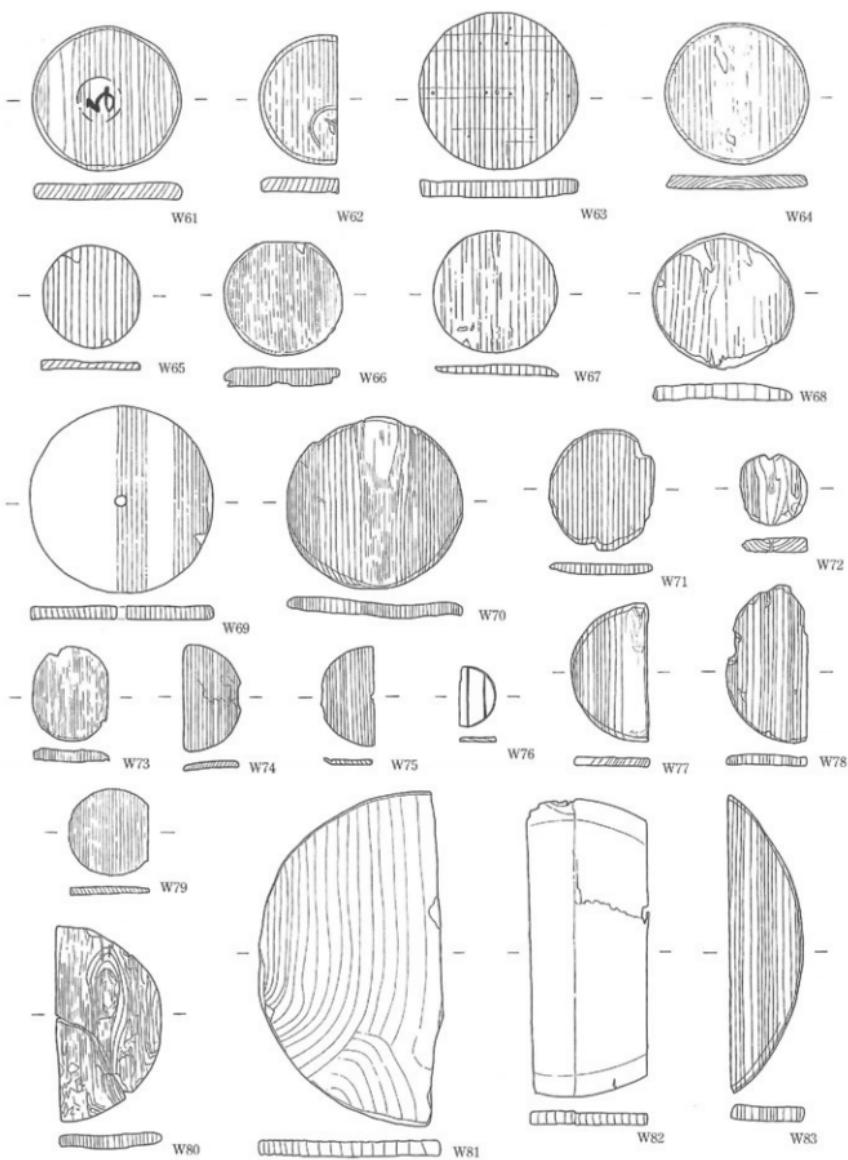
第34図 SK123出土瓦拓本①



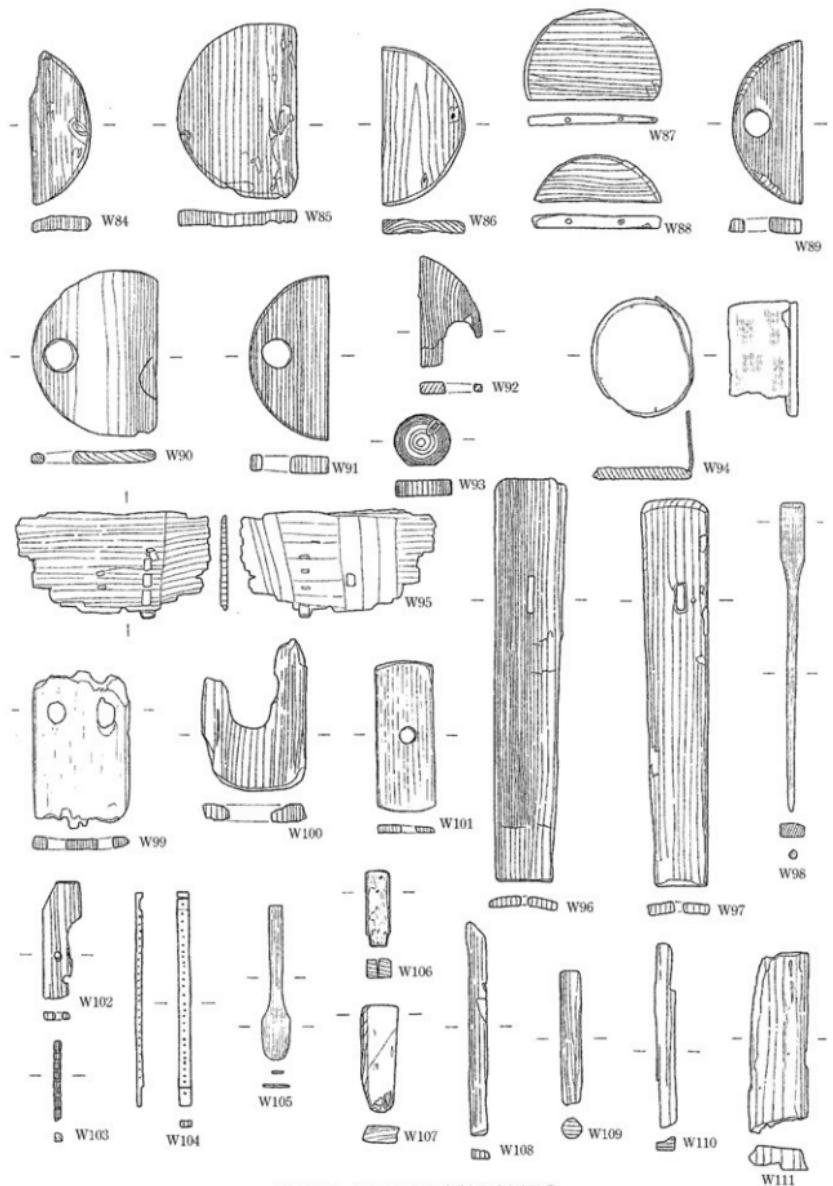
第35図 SK123出土瓦拓本②



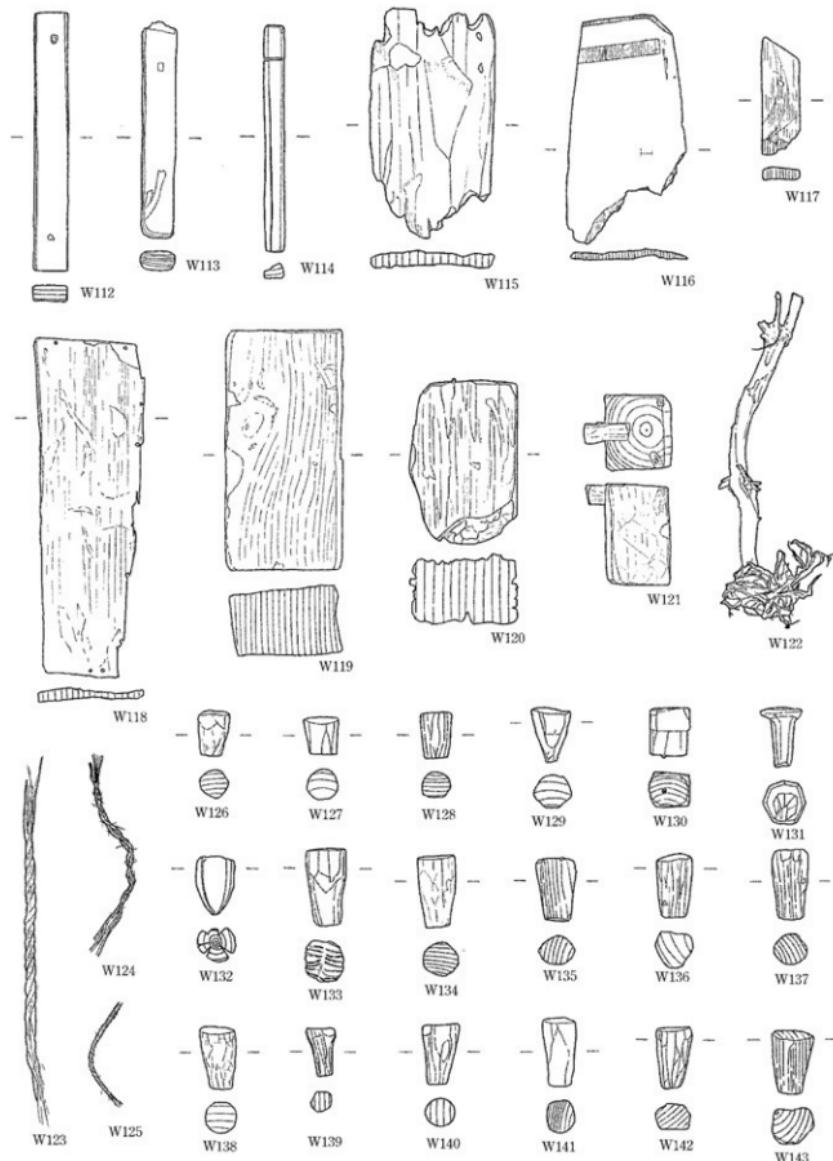
第36図 SK123出土木製品実測図①



第37図 SK123出土木製品実測図②



第38図 SK123出土木製品実測図③



第39図 SK123出土木製品実測図④

K3～K5は金属製品、S4～S6は石製品である。K3は寛永通宝、K4は輪状の製品、K5は煙管の吸口部分である。S4・S5は硯である。S6は豊島石を加工したものである。

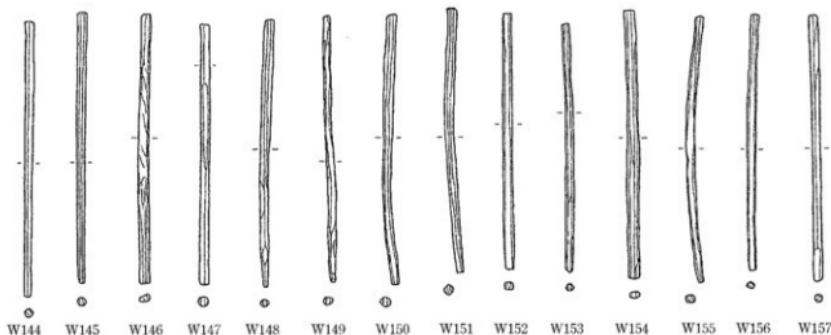
774～803は玩貝類である。774～778は人形、779・780は御稚荷さんである。781は狹犬と考えられ、陶器製である。782～785は鷹馬、786は鳥居、787は家の屋根、788は天神さん、789は茄子、790は猿、791は打ち出の小槌である。792は箱庭用の橋の欄干で陶器製である。793は顔形の芥子面、794は人形で、水滴の可能性もある。795～799は円盤で、795～798は擂鉢、799は瓦を転用している。800～803はミニチュア土製品で、801・802は陶器製の擂鉢である。803は蓋で、表面の一部に金箔が見られる。

瓦も多量に出土したが、今回は軒丸・軒平瓦で残りのいいものを掲載した。瓦1～3は鬼瓦の一部になると考えられる。瓦1・2は松平大膳家の家紋である丸に中陰四つ葵が見られる。瓦4～35は軒丸瓦、瓦36～49は軒平瓦、瓦50～53は軒棟瓦である。

木製品も多量に出土した。W21～W33は漆器の椀・蓋である。W21～W30は外面黒漆、内面朱漆、W31～W33は内外面とも朱漆である。外面に見られる家紋および文様は金で描かれている。朱塗椀は外面黒漆のものよりも大型で、腰が張る。W34・W35は外面黒漆、内面朱漆の漆器の盃である。外面には家紋が見られ、W35は三つ葵が見られる。高松藩の慶喜の三つ葵とは異なり、葉脈が無く、葉先に点が見られる。松平一族の家紋と考えられるが、誰の家紋であるかは不明である。W36～W40は漆器の盆である。W36～W38は朱漆で文様が施されている。W41～W43は傘の軸である。その他、W44～W48のような漆製品が見られる。W49～W60は墨書が見られるものである。W49・W50は持櫛の駒で、桂馬である。W51・52は建築部材と考えられる。W53～W60は木筒である。W53は表面「高松家中」裏面「小鳴」、W54は「小一」、W55は「中村御宿」の記載が見られる。W60は表面「登得里さ」と意味不明の文字列があり、裏面に梵字が認められることから呪符木筒と考えられる。W61～W93は曲物や桶の底なし上蓋と考えられる。W61・W62・W90のように焼き印が見られるものもある。W87・W88は同一個体と考えられ、切断面に2個の穴が見られ、2枚の板を接いで使用していたと考えられる。W94・W95は曲物である。W96・W97は桶である。桶も多量に出土している。W99は下駄である。W100～W102は長方形の板材に穿孔したものである。W103は棒状の製品で、刻み目が見られる。W104も棒状の製品で、両端に抉りが見られ、正面及び側面に非常に小さい穴をあけた痕が見られる。W106～W121は建築部材と考えられる。W122は自然木であるが、盆栽の可能性が考えられる。W123～W125は縄である。W126～W143は栓である。掲載した以外にも多量の栓が出土している。W144～W157は箸である。箸也非常に多く、破片も含めると数百本が出土した。図示した以外にも、箒、櫛等数多くの木製品が出土している。

その他の自然遺物としては魚の骨、ニシ貝、獸骨、モモの種も若干見られた。

SK123出土物中には松平大膳家の家紋（丸に中陰四つ葵）入り理兵衛焼（558）、瓦（瓦1・瓦2）が出土したことから同地が松平大膳家の屋敷内であったことが確実となった。



第40図 SK123出土木製品実測図⑤

SK125 (第41図)

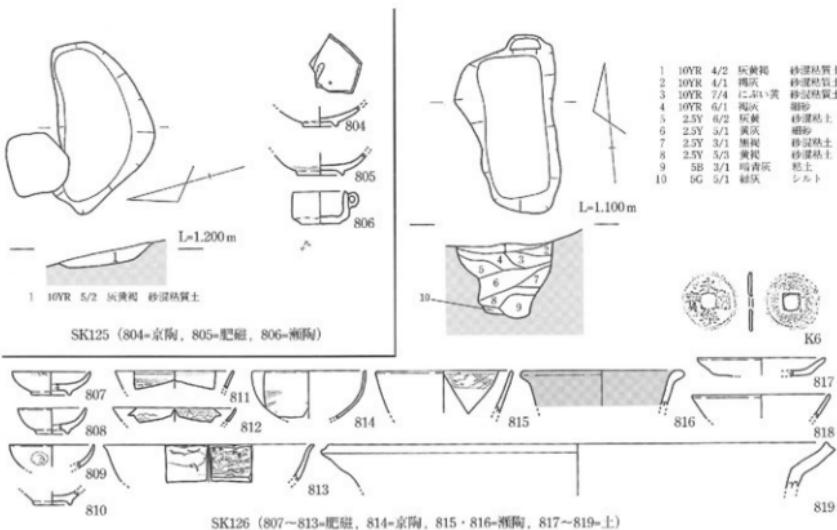
SK123の東側で検出した土坑である。長辺138cm、短辺79cm、深さ20cmを測る。埋土は単層で、断面形状は逆台形を呈する。出土遺物の中には瀬戸美濃陶器の鉢猪口が見られる。また、漆器碗も出土したが、原形をとどめないほど腐蝕が進んでいた。18世紀後半～19世紀の造構と考えられる。

SK126 (第41図)

長辺1.46m、短辺81cm、深さ91cmを測る長方形の土坑である。造構北側には1段段差が見られる。断面形状は逆台形を呈し、10層に分層できる。上層は砂混粘質土、中層は細砂、下層は砂混粘土に大別できる。出土遺物は肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、土師器等の他永楽鏡が見られる。18世紀後半頃の造構と考えられる。

SK127 (第41図)

長辺70cm、短辺47cm、深さ13cmを測る楕円形の土坑である。土坑北端には土師質土器の甕が埋め込まれていた。甕内部からは寛永通宝が出土した。切り合ひ関係にあるすべての造構を切っていることから19世紀以降の造構と考えられる。



第41図 第1造構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図③

SK128（第42図）

SK125・127、SD106に切られている土坑である。南側は搅乱で不明であるが、長辺1.45m、短辺70cm、深さ35cmを測る。断面形状はU字を呈し、3層に分層できる。出土遺物は肥前系陶磁器、京信楽系色絵陶器、備前焼、土師質焰硝の他、土師質土製品の大神さん、火打ち石等も見られる。19世紀初頭の遺構と考えられる。

SK129（第42図）

SK127、SD106に切られている土坑で、これらの遺構を掘削して検出した土坑である。長辺94cm以上、短辺79cm、深さ46cmを測る長方形の土坑である。断面形状はU字を呈し、3層に分層できる。出土遺物は肥前系磁器、京信楽系陶器、瓦質土器がある。19世紀初頭の遺構と考えられる。

SK135（第42図）

SK134、SD106に切られている土坑で、これらの遺構を掘削して検出した土坑である。南側は搅乱、東側は調査区外へ延びるため規模は不明である。埋土は単層で、第3図の88層に該当する。出土遺物は肥前系磁器、京信楽系陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼等がある。18世紀後半の遺構と考えられる。

SK136（第43図）

SD106・SK127～129等の遺構密集部分の下層で検出した遺構である。検査面は第2遺構面と同レベルで検出しているが、SK139を切っていることから18世紀後半～19世紀初頭で、第1遺構面の遺構と考えられる。断面形状は逆台形で、中央のみ1段浅く落ち込んでいる。出土遺物は肥前系陶磁器、土師器がある。

SK137（第43図）

搅乱により形状・規模は不明である。切り合ひ関係から18世紀後半～19世紀の遺構と考えられる。

SK138（第43図）

径約50cmの円形の土坑で、深さ約22cmを測る。埋土は単層で、断面形状は逆台形を呈する。遺構内には腐蝕した漆器椀、備前焼鉢（860）、肥前系陶器不明製品（857）を埋納していた。18世紀前半頃の遺構と考えられる。

SK139（第44～47図）

長辺約6.5m、短辺3.75m、深さ1.58mを測る大型の土坑である。埋土は5層に分層でき、上層は砂混粘質土、下層は粘土である。遺物は肥前系陶磁器、瀬戸美濃系陶磁器、京信楽系陶器、備前焼、軟質陶器、土闆器等の他、備前焼陶器のミニチュアの兜、鉢玉が見られる。遺物の時期は18世紀後半～明治のものまで含むが、明治期の遺物については後述する井戸のものと考えられ、遺構自体の時期としては概ね18世紀後半が考えられる。なお、混入品には弥生土器も見られる。

SE101（第44・48図）

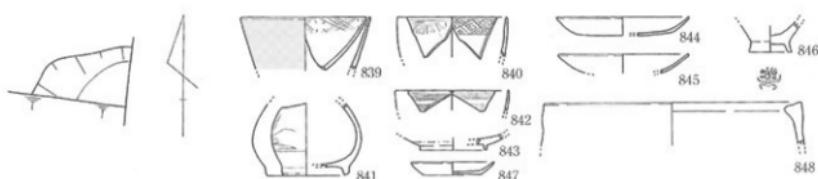
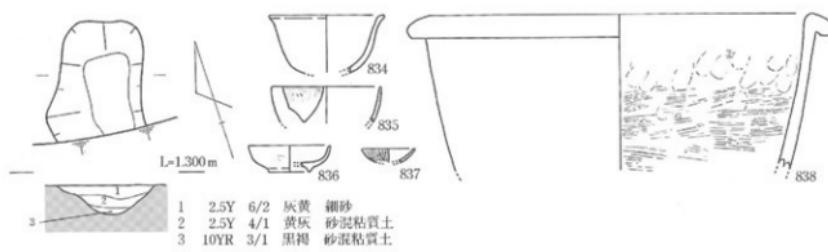
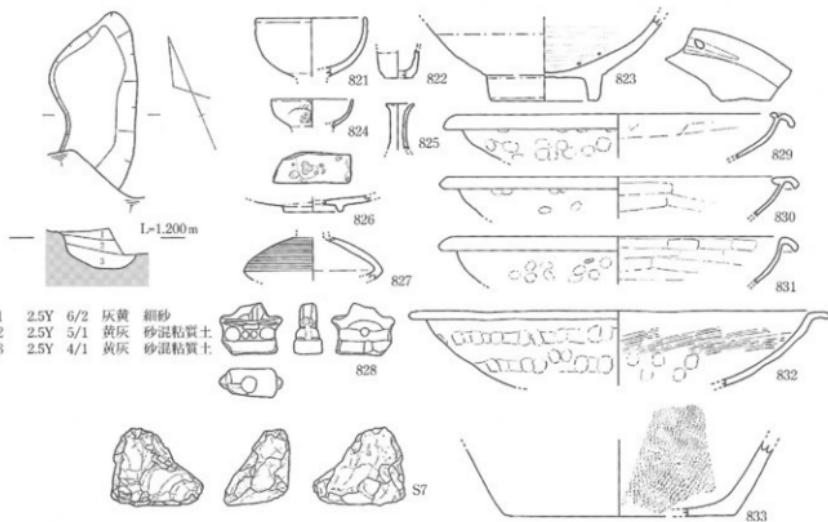
SK139掘削中に検出した井戸で、断面観察の結果、SK139の上面より掘り込んでいることが判明した。このため、掘り方部分の正確な規模は不明であるが、東壁断面によると径1.13m以上、深さ1.90mを測る。井戸枠は高さ約1m、径60cmの土師質の円筒で、2段積まれていたと考えられる。井戸枠内出土遺物は京・信楽陶器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器が見られる。図示していないが、肥前系磁器の型紙刷が見られることから明治期の井戸と考えられる。

SK102（第44・48図）

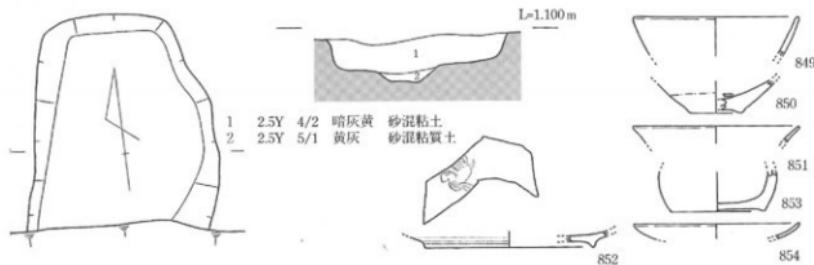
SK139底面で検出した井戸である。掘り方の規模は不明であるが現存部分では径1.18m、深さ94cmを測る。井戸枠は2段見られ、下段は高さ90cm、径70cmの木製舟形物で、上段は土師質の円筒である。井戸枠内出土遺物は肥前系磁器、備前焼等が見られる。切り合ひ関係が不明で遺構の時期も不明である。

SE103（第44・48図）

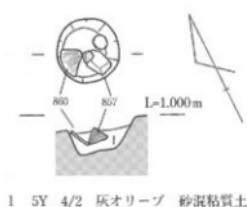
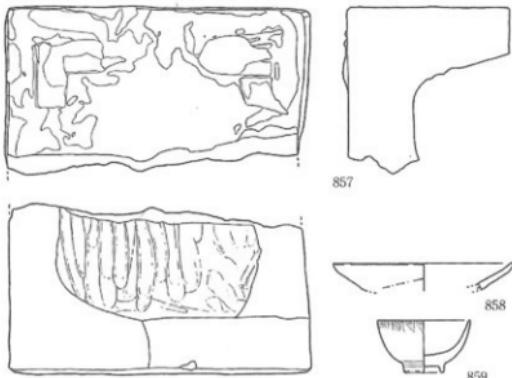
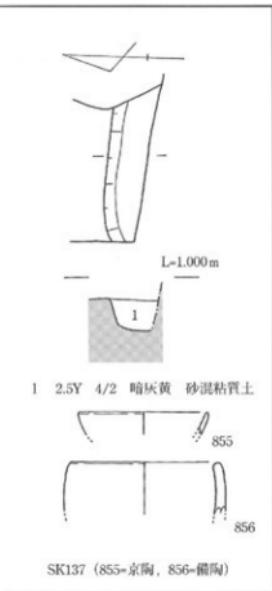
SK139底面で検出した井戸である。掘り方の規模は不明であるが現存部分では径1.22m、深さ1.3mを測る。井戸枠は現状では1段で、高さ130cm、径55cmの木製舟形物で、上段は土師質の円筒である。井戸枠内出土遺物は肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器の他、簪や毛抜きなどの金属器も見られる。切り合ひ関係が不明で遺構の時期も不明である。



第42図 第1遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図④

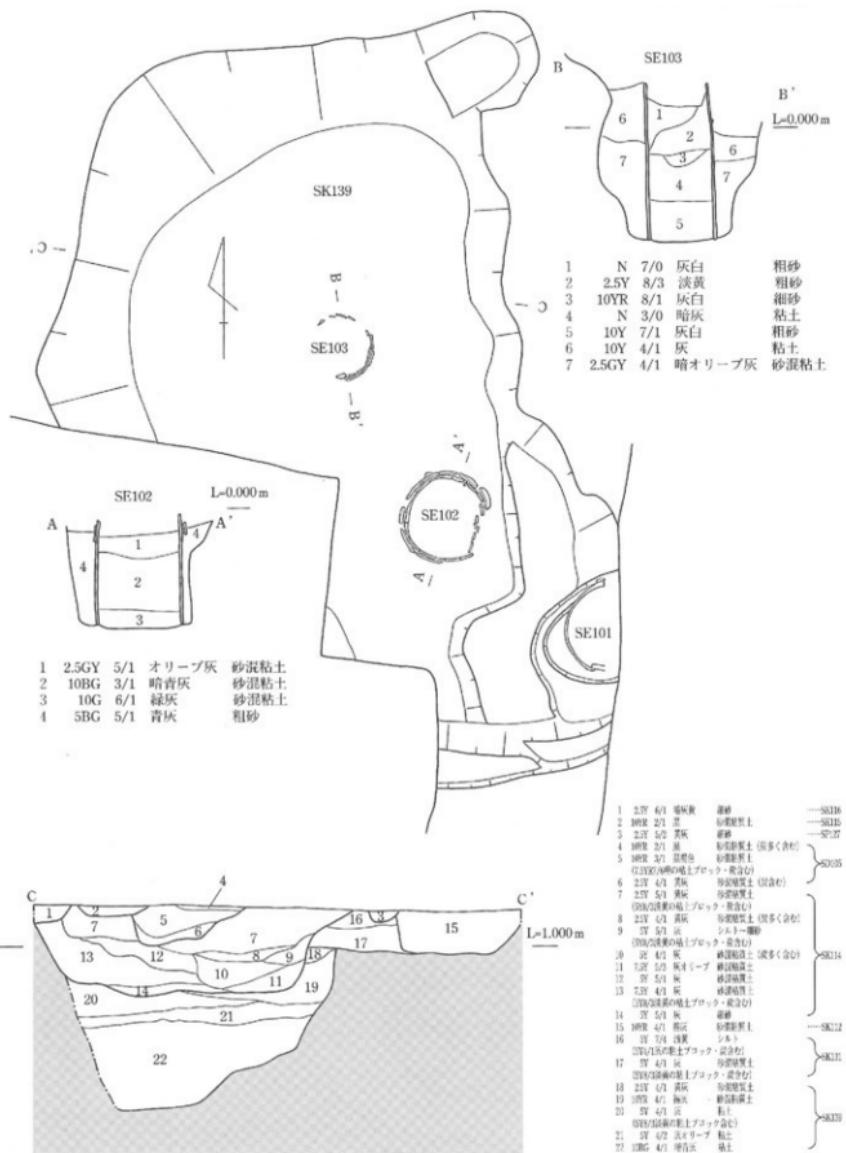


SK136 (849-850-肥陶, 851-852-肥磁, 853-854-上)

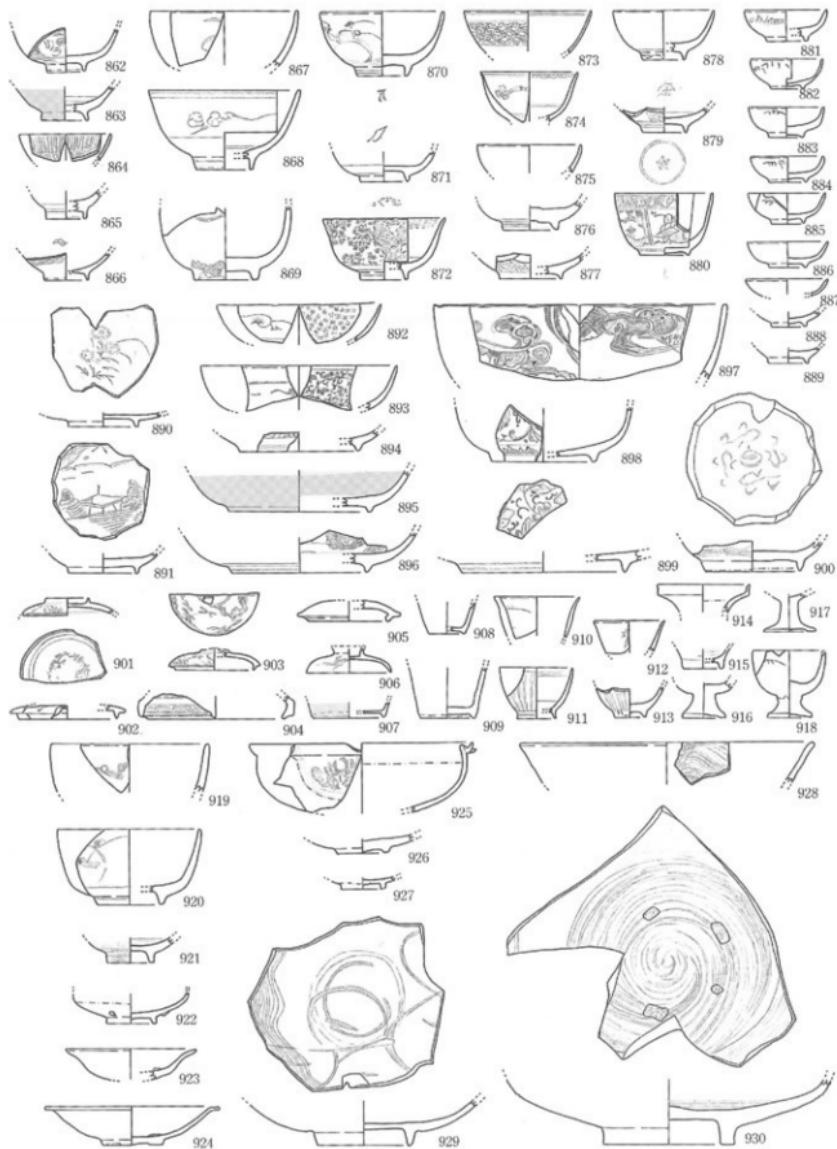


SK138 (857-859-肥磁, 858-肥陶, 860-861-備陶)

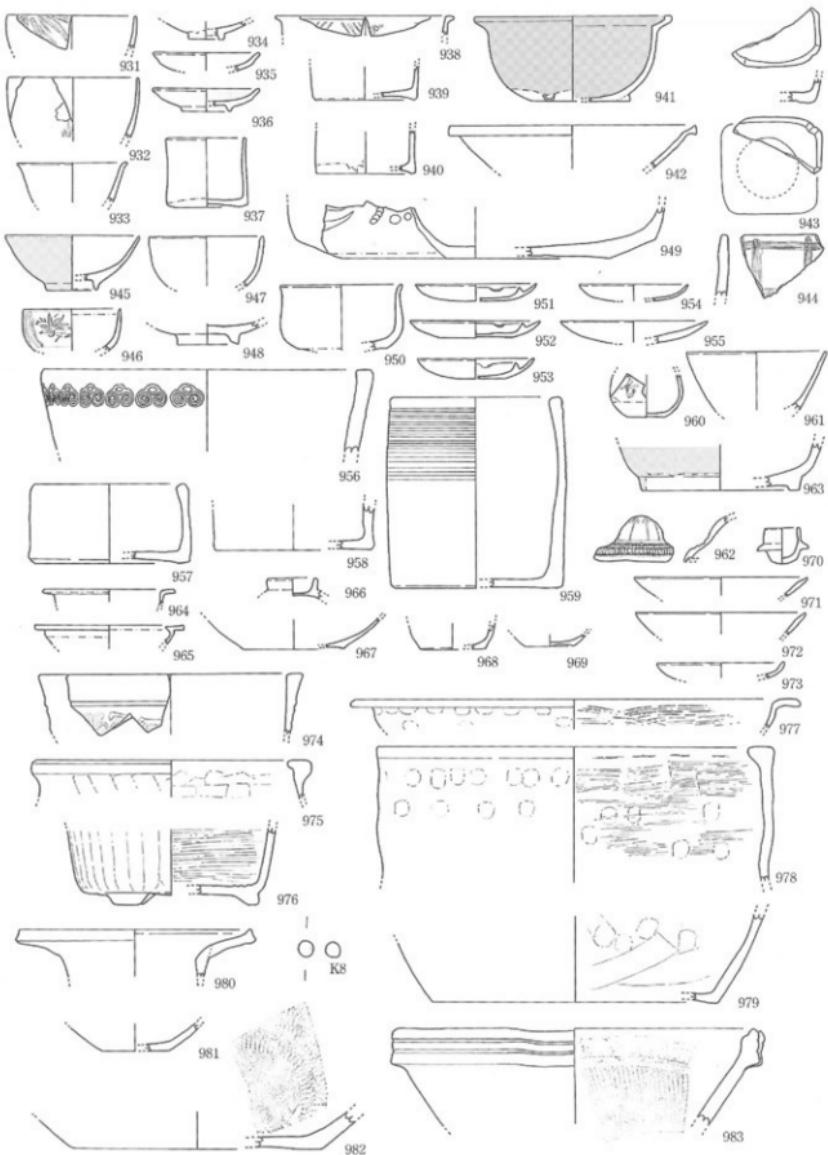
第43図 第1遺構面土坑平・断面図及び出土遺物実測図⑤



第44図 SK139, SE101～103平・断面図

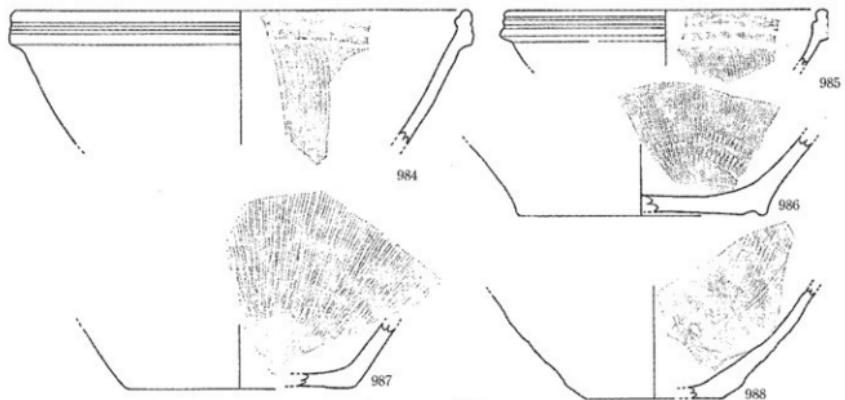


第45図 SK139出土遺物実測図① (862~918-肥縁, 919~930-肥脚)

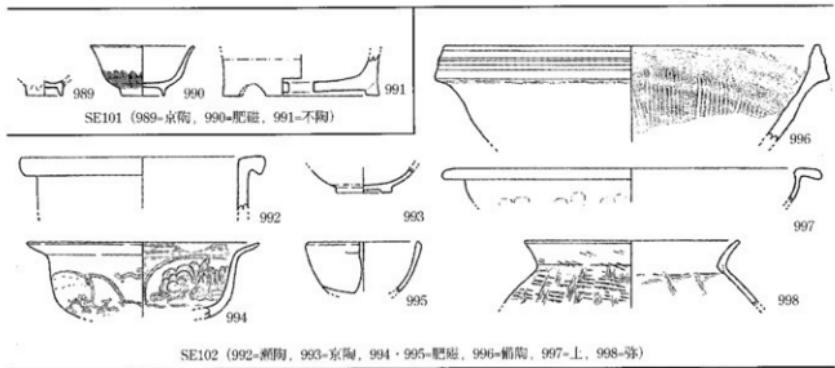


(931~934-豆陶色, 932~942-豆脚, 943~944-豆野, 945~946-豆紐, 947~950-豆胸, 951~962-盤脚, 963-不規, 964~969-執胸, 970~979-上, 980~981-斧, 982~983-周胸)

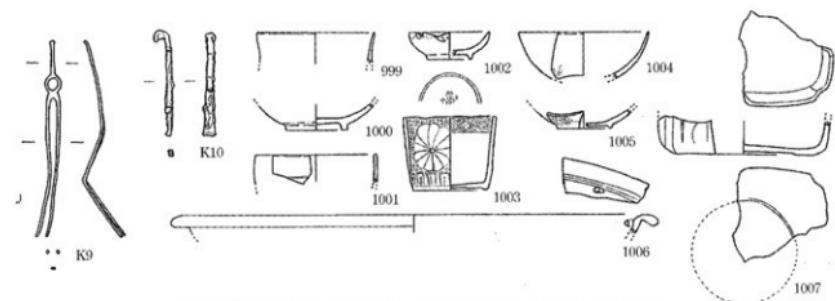
第46図 SK139出土遺物実測図②



(984~986=脂陶, 987・988=備陶)
第47図 SK139出土遺物実測図③



SE101 (989=京陶, 990=肥磁, 991=不陶)



SE103 (999・1000=京陶, 1001=削陶, 1002~1005=肥磁, 1006=土, 1007=志野)

第48図 第1遺構面井戸出土遺物実測図

第4章 まとめ

第1節 第2遺構面の屋敷区画の変遷とその居住者について

調査地は99m²と狭いながらも、第2遺構面において屋敷の区画溝と考えられるSD203・204を検出することができた。また、隣接して調査された高松城跡（丸の内地区）においても区画溝と考えられるSD02・05が検出されている（乗松2001）。なお、高松城跡（丸の内地区）検出のSK08（SK10）についてはSD02から連続しており、東西方向の区画溝である可能性が考えられる。同遺構は今回検出のSD204の延長部分にもあたることから、その可能性が非常に高い。これらの溝から生駒期～松平期初期にかけての屋敷の区画の変遷を考えみたい。

今回の調査で第2遺構面の区画溝は、その切り合ひ関係から、南北方向のSD203と東西方向のSD204が併存する時期（＝第1期）、SD204のみ存在する時期（＝第2期）、区画溝が無くなる時期（＝第3期）の3時期の変遷がたどれる。一方、同時期の高松城の屋敷地が描かれた絵図は『生駒家時代瀧岐高松城屋敷割図』（推定1638～39年製作の写）と『高松城下図屏風』（1656年以前製作）の2点が知られており（森下1996）、これらの絵図と比較検討してみたい。

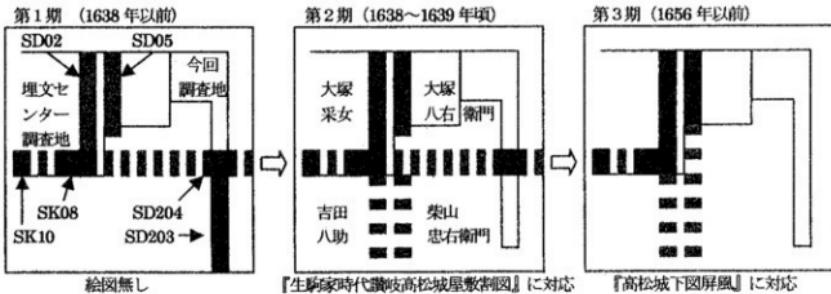
まず、第1期のように東西方向の溝に南北方向の溝が突き当たるようなT字の地割はどちらの絵図にも見られない。このため、絵図以前の地割である可能性が高い。なお、SD02・05とSD203のクランクした状態を絵図では簡略して描いた可能性もあるが、この場合1638～56年以前の短期間に2度の区画変更があったことになる。なお、第1期にSD02・05が存在したかどうかは不明である。

次に第2期であるが、今回の調査地ではSD204のみが存在した時期であるが、絵図では区画溝が十字に交わっている。高松城跡（丸の内地区）の調査で検出したSD02・05についても合流点以南が擾乱を受けており、「十」字に交差していたことを確認できないが、この溝が南へ延びるのであれば、『生駒家時代瀧岐高松城屋敷割図』と一致することから、生駒期末期の地割と考えられる。

最後に、今回の調査地では区画溝が無くなる第3期である。SD02・05の埋土は第1遺構面上の整地層と連続するとしているが、SD204は整地層と連続せず、またその上面に1662年の大火の後始末をしたと考えられるSK210が掘削されている。このため高松城跡（丸の内地区）のSD02・05はSD204埋没後も一定期間存続したことが立証される。『高松城下図屏風』では調査地部分のみ区画がなくなり、南北に細長い建物が描かれている様子と整合することから松平入封直後の地割と考えられる。なお、『高松城下図屏風』では屋敷の区画部分には板塀のみしか描かれておらず、高松城跡（丸の内地区）のSD02・05が屏風図製作時期まで存続していたかどうかは不明である。

また、人名の記載がある『生駒家時代瀧岐高松城屋敷割図』によると、今回想定した第2期の地割が正しいとすれば、今回の調査地の北半から高松城跡（丸の内地区）の東縁は大塚八右衛門邸、南半は柴山忠右衛門邸、高松城跡（丸の内地区）は大塚采女邸、その南は吉田八助邸と考えられる。なかでも大塚采女は生駒親正の娘婿大塚又一の子にあたるとされる人物である。

なお、今回の調査地及び高松城跡（丸の内地区）は非常に狭く、擾乱の多い調査であったため、不明確な点が多い。あくまでも今回提示した変遷は一案であり、今後周辺の調査で今回の調査成果を検証していきたい。



生駒期～松平期初期にかけての屋敷区画変遷模式図（案）

第2節 第1造構面の屋敷地の居住者について

次に第1造構面の屋敷地について、東西方向の満SD103が屋敷地の区画の可能性があるが、検出長が短すぎて断定できない。あるいは『高松城下図屏風』に描かれているように区画は板塀のみの可能性も十分考えられるが、柱穴列は検出していない。このため、屋敷の区画については不明である。

しかしながら、今回[の]調査地の北西隅で検出したSK123から「丸に中陰四つ葵」家紋入り理兵衛焼・家紋入り瓦が出土した。この家紋は『高松市街古図（文化年間頃高松城下絵図）』や『東漸高松絵図（弘化年間高松城下絵図）』に描かれており、松平大膳家の家紋であったことがわかる。このため今回の調査地北部は松平大膳家の屋敷地内であったことが確実となった。なお、『高松市街古図』によると松平大膳の屋敷は中堀の南正面に広い屋敷地、その南東部分にやや狭い屋敷地があったことがうかがえる。『東漸高松絵図』によると南側の屋敷地には志摩殿中屋敷と描かれていることから、北側が上屋敷、南側が中屋敷であったと考えられる。今回の調査地は現在の地割との比較及び隣接する高松城跡（丸の内地図）、高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）の調査成果から中屋敷に該当すると考えられる。

さて、松平大膳家については絵図史料では頼芳の時期の絵図こそ現存しないが、その他の時期の絵図には松平大膳家代々の名前が書かれている。大膳家の名前が書かれた絵図として最も古い『高松城下図』（推定1716～36年製作の写）においては上屋敷部分に左近殿（＝頼熙）、中屋敷部分に左近殿中屋敷と書かれている。次に、『元文五申年六月譲岐国高松地図』（推定1740年製作の写）においては上屋敷部分に铁松殿（＝至央）、中屋敷部分に铁松殿中屋敷と書かれている。また、製作年代にやや疑問はあるが、『日本奥地南海道郡都部瀬戸高松地図』（正徳亨保年間製作の写・宝曆7年写）においては上屋敷部分に松平直之助殿（＝頼昌）、中屋敷部分に直之助殿原シキ内と書かれている。次に、『寛政元年五月高松之図』（推定1789年製作の写）においては上屋敷部分に志摩殿（＝頼格）、中屋敷部分に志摩殿中屋敷と書かれている。最後に『東漸高松絵図（弘化年間高松城下絵図）』（推定1844～1848年製作）においては上屋敷部分に松平大膳頼覚殿（＝頼覺）、中屋敷部分に志摩殿中屋敷と書かれている。以上の絵図史料から少なくとも頼熙以降の代々当主は今回の調査地部分に居住していたことがうかがえる。

一方、松平大膳家については幕末頃に書かれたと思われる系図である『松平大膳家御系譜』が現存している。これによると、松平大膳家は藩祖松平重頼の第8子頼芳（よりよし：1667～1706）から始まり、1676年に3千石を賜っている。その後、二男頼熙（よりひろ：1699～1737）が1704年に2千石を継いでいる。頼熙には3人の子があり、長男頼桓（よりたけ：1720～1739）は1735年に高松藩本家の養子となり、4代藩主になっている。頼桓には子が無く、1739年に守山藩から頼忠（よりたか）が養子に入り、5代藩主になっている。一方、大膳家は1736年に二男の頼珍（名称不明：1721～1780）が家督3千石を継いでいたが、1739年に老中の指図で阿波蜂須賀家の養子となり、阿波藩9代藩主（蜂須賀家政を初代に数えた場合）となっている。三男の至央（よしひろ：1736～1754）は1739年に兄頼珍の家督3千石を継いだが、1754年に頼珍が阿波藩主を隠居したため、蜂須賀家へ養子に入り、阿波藩10代藩主となった。このため、大膳家には後継が無く、1754年に5代藩主頼忠の五男頼昌（よりあつ：1752～1789）が2千石で大膳家を継いでいる。1765年には大膳と名前を改めており、その後、1785年には5千石を賜っている。なお、今回の調査で家紋入り理兵衛焼・瓦が出土したSK123は18世紀第3四半期の遺構と考えられる。その時の大膳家当主は頼昌（当主期間=1754～1789）であり、理兵衛焼・瓦等は頼昌によって埋められた遺物と考えられる。頼昌は1789年に亡くなるが、子どもは娘1人しかおらず、頼昌の弟で久保家へ養子に入った頼裕（よりひろ）の長男頼格（よりさだ：1777～1836）が大膳家の養子となり、2千石を継いでいる。1836年に頼格が亡くなると、三男の頼覺（よりあき：1808～1867）が家督2千石を継いだ。頼覺は1863年に京都警衛の命を受けると藩主に代わって兵を率い京都へ入っている。また、1864年の禁門の変に際しては日華門外を守っている。1865年隠居し、長男頼利（よりとし：1833～）が家督2千石を継いだ。明治以降の大膳家については詳細は不明であるが、市内の四番丁に住んでおり「四番丁さん」と呼ばれていたと言われる。その後経緯は不明であるが、東京へ移住している（注1）。

その他に、文献資料としては『全歴史』において頼昌が「幼名直之助、後大膳と称した。城南の邸に居た」とある。このことから、今回の調査成果は絵図、系図、文献の3史料と整合する調査と言える。

最後に、本誌では松平大膳家について十分な検討が行えなかった。松平大膳家は高松藩の中でも非常に高い地位を占め、系図・絵図とも残っていることから、高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）の報告書において詳細な検討を加えたい。

参考文献

- 栗松真也 2001 「高松城（丸の内地図）の発掘調査概要—高松城跡における屋敷地間境界遺構—」『四国徳島城下町通信』第8号
森土友了 1996 「高松城下の絵図と城下の変遷」『財团法人香川県歴文化財調査センター研究紀要IV』財团法人香川県歴文化財調査センター
中山城山著 桑田明沢 1991 「口訣全識史」城山会

注1 松平公益会より御教授賜った。

番号	产地	種類	名前	日経(編)	武經(編)	笠高(原)	内面		外觀	
							左	右	左	右
1	肥前	胸器	風			13.0	2.3			高台無輪
2	肥前	胸器	風	11.6	1.6	11.6	1.6	11.6	1.6	高台無輪
3		十脚第十脚	風	10.9		2.4				
4		十脚第十脚	風	10.3		1.5				
5		十脚第十脚	利笑	22.7		3.6				
6		十脚第十脚	林	23.6	6.5	2.4	1.1	2.4	1.1	高台無輪
7		十脚第十脚	林	19.8	6.5	2.2	1.1	2.2	1.1	高台無輪
8	肥前	胸器	風	15.0		1.8				
9	肥前	胸器	風	32.4		3.6				
10		十脚第十脚	風	16.0		2.6				
11		十脚第十脚	林	14.2	8.6	2.6				
12		十脚第十脚	杯	10.6		2.4				
13		十脚第十脚	風	15.0	8.2	2.1	2.3	2.1		
14		十脚第十脚	風	11.1		2.3				
15		十脚第十脚	風	8.2	4.4	1.6				
16		十脚第十脚	風	4.6		1.8				
17		十脚第十脚	ソコ	4.4	4.4	0.4	0.4	0.4	0.4	十脚第十脚
18	肥前	胸器	風	12.0	3.0	4.5				高台無輪
19	肥前	胸器	風	5.2	1.8	秒拍				高台無輪
20	肥前	胸器	風	14.6		2.5				無輪
21	肥前	胸器	風	4.6	2.6	新土目				高台無輪
22	肥前	胸器	風	4.6	3.4					高台無輪
23	肥前	胸器	風	11.0	1.4	6.9				高台無輪
24	肥前	胸器	風	13.8	5.6	6.1	6.1	6.1	6.1	高台無輪
25	肥前	胸器	風	15.9	4.6	3.1	3.1	3.1	3.1	高台無輪
26	肥前	胸器	林	35.0		3.8				
27	肥前	胸器	林	25.9		6.0				
28	肥前	胸器	林	12.3		3.8	3.8	3.8	3.8	珠輪
29	肥戸失葉	胸器	風	13.3		4.3				
30	肥前	胸器	接脚	32.0	15.6	11.6	11.6	11.6	11.6	接脚下半ヨコハタケアリ
31	肥戸	胸器	風	15.0		3.2	3.2	3.2	3.2	圓錐形, 売付草花文
32	肥前	胸器	風	11.0		2.5				高台無輪
33	肥前	胸器	風	4.0		1.7	1.7	1.7	1.7	高台無輪
34	肥前	胸器	風	4.4		1.2				高台無輪
35	肥前	胸器	風	18.0		2.1				
36	志野	胸器	風	14.2	8.0	5.3				
37		十脚第十脚	接脚	22.0		6.7				接脚
38	肥前	胸器	風	21.0		2.4				
39	肥前	胸器	風	42.4		3.9				
40		十脚第十脚	風	9.5	7.2	2.6				
41		十脚第十脚	風	3.8		0.9				
42		上脚第十脚	風	9.0	6.0	0.9				
43		上脚第十脚	風	11.4	5.6	2.2				
44	肥前	胸器	風	18.2		2.1				
45	肥前	胸器	風	12.6		1.5				
46	志野	胸器	風	1.0						
47		十脚第十脚	風	10.6	7.0	1.6				
48	肥戸失葉	胸器	風	3.4		1.1	1.1	1.1	1.1	染付草花文
49	肥前	胸器	風	11.0	6.0	5.5				
50	肥前	胸器	風	13.4	8.8	2.4				
51	肥前	胸器	風	14.4	7.4	1.7	1.7	1.7	1.7	染付土目
52	肥前	胸器	風	12.0	4.2	3.0	3.0	3.0	3.0	高台無輪
53	肥前	胸器	風	12.6	5.0	3.2	3.2	3.2	3.2	高台無輪
54	肥前	胸器	風	7.5	5.0	6.5				高台無輪
55	肥前	胸器	紅斑口	5.4	2.6	1.2				染付草花文
56	肥前	胸器	風	12.6		5.1				
57	肥前	胸器	接脚	20.0	22.0	6.4				テラハナ
58		十脚第十脚	土繩	41.0		12.7	12.7	12.7	12.7	
59		上脚第十脚	風	7.7	4.6	1.6				
60		十脚第十脚	風	11.3		2.1				
61	肥前	胸器	風	4.2		2.3				高台無輪
62	肥前	胸器	風	11.3		3.2	3.2	3.2	3.2	染付無輪
63	肥前	胸器	風	1.8		3.2				高台無輪
64	肥前	胸器	風	14.0		1.6				高台無輪
65	肥前	胸器	風	4.5		5.5				高台無輪
66	肥前	胸器	風	10.0		10.8	10.8	10.8	10.8	送送刺
67	肥前	胸器	接脚	16.0		5.8				
68		十脚第十脚	接脚	27.5		4.5				
69	肥前	胸器	風	3.6	2.5					高台無輪
70	肥戸	研器	風	11.2	1.1	染付草花文				
71	肥戸	研器	風	47.4	2.0	染付草花文				
72	肥戸失葉	研器	風	10.5		3.2				染付草花文
73	肥前	研器	風	10.0		2.6				染付草花文
74	肥前	研器	香	5.7		2.8				研印
75	肥前	研器	風	4.1	2.8	型鉗刺, 八ツ文, 見込松竹梅				型鉗刺
76	肥前	研器	風	10.0		2.5	2.5	2.5	2.5	染付無輪
77	肥前	研器	風	11.0	6.8	2.7	2.7	2.7	2.7	染付木水滴, 口紅
78	肥前	研器	風	16.1		4.5	4.5	4.5	4.5	染付草花文, 口紅
79	肥前	研器	風	9.0		2.5				
80	肥前	研器	風	9.6	3.6	5.6	5.6	5.6	5.6	染付草花文
81	肥前	研器	風	4.6	3.1	染付草花文				
82	肥前	研器	風	4.4	2.6					染付草文, 圓錐3束
83	肥前	研器	風	5.6	3.8	松ノ月白八				圓錐3束
84	肥前	研器	風	9.6	3.2	5.2	5.2	5.2	5.2	染付草文, 見込松竹梅
85	肥前	研器	風	6.0	3.2	圓錐3束				圓錐3束
86	肥前	研器	風	10.0	4.1	5.5	5.5	5.5	5.5	桃子
87	肥前	研器	風	4.7	1.1	染付十字花				

104 梅門冬葉	梅詠	梅	9.0	4.6	枝叶四方牌	执行权花文
105 鳴源	梅詠	梅	7.6	1.0		执行权花文
106 鳴源	梅詠	梅	3.5	1.1		执行权花文
107 安信榮	梅詠	梅	12.0	4.1		执行权花文
108 范信榮	梅詠	梅	—	9.4	2.8 無地	执行权花文
109 范信榮	梅詠	梅	—	10.2	2.5 無地	执行权花文
110 范信榮	梅詠	梅	11.6	4.0	2.2 4条の藤蔓状縫割	执行权花文
111 范信榮	梅詠	梅	11.5	4.0	2.2	执行权花文
112 范信榮	梅詠	梅	7.0	2.0	3.1 地形	执行权花文
113 袁貞胸	梅詠	梅	4.0	15.1	3.6	执行权花文
114 袁貞胸	梅詠	梅	—	6.4	7.6	执行权花文
115 袁貞胸	梅詠	梅	21.2	—	4.9	执行权花文
116 上明賀上昇	梅詠	梅	—	—	1.0 ニュウ	执行权花文
117 上明賀上昇	梅詠	梅	—	3.4	—	执行权花文
118 上明賀上昇	梅詠	梅	16.7	14.1	16.4 青龍花園区	执行权花文
119 上明賀上昇	梅詠	梅	—	15.5	16.2 ユコハマ、円孔	执行权花文
120 上明賀上昇	梅詠	梅	25.2	19.0	18.0 ユコハマ	执行权花文
121 千明	梅詠	梅	4.3	3.5	1.1 線脚	执行权花文
122 千明	梅詠	梅	9.6	1.4		执行权花文
123 千明	梅詠	梅	10.6	1.2		执行权花文
124 千明	梅詠	梅	10.6	1.6		执行权花文
125 梅戸矢義	梅詠	梅	—	12.0	5.8	执行权花文
126 梅戸矢義	梅詠	梅	—	9.8	3.8	执行权花文
127 梅戸矢義	梅詠	梅	—	10.6	6.7	执行权花文
128 上明賀土屋	梅詠	梅	4.4	1.8	2.1	执行权花文
129 梅戸矢義	梅詠	梅	—	3.6	2.1	执行权花文
130 梅戸矢義	梅詠	梅	13.6	8.0	3.8 梅竹、圓錐2条、見込五年花文	执行权花文
131 梅戸矢義	梅詠	梅	12.6	5.0	3.1 砂口	执行权花文
132 梅戸矢義	梅詠	梅	—	4.8	2.2	执行权花文
133 梅戸矢義	梅詠	梅	—	9.0	3.4	执行权花文
134 梅戸矢義	梅詠	梅	—	14.4	1.7	执行权花文
135 梅戸矢義	梅詠	梅	—	14.8	3.1	执行权花文
136 梅戸矢義	梅詠	梅	—	6.8	3.9 圓錐3条	执行权花文
137 梅戸矢義	梅詠	梅	—	8.1	1.8	执行权花文
138 梅戸矢義	梅詠	梅	5.4	5.4	1.3	执行权花文
139 梅戸矢義	梅詠	梅	6.6	4.6	7.7	执行权花文
140 梅戸矢義	梅詠	梅	—	3.7	6.7 梅竹原花文	执行权花文
141 梅戸矢義	梅詠	梅	—	1.5	8.1 純輪	执行权花文
142 梅戸矢義	梅詠	梅	—	7.4	2.2 变叶垂文、見込五年花文	执行权花文
143 梅戸矢義	梅詠	梅	14.4	10.2	4.0 型刷制、見込竹針梅	执行权花文
144 梅戸矢義	梅詠	梅	14.0	13.0	4.5 口露無輪	执行权花文
145 梅戸矢義	梅詠	梅	—	9.0	4.1 無地	执行权花文
146 梅戸矢義	梅詠	梅	—	5.8	5.0 無地	执行权花文
147 梅戸矢義	梅詠	梅	—	5.5	4.4	执行权花文
148 梅戸矢義	梅詠	梅	—	3.6	3.2	执行权花文
149 梅戸矢義	梅詠	梅	—	12.6	3.2 圓錐2条	执行权花文
150 梅戸矢義	梅詠	梅	—	8.5	4.0 2.0	执行权花文
151 梅戸矢義	梅詠	梅	—	5.2	2.2 見込五年花文	执行权花文
152 梅戸矢義	梅詠	梅	—	4.9	3.1	执行权花文
153 梅戸矢義	梅詠	梅	—	5.2	2.8 2.5 純毛口	执行权花文
154 梅戸矢義	梅詠	梅	—	3.5	1.2 純輪	执行权花文
155 梅戸矢義	梅詠	梅	—	9.2	3.3 5.8	执行权花文
156 梅戸矢義	梅詠	梅	—	10.6	8.6 2.9	执行权花文
157 梅戸矢義	梅詠	梅	—	—	5.5 2.4	执行权花文
158 梅戸矢義	梅詠	梅	—	6.8	3.2 1.6	执行权花文
159 梅戸矢義	梅詠	梅	—	8.2	3.9 1.4 藤蔓状縫割	执行权花文
160 梅戸矢義	梅詠	梅	—	5.5	1.9 色繪作草文	执行权花文
161 不明	梅詠	梅	—	3.1	1.9 1.0 ニュウ	执行权花文
162 不明	梅詠	梅	—	4.2	3.6 5.2 鉄輪	执行权花文
163 不明	梅詠	梅	—	5.8	3.7 0.9 円形スカン	执行权花文
164 不明	梅詠	梅	—	10.6	3.4 3.2 円形スカン	执行权花文
165 不明	梅詠	梅	—	7.2	3.1 4.6 訂稿	执行权花文
166 不明	梅詠	梅	—	28.6	—	执行权花文
167 袁貞胸	梅詠	梅	—	4.6	2.6 1.2	执行权花文
168 袁貞胸	梅詠	梅	—	13.1	3.0 純輪	执行权花文
169 袁貞胸	梅詠	梅	—	12.4	13.0 6.3	执行权花文
170 大谷	梅詠	梅	—	8.1	5.5	执行权花文
171 大谷	梅詠	梅	—	6.1	1.9 花口	执行权花文
172 大谷	梅詠	梅	—	14.2	3.0 タマヘウガギ	执行权花文
173 袁貞胸	梅詠	梅	—	—	24.0 18.8 コヨハケ	执行权花文
174 袁貞胸	梅詠	梅	—	3.7	3.5 0.8 型刷斜上製品	执行权花文
175 袁貞胸	梅詠	梅	—	2.8	2.9	执行权花文
176 袁貞胸	梅詠	梅	—	2.4	1.3	执行权花文
177 袁貞胸	梅詠	梅	—	15.6	1.2	执行权花文
178 千明賀上昇	梅詠	梅	—	25.0	6.8	执行权花文
179 袁貞胸	梅詠	梅	4.6	—	1.3	执行权花文
180 袁貞胸	梅詠	梅	5.6	3.0	1.8	执行权花文
181 袁貞胸	梅詠	梅	6.4	3.6	2.2	执行权花文
182 袁貞胸	梅詠	梅	7.2	—	2.0	执行权花文
183 袁貞胸	梅詠	梅	6.2	—	1.9	执行权花文
184 袁貞胸	梅詠	梅	4.3	3.9	3.1	执行权花文
185 袁貞胸	梅詠	梅	—	3.4	1.2	执行权花文
186 袁貞胸	梅詠	梅	—	5.0	1.9	执行权花文
187 袁貞胸	梅詠	梅	—	1.0	1.9	执行权花文
188 袁貞胸	梅詠	梅	—	4.6	1.3	执行权花文
189 袁貞胸	梅詠	梅	—	15.2	2.0	执行权花文
190 袁貞胸	梅詠	梅	—	2.8	1.8	执行权花文
191 袁貞胸	梅詠	梅	—	3.4	1.9 藤蔓1条、見込年花文	执行权花文
192 袁貞胸	梅詠	梅	—	3.2	1.9 葛籠神、圓錐2条、五分花文	执行权花文
193 袁貞胸	梅詠	梅	—	10.4	3.8 3.4 圓錐2条、見込文字	执行权花文
194 袁貞胸	梅詠	梅	—	3.8	3.5 圓錐1条	执行权花文

277	號角	胸部	胸	5.6	1.4	圖解2条, 見込内	高台無袖
278	號角	胸部	胸	10.1	3.7	付四方襟, 267同 一側体	壹付腰付, 圖解1条
279	號角	胸部	胸	22.6	4.6	合十番花文, 旋付四方襟	壹付腰文
280	號角	胸部	胸	8.8	5.6	無袖	圖解2条
281	號角	胸部	胸	16.4	3.8	7.4 綱生目	副生目, 高台無袖
282	心野	胸部	胸	11.4	5.7		鈴松無袖
283	房俱樂	胸部	胸	5.5	2.1	無袖	
284	房俱樂	胸部	紅蝶口	3.6	1.7		武部無袖
285	足見草	脚部	脚	14.6	4.9		
286	足見草	脚部	脚	10.4	3.7		
287	空知葉	脚部	脚	10.4	4.1		
288	足見草	脚部	色繪風	12.8	5.4	2.8 色繪芭蕉文	高台無袖
289	小明	脚部	脚	3.6	2.4	絞袖	絞袖
290	平明	脚部	脚	11.0	4.1		絞袖
291	廣勝	脚部	脚	46.2	5.4	芭指頭狀	
292	廣勝	脚部	脚	16.2	3.6		
293	廣勝	脚部	脚明陞	7.8	2.2	1.6	
294	廣勝	脚部	脚明陞	8.0	0.8	1.4	
295	廣勝	脚部	脚明陞	8.6	1.1		
296	廣勝	脚部	脚明陞	9.9	1.5		
297	廣勝	脚部	脚明陞	10.2	1.5		
298	廣勝	脚部	脚明陞	10.4	1.5		
299	廣勝	脚部	脚明陞	11.4	1.5		
300	廣勝	脚部	脚明陞	12.0	1.5		
301	土師質	脚部	脚	6.2	1.1		
302	土師質	脚部	脚	6.2	2.8	1.1	
303	土師質	脚部	脚	8.8	1.5	帯甘	ナダ
304	土師質	脚部	脚	3.5	2.6		
305	土師質	脚部	脚	2.8	2.0	2.5	
306	土師質	脚部	脚	11.8	15.4	33ハケ	型成形芭蕉文
307	廣前	脚部	脚	30.5	5.5		垂ね脱き服
308	明	脚部	脚	14.0	6.4		
309	明石	脚部	脚	14.6	5.3		
310	明前	脚部	脚	4.6	1.6	1.5	
311	明前	脚部	脚	5.1	1.2		
312	明前	脚部	脚	6.0	1.4		
313	明前	脚部	脚	6.0	3.0	2.0	
314	明前	脚部	脚	6.0	3.0	2.3	
315	明前	脚部	脚	6.0	2.9		
316	明前	脚部	脚	3.6	4.9		
317	明前	脚部	脚	14.0	2.9	圖解2条	
318	明前	脚部	脚	12.6	9.4	1.9	
319	明前	脚部	脚	7.8	2.4	付山水画, 八寸束	松/付同解高台
320	明前	脚部	脚	10.8	2.6	青細袖	青細袖
321	明前	脚部	脚	11.0	3.0	青細袖	青細袖
322	明前	脚部	脚	11.4	2.7	染付四方襟	青細袖
323	明前	脚部	脚	11.6	5.0	6.3 付四方襟, 圖解2条, 見込五番花文	青细袖, 高台内添墨
324	明前	脚部	脚	11.6	4.4	6.4 付四方襟, 圖解2条, 見込五番花文	青细袖, 高台内添墨
325	明前	脚部	脚	11.9	11.0	染付四方襟	壹付腰付
326	明前	脚部	脚	15.8	6.3	6.5 付四方襟, 圖解2条	壹付腰文, 圖解2条
327	明前	脚部	脚	8.6	5.8	3.1 圖解2条, 見込付芭蕉文	壹付腰文, 圖解2条, 高台内見込記片文, 圖解1条
328	明前	脚部	脚	8.6	3.6	5.3	
329	明前	脚部	脚	2.5	4.8		
330	明前	脚部	脚	7.2	3.4	2.8 圖解2条, 見込記片文	壹付腰文, 圖解2条
331	明前	脚部	脚	9.2	5.2	2.0 圖解2条, 見込五番花文	圖解2条, 高台内文字, 売解1条
332	明前	脚部	脚	8.0	2.4	3.5	圖解2条
333	明前	脚部	脚	8.4	4.7	2.9	
334	明前	脚部	脚	4.5	7.8	1.4 付西方襟	壹付腰文, 地付西方襟
335	明前	脚部	脚	10.0	3.3	2.1	
336	明前	脚部	脚	11.8	6.6	1.8	
337	明前	脚部	脚	7.0	2.6	無袖	
338	明前	脚部	脚	16.6	3.8	6.5 絞目	
339	明前	脚部	脚	9.0	3.6	3.5	
340	喜戸美濃	脚部	脚	9.8	3.2	2.8	高台無袖
341	喜戸美濃	脚部	花生	5.1	5.6	5.3 絞袖	壹付腰文, 圖解2条
342	喜戸美濃	脚部	脚	4.0	1.4		壹付腰文, 草文
343	喜戸美濃	脚部	脚	—	—	—	壹付腰文
344	喜戸美濃	脚部	脚	9.4	3.6	6.3	
345	文徳家	脚部	脚	4.6	5.2	4.2	壹付腰文, 不明
346	文徳家	脚部	脚	9.6	5.6	4.6	色繪單点文
347	文徳家	脚部	脚	—	4.4	2.7	高台無袖
348	文徳家	脚部	脚	6.0	2.6	6.5	無袖
349	文徳家	脚部	脚	—	4.0	2.8 絞袖	
350	喜徳家	脚部	脚	—	—	—	
351	喜徳家	脚部	脚	9.6	1.1	型成袖	
352	喜徳家	脚部	脚	—	1.6	型成袖	
353	喜徳家	脚部	花生	12.0	5.5		畫文
354	不	脚部	脚木跡	11.0	16.2	17.5 付王無袖	型成形
355	不	脚部	脚	7.6	12.4	2.0 絞袖	
356	土師質	脚部	脚	42.8	—	1.9	
357	土師質	脚部	脚	7.8	3.9	ナシ, 乃見4	ナダ
358	脚部	脚	脚	40.0	—	11.8 脚付唐頭状, 体付腰ナシ	絞袖
359	脚部	脚部	脚	8.4	—	2.0	入付青
360	脚部	脚部	脚	9.0	—	3.1	
361	脚部	脚部	脚	12.6	8.8	1.3	
362	明	脚部	脚	28.6	17.9	8.0	墨文「年」, 脚印「久喜」
363	足見草	脚部	脚	—	4.0	1.2	絞袖
364	足見草	脚部	脚	6.4	4.0	3.4 絞袖	上子絞袖, 下手無袖
365	脚部	脚部	脚	15.0	—	2.7	

266	把頭	仙鶴	鷺	3.0	2.9		仙竹文鶴不明
267	把頭	仙鶴	鷺	4.0	2.5	見达松竹鶴、ハツ支文、圓鶴1条、1782年同一製体	仙竹青天行、高台内記号文、高台内圓鶴1条
268	把頭	仙鶴	鷺	14.0	4.9	染付四方博	仙竹青天行
269	小門	仙鶴	鷺	19.5	6.1		仙竹青天行
270	把頭	仙鶴	鷺	5.0	1.2		仙竹青天行
271	把頭	仙鶴	鷺	6.0	3.0	2.1	仙竹青天行
272	把頭	仙鶴	鷺	2.0	4.2	無鈕	青面鶴
273	把頭	仙鶴	鷺	9.5	4.0	2.2	高台無鈕
274	把頭	仙鶴	鷺	11.6	5.0	6.1	染付四方博、通鶴2条、染付五角花
275	把頭	仙鶴	鷺	7.0	4.2	5.8	染付仙鶴通鶴花文
276	把頭	仙鶴	鷺	—	4.8	2.9	染付仙鶴文
277	把頭	仙鶴	鷺	—	2.8	1.6	見达染付山水鶴
278	把頭	仙鶴	鷺	8.9	—	2.7	染付染付鶴文
279	南山毛瀬	仙鶴	鷺	10.8	—	3.7	染付文鶴不明
280	把頭	仙鶴	鷺	11.6	—	2.0	染付文鶴不明
281	不順	仙鶴	鷺	—	2.8	5.9	無鈕
282	木門	仙鶴	鷺	—	10.2	2.6	新鶴、ハツ支文
283	十郎貢土器	仙鶴	鷺	7.7	5.5	1.0	高台無鈕
284	上半貢土器	仙鶴	鷺	—	7.2	1.2	新鶴
285	貢供奉	仙鶴	鷺	—	3.2	1.2	高台無鈕
286	貢供奉	仙鶴	鷺	—	2.9	1.3	高台無鈕
287	貢供奉	仙鶴	鷺	10.1	9.6	7.7	無鈕
288	貢供奉	仙鶴	鷺	10.4	—	5.0	染付文鶴不明
289	貢供奉	仙鶴	鷺	8.2	4.8	5.4	圓鶴1条
290	貢供奉	仙鶴	鷺	8.6	2.9	4.7	高台無鈕
291	貢供奉	仙鶴	鷺	9.1	2.8	4.5	高台無鈕
292	貢供奉	仙鶴	鷺	8.6	3.2	4.5	高台無鈕
293	貢供奉	仙鶴	鷺	—	4.2	2.4	高台無鈕
294	貢供奉	仙鶴	鷺	6.4	2.2	3.0	高台無鈕
295	貢供奉	仙鶴	鷺	6.4	—	2.8	高台無鈕
296	秋田南鶴	仙鶴	鷺	—	4.2	1.7	細拙南鶴文
297	秋田南鶴	仙鶴	鷺	6.2	2.8	2.0	無鈕
298	秋田南鶴	仙鶴	鷺	10.9	4.6	2.4	無鈕
299	秋田南鶴	仙鶴	鷺	7.1	4.1	2.0	無鈕
300	秋田南鶴	仙鶴	鷺	8.8	4.6	3.3	無鈕
301	秋田南鶴	仙鶴	鷺	18.7	—	7.5	無鈕
302	秋田南鶴	仙鶴	鷺	17.6	—	3.5	無鈕
303	秋田南鶴	土瓶	土瓶	10.4	8.4	16.6	無鈕
304	秋田南鶴	土瓶	土瓶	10.4	—	17.5	無鈕
305	秋田南鶴	土瓶	土瓶	10.2	—	12.7	無鈕
306	秋田南鶴	土瓶	土瓶	11.1	8.9	16.4	無鈕
307	秋田南鶴	土瓶	土瓶	9.2	8.6	15.4	無鈕
308	秋田南鶴	土瓶	土瓶	8.8	—	12.2	無鈕
309	肥前	細鶴	鷺	—	4.8	3.1	染付半身唐草文
310	肥前	細鶴	鷺	—	5.0	1.4	染口、下平無鈕
311	京山毛瀬	細鶴	鷺	9.0	—	3.5	染口、下平無鈕
312	京山毛瀬	細鶴	鷺	9.0	—	3.9	染付唐草文
313	肥前	細鶴	鷺	—	2.8	1.2	染口
314	雀	細鶴	鷺	8.0	—	1.4	入付付着
315	鶴前	細鶴	鷺	11.8	—	1.9	青面鶴
316	鶴前	細鶴	鷺	—	10.4	4.2	白口紅、染付四方博、染付橫文
317	鶴前	細鶴	鷺	10.6	—	5.8	染付四方博、圓鶴2条
318	鶴前	細鶴	鷺	10.6	3.9	1.6	染付菊花歌紋
319	鶴前	細鶴	鷺	9.6	—	4.2	染付菊花歌紋
320	鶴前	細鶴	鷺	9.0	—	3.8	染付菊花歌紋
321	鶴前	細鶴	鷺	10.2	—	3.9	染付菊花文
322	鶴前	細鶴	鷺	9.8	—	3.0	染付菊花文
323	鶴前	細鶴	鷺	11.0	—	2.6	染付菊花文
324	鶴前	細鶴	鷺	10.2	—	4.3	染付菊花文
325	鶴前	細鶴	鷺	10.0	—	4.6	染付菊花文
326	鶴前	細鶴	鷺	9.6	—	4.7	染付四方博
327	鶴前	細鶴	鷺	10.0	—	4.0	染付「藍綱日文」
328	鶴前	細鶴	鷺	10.0	—	3.5	染付藍綱文
329	鶴前	細鶴	鷺	11.6	—	3.2	染付藍綱文
330	鶴前	細鶴	鷺	10.6	—	2.9	染付藍綱文
331	鶴前	細鶴	鷺	10.8	—	4.0	染付夢幻文
332	鶴前	細鶴	鷺	11.2	—	3.5	染付夢幻文
333	鶴前	細鶴	鷺	9.6	—	3.6	染付夢幻文
334	鶴前	細鶴	鷺	9.4	—	3.3	染付夢幻文
335	鶴前	細鶴	鷺	9.1	—	3.2	染付夢幻文
336	鶴前	細鶴	鷺	11.4	—	4.6	染付圓鶴2条
337	鶴前	細鶴	鷺	11.6	—	3.5	染付圓鶴2条
338	鶴前	細鶴	鷺	9.2	—	3.5	染付圓鶴2条
339	鶴前	細鶴	鷺	10.8	4.6	5.2	蛇ノ目輪八角
340	鶴前	細鶴	鷺	11.0	5.2	7.4	染付文鶴、染付文鶴不明
341	鶴前	細鶴	鷺	10.5	4.6	6.4	染付文鶴、染付文鶴不明
342	鶴前	細鶴	鷺	9.6	3.6	6.2	染付四方博、圓鶴2条
343	鶴前	細鶴	鷺	5.2	—	5.5	圓鶴2条
344	鶴前	細鶴	鷺	10.9	4.3	5.0	染付文鶴、圓鶴2条
345	鶴前	細鶴	鷺	8.2	3.4	5.5	染付文鶴
346	鶴前	細鶴	鷺	4.4	—	5.1	見达染付文鶴
347	鶴前	細鶴	鷺	4.2	—	5.0	圓鶴2条、見达コニヤケ2件
348	鶴前	細鶴	鷺	4.8	3.2	5.6	染付文鶴、圓鶴2条
349	鶴前	細鶴	鷺	5.2	—	4.1	圓鶴2条
350	鶴前	細鶴	鷺	4.0	—	2.5	圓鶴3条
351	鶴前	細鶴	鷺	4.0	—	3.6	青面鶴
352	鶴前	細鶴	鷺	3.6	—	1.2	染付「藍綱日文」、圓鶴2条
353	鶴前	細鶴	鷺	4.2	—	3.6	圓鶴2条
354	鶴前	細鶴	鷺	4.8	—	2.4	圓鶴3条

355	肥前	耐若	画	4.2	2.7	柳／枝条／叶	染付草花文、圆瓣3条
356	肥前	耐若	画	5.2	1.7		圆瓣3条
357	肥前	耐若	画	4.4	2.5		染付草花文
358	肥前	耐若	画	4.5	1.7		染付草花文
359	肥前	耐若	画	3.9	1.9		染付斜体文字、○×△、圆瓣3条
360	肥前	耐若	画	4.6	2.1	湖藻2条、见达五井花文	染付草花文、高台内圆瓣
361	肥前	耐若	画	6.0	2.3	桃／枝条／叶、见达五井花文	染付草花文
362	肥前	耐若	画	3.2	2.1		染付草花文
363	肥前	耐若	画	8.4	4.4	6.8 染付西方拂、酒海2条、见达五井花文	染付草花文、圆瓣2条
364	肥前	耐若	画	8.0	6.5	染付西方拂、酒海2条	青底拂
365	肥前	耐若	画	1.5	4.4	圆瓣2条、见达五井花文	染付丸文、圆瓣2条
366	肥前	耐若	画	8.6	3.4	3.9	染付草花散点
367	肥前	耐若	画	8.2	3.6	4.0 染付菊花散点	染付草花散点
368	肥前	耐若	画	8.1	3.2	4.4	染付草花散点
369	肥前	耐若	画	8.4	3.2	4.6	染付草花散点
370	肥前	耐若	画	8.2	3.0	4.1	染付草花文
371	肥前	耐若	画	7.7	3.0	3.7	染付草花文、圆瓣2条
372	肥前	耐若	画	8.2	2.8	4.0	染付草花文
373	肥前	耐若	画	7.8	3.2	3.6	圆瓣2条
374	肥前	耐若	画	8.0	4.3	2.7	染付草花文
375	肥前	耐若	画	9.0	—	3.0	染付山脚里文
376	肥前	耐若	画	8.0	—	2.6	染付山脚里文
377	肥前	耐若	画	7.5	—	2.7	染付山脚里文
378	肥前	耐若	画	7.4	—	2.2	染付山脚里文
379	肥前	耐若	画	6.6	—	2.6	染付山脚里文、圆瓣2条
380	肥前	耐若	画	8.2	—	2.6	染付草花文
381	肥前	耐若	画	7.9	—	2.9	染付草花文
382	肥前	耐若	画	—	—	2.0	染付草花文、圆瓣3条
383	肥前	耐若	画	—	—	2.4	染付草花文、圆瓣3条
384	肥前	耐若	画	—	—	2.6	染付草花文、圆瓣3条
385	肥前	耐若	画	—	—	1.6	圆瓣2条
386	肥前	耐若	画	—	—	1.2	染付草花文
287	肥前	耐若	葛物	9.1	5.2	5.0 染付芭蕉	染付芭蕉文
388	肥前	耐若	葛物	7.8	—	3.5 口脚芭蕉	芭蕉文、圆瓣2条
389	肥前	耐若	葛物	7.1	2.8	3.1	
390	肥前	耐若	葛物	6.6	—	3.1	
391	肥前	耐若	仮膳具	5.0	3.1		染付山脚文、圆瓣1条
392	肥前	耐若	仮膳具	3.4	3.1		高台脚袖
393	肥前	耐若	仮膳具	3.4	2.7		
394	肥前	耐若	仮膳具	2.6	3.4		
395	肥前	耐若	红雀口	4.2	1.5	1.5	型成形、高台脚袖
396	肥前	耐若	红雀口	4.4	1.6	1.2	型成形、高台脚袖
397	肥前	耐若	红雀口	5.0	1.6	1.7	型成形、高台脚袖
398	肥前	耐若	红雀口	5.6	1.5	1.6	型成形、高台脚袖
399	肥前	耐若	棘	—	—	12.6	型成形
400	肥前	耐若	棘	21.0	—	7.3 染付	染付唐草文
401	肥前	耐若	棘	5.5	2.4	2.4	染付草花文
402	肥前	耐若	棘	5.8	2.8	2.4	染付交叉文
403	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.6	2.4	染付交叉文
404	肥前	耐若	棘猪口	5.4	1.9	1.9	染付交叉文
405	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.9	2.2	染付交叉文
406	肥前	耐若	棘猪口	6.1	3.0	2.6	染付交叉文
407	肥前	耐若	棘猪口	6.2	3.3	2.5	染付交叉文
408	肥前	耐若	棘猪口	6.2	3.1	2.1	染付交叉文
409	肥前	耐若	棘猪口	7.0	3.0	2.6	染付交叉文
410	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.6	2.1	染付交叉文
411	肥前	耐若	棘猪口	5.8	2.8	2.0	染付交叉文
412	肥前	耐若	棘猪口	5.6	3.2	2.0	染付交叉文
413	肥前	耐若	棘猪口	6.0	3.2	2.0	染付交叉文
414	肥前	耐若	棘猪口	6.1	3.0	2.4	染付交叉文
415	肥前	耐若	棘猪口	6.6	3.1	2.3	染付交叉文
416	肥前	耐若	棘猪口	7.0	2.9	2.2	染付交叉文
417	肥前	耐若	棘猪口	6.2	2.9	2.2	染付交叉文
418	肥前	耐若	棘猪口	6.4	2.6	2.4	染付交叉文
419	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.7	2.0	染付交叉文
420	肥前	耐若	棘猪口	6.2	2.8	2.1	染付交叉文
421	肥前	耐若	棘猪口	5.8	3.0	2.1	染付交叉文
422	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.6	2.2	染付交叉文
423	肥前	耐若	棘猪口	6.0	2.8	2.5	染付交叉文
424	肥前	耐若	棘猪口	6.2	2.8	2.4	染付交叉文
425	肥前	耐若	棘猪口	—	3.0	2.1	染付交叉文
426	肥前	耐若	棘猪口	—	2.9	2.1	染付交叉文
427	肥前	耐若	棘猪口	6.4	3.2	2.3	染付交叉文
428	肥前	耐若	棘猪口	5.4	3.0	1.8	染付交叉文
429	肥前	耐若	棘猪口	—	2.6	1.9	染付交叉文
430	肥前	耐若	棘猪口	—	6.2	2.2	染付交叉文
431	肥前	耐若	棘猪口	6.6	—	2.0	染付交叉文
432	肥前	耐若	棘猪口	6.2	—	1.5	染付交叉文
433	肥前	耐若	棘猪口	5.8	—	1.4	染付交叉文
434	肥前	耐若	棘猪口	6.6	—	1.5	染付交叉文
435	肥前	耐若	棘猪口	6.0	—	1.1	染付交叉文
436	肥前	耐若	棘猪口	5.4	—	1.5	染付交叉文
437	肥前	耐若	棘猪口	5.6	—	1.5	染付交叉文
438	肥前	耐若	棘猪口	—	2.8	1.6	染付交叉文
439	肥前	耐若	棘猪口	—	2.6	1.0	染付交叉文
440	肥前	耐若	棘猪口	—	2.7	1.2	染付交叉文
441	肥前	耐若	棘猪口	—	3.8	1.1	染付交叉文
442	肥前	耐若	棘猪口	—	3.2	1.5	染付交叉文
443	肥前	耐若	棘猪口	—	2.6	1.3	染付交叉文

444	肥前	脚口	3.2	1.2			
445	肥前	脚口	2.8	1.2			
446	肥前	脚口	10.4	3.1	染付四方博		
447	肥前	脚口	9.3	2.8	染付四方博		
448	肥前	脚口	10.6	2.0	染付四方博		
449	肥前	脚口	7.4	3.3			
450	肥前	脚口	7.2	2.4			
451	肥前	脚口	4.8	3.0			
452	肥前	脚口	5.8	3.2			
453	肥前	脚口	5.0	4.3			
454	肥前	脚口	2.2	2.1			
455	肥前	脚口	7.4	4.8	4.3		
456	肥前	脚口	7.6	4.6	3.2		
457	肥前	脚口	7.2	5.2	5.3		
458	肥前	脚口	7.6	6.2	5.7		
459	肥前	脚口	5.8	1.6			
460	肥前	脚口	6.0	1.8			
461	肥前	脚口	4.8	3.4	11瓣芭蕉輪		
462	肥前	脚口	10.4	2.4	口絞芭蕉輪		
463	肥前	脚口	10.8	1.8	口絞芭蕉輪		
464	肥前	脚口	8.6	2.4	11瓣芭蕉輪		
465	肥前	脚口	10.0	3.2	染付四方博、圓輪2条、見込五弁花		
466	肥前	脚口	11.0	1.9	染付四方博		
467	肥前	脚口	9.8	4.0	28付四方博、圓輪2条、見込五弁花		
468	肥前	脚口	10.2	2.6	染付四方博、見込草葉文		
469	肥前	脚口	10.9	4.4	3.0付四方博、圓輪2条		
470	肥前	脚口	10.0	1.8	コンニャキ2脚口		
471	肥前	脚口	3.2	9.1	無輪		
472	肥前	脚口	5.0	3.5	無輪		
473	肥前	脚口	3.6	1.7	無輪		
474	肥前	脚口	5.8	2.6	無輪		
475	肥前	脚口	4.9	2.7	無輪		
476	肥前	脚口	5.2	2.8	無輪		
477	肥前	脚口	12.0	2.2	無輪		
478	肥前	脚口	2.0	2.2	無輪		
479	肥前	脚口	5.3	10.4	無輪		
480	肥前	脚口	4.6	7.0	無輪		
481	肥前	脚口	4.1	8.0	無輪		
482	肥前	脚口	7.0	3.4	無輪		
483	肥前	脚口	2.2	9.2	無輪		
484	肥前	脚口	1.8	8.5	無輪		
485	肥前	脚口	17.6	1.3	染付草葉文、圓輪2条、見込五弁花文		
486	肥前	脚口	11.8	2.9	染付草葉文、圓輪2条		
487	肥前	脚口	8.5	2.7	染付草葉文		
488	肥前	脚口	21.4	14.6	3.1口紅、染付草葉文、圓輪3条、見込五弁花文		
489	肥前	脚口	16.4	2.9	染付草葉文		
490	肥前	脚口	7.6	1.2	圓輪2条		
491	肥前	脚口	12.3	2.3	染付草葉文、圓輪1条		
492	肥前	脚口	12.6	2.9	染付草葉文、圓輪2条		
493	肥前	脚口	14.2	8.4	4.2付草葉文、圓輪2条		
494	肥前	脚口	7.6	2.2	染付草葉文		
495	肥前	脚口	8.2	3.0	染付草葉文、圓輪2条		
496	肥前	脚口	6.9	3.9	圓輪2条、見込五弁花文		
497	肥前	脚口	14.1	8.2	3.9付草葉文		
498	肥前	脚口	4.8	2.3	口絞輪、狀紋状		
499	肥前	脚口	19.6	9.2	7.3付草葉文、59付口一個体		
500	肥前	脚口	4.8	1.9	口日		
501	肥前	脚口	5.2	1.1	口日		
502	肥前	脚口	4.4	2.6	1付口、铁鑄		
503	肥前	脚口	13.6	4.7			
504	肥前	脚口	5.4	0.6			
505	肥前	脚口	2.7	1.4			
506	肥前	脚口	11.0	5.0			
507	肥前	脚口	11.0	1.7			
508	肥前	脚口	11.2	5.2	染付草葉文		
509	肥前	脚口	4.0	3.3	副毛口		
510	肥前	脚口	16.0	4.5			
511	肥前	脚口	16.6	3.4			
512	肥前	脚口	10.5	4.2	6.8		
513	肥前	脚口	5.0	3.5	無輪		
514	肥前	脚口	9.8	4.5			
515	肥前	脚口	10.0	5.0			
516	肥前	脚口	9.4	3.5	6.7無輪		
517	肥前	脚口	5.6	2.3			
518	肥前	脚口	8.5	4.7			
519	肥前	脚口	7.9	3.0			
520	肥前	脚口	4.2	4.4			
521	肥前	脚口	4.6	2.0	青磁輪		
522	肥前	脚口	4.4	2.1			
523	肥前	脚口	6.8	3.9			
524	肥前	脚口	8.2	3.9	口鳥子		
525	肥前	脚口	21.4	5.7	網毛口		
526	肥前	脚口	7.6	4.1	網毛口		
527	肥前	脚口	26.2	4.6	副毛口		
528	肥前	脚口	30.9	7.7			
529	肥前	脚口	34.0	12.2	11.8三萬子、紗利		
530	肥前	脚口	15.2	1.9			
531	肥前	脚口	8.2	3.6	無輪		
532	肥前	脚口	5.2	1.2	圓輪2条		

331	高戸文惠	陶器	高	4.2	2.1	高台6号
341	高戸文惠	陶器	高	10.6	4.9	高台4号
345	高戸文惠	陶器	高	11.2	4.1	高台文惠不明
346	高戸文惠	陶器	高	8.8	3.4	高台文惠花文, 高台2号
347	高戸文惠	陶器	高	3.6	2.2	高台4号
348	高戸文惠	陶器	高	3.8	2.2	高台4号
349	高戸文惠	陶器	高	10.0	3.1	高台4号印押
340	高戸文惠	陶器	高	9.6	4.5	高付文惠文
341	高戸文惠	陶器	高	9.6	4.1	高ニヤギ印押, 高台4号
342	高戸文惠	陶器	高	8.6	3.1	高台4号
343	高戸文惠	陶器	高	3.4	3.9	高台4号
344	高戸文惠	陶器	高	12.0	2.7	高付文修不明
345	高戸文惠	陶器	高	10.0	4.7	高付文修图文
346	高戸文惠	陶器	高	9.6	5.1	高ニヤギ印押, 高台4号
347	高戸文惠	陶器	高	9.2	3.8	高付文修, 高台4号
348	高戸文惠	陶器	高	9.5	4.0	高付文修, 高台4号
349	高戸文惠	陶器	高	11.6	4.9	高付文修不明
350	高戸文惠	陶器	高	9.6	3.5	高付文修图文
351	高戸文惠	陶器	高	9.5	4.5	高付文修, 高台4号
352	高戸文惠	陶器	高	9.6	4.0	高付文修不明, 高台4号
353	高戸文惠	陶器	高	9.2	7.0	高付文修花文, 西台無款
354	高戸文惠	陶器	高	10.4	4.6	高付文修图文
355	高戸文惠	陶器	高	9.0	4.2	高付文修, 西台無款
356	高戸文惠	陶器	高	9.6	4.4	高付文修图文
357	高戸文惠	陶器	井	5.6	17.1	5.9 合背款
358	高戸文惠	陶器	井		3.7	高付文修, 西台無款
359	京信末	陶器	高	9.8	3.0	松平人形款家作款上足行?
360	京信末	陶器	高	9.2	2.2	色绘人形文, 高台4号
361	京信末	陶器	高	9.4	3.2	色绘草花文, 西台4号
362	京信末	陶器	高	9.1	3.0	色绘草花文, 西台4号
363	京信末	陶器	高	9.4	2.4	色绘草花文, 西台4号
364	京信末	陶器	高	9.6	3.0	色绘草花文, 西台4号
365	京信末	陶器	高	9.6	4.5	色绘草花文
366	京信末	陶器	高	9.0	4.7	色绘草花文
367	京信末	陶器	高	11.0	4.0	色绘草花文
368	京信末	陶器	高	9.5	5.0	色绘草花文
369	京信末	陶器	高	10.2	4.3	色绘草花文
370	京信末	陶器	高	10.2	3.8	色绘草花文, 金被用
371	京信末	陶器	高	9.4	4.4	色绘草花文, 金被用
372	京信末	陶器	高	10.0	3.1	色绘草花文
373	京信末	陶器	高	3.0	2.2	色绘草花文, 西台4号, 高台4号
374	京信末	陶器	高	2.8	3.5	色绘草花文, 西台4号
375	京信末	陶器	高	3.2	4.6	色绘草花文, 高台4号
376	京信末	陶器	高	3.6	1.9 色绘文修不明	高台4号
377	京信末	陶器	高	3.0	3.6	色绘草花文, 西台4号
378	京信末	陶器	高	3.2	1.3 色绘文修不明	高台4号
379	京信末	陶器	高	2.8	3.5	色绘山水画, 西台4号
380	京信末	陶器	高	10.6	2.8	
381	京信末	陶器	高	10.0	3.1	
382	京信末	陶器	高	9.6	2.8	
383	京信末	陶器	高	10.0	2.5	
384	京信末	陶器	高	9.0	2.7	
385	京信末	陶器	高	10.2	2.0	
386	京信末	陶器	高	7.2	3.0	
387	京信末	陶器	高	7.2	3.1	
388	京信末	陶器	高	9.8	4.7	
389	京信末	陶器	高	9.2	4.7	高付文修
390	京信末	陶器	高	10.6	3.9	高付文修
391	京信末	陶器	高	9.2	6.0	高付文修
392	京信末	陶器	高	8.0	2.7	
393	京信末	陶器	高	8.8	5.5	
394	京信末	陶器	高	10.0	3.2	
395	京信末	陶器	高	9.3	2.8	
396	京信末	陶器	高	9.1	2.8	
397	京信末	陶器	高	9.6	3.4	
398	京信末	陶器	高	9.7	4.0	
399	京信末	陶器	高	10.2	3.9	
400	京信末	陶器	高	9.4	3.0	
401	京信末	陶器	高	9.4	3.2	
402	京信末	陶器	高	5.2	5.2	
403	京信末	陶器	高	4.0	3.5	
404	京信末	陶器	高	5.0	4.6	
405	京信末	陶器	高	4.0	3.6	
406	京信末	陶器	高	3.4	3.6	
407	京信末	陶器	高	4.6	2.1	
408	京信末	陶器	高	4.0	3.6	
409	京信末	陶器	高	3.4	3.1	
410	京信末	陶器	高	2.9	2.9	
411	京信末	陶器	高	3.8	2.4	
412	京信末	陶器	高	4.8	0.7	
413	京信末	陶器	高	3.2	2.4	
414	京信末	陶器	高	2.8	2.0	
415	京信末	陶器	高	3.4	1.9	
416	京信末	陶器	高	3.0	2.6	
417	京信末	陶器	高	3.9	2.3	
418	京信末	陶器	高	3.4	1.5	
419	京信末	陶器	高	4.8	0.9	
420	京信末	陶器	高	2.8	1.6	
421	京信末	陶器	高	2.9	1.6	高台4号

620	吉信家	脚踏	椭	3.0	1.2	高台单踏
622	吉信家	脚踏	椭	10.6	5.8	
624	吉信家	脚踏	椭	9.7	4.2	6.9
625	吉信家	脚踏	椭	5.2	3.6	垫行文踏不明,高台单踏
626	吉信家	脚踏	椭	6.6	2.7	低踏单踏
627	吉信家	脚踏	椭	9.2	3.6	
628	吉信家	脚踏	椭	11.2	5.2	5.5
629	吉信家	脚踏	椭	9.5	3.1	4.6
630	吉信家	脚踏	椭	11.6	5.2	7.1
631	吉信家	脚踏	先生	3.9	4.1	椭踏
632	吉信家	脚踏	椭	7.1	2.4	椭踏
633	吉信家	脚踏	椭		4.4	新劲踏文
634	吉信家	脚踏	椭	12.0	3.6	色劲文踏小明
635	吉信家	脚踏	椭	11.7	3.7	色劲文踏不明
636	吉信家	脚踏	椭	11.8	3.6	色劲文踏不明
637	吉信家	脚踏	椭	12.4	2.6	色劲文踏小明
638	吉信家	脚踏	椭	12.0	4.1	4.3 色劲文踏不明
639	吉信家	脚踏	椭	12.9	4.2	4.6 色劲文花文
640	吉信家	脚踏	椭	4.0		1.6
641	吉信家	脚踏	椭		6.0	垫行文踏不明
642	吉信家	脚踏	椭	11.2	7.4	椭踏
643	吉信家	脚踏	椭	13.4	6.1	
644	吉信家	脚踏	椭		8.4	4.6
645	吉信家	脚踏	上机		7.4	1.3
646	吉信家	脚踏	椭		9.2	2.9
647	吉信家	脚踏	上机		7.6	2.2
648	吉信家	脚踏	上机		8.6	2.7
649	吉信家	脚踏	上机		10.5	11.9 椭踏
650	吉信家	脚踏	上机		11.6	2.0 椭踏
651	吉信家	脚踏	上机		12.0	1.3 椭踏
652	吉信家	脚踏	上机			3.2
653	脚踏	脚踏	打明趾	9.0	4.0	1.1
654	脚踏	脚踏	打明趾	8.8		1.5
655	脚踏	脚踏	打明趾	10.2	3.7	1.7
656	脚踏	脚踏	打明趾	11.9		2.2
657	脚踏	脚踏	打明趾	10.3	3.6	1.9
658	脚踏	脚踏	打明趾	10.6		1.8
659	脚踏	脚踏	打明趾	8.4	4.6	1.4
660	脚踏	脚踏	打明趾	9.0		1.2
661	脚踏	脚踏	打明趾	10.0		2.1
662	脚踏	脚踏	打明趾	10.2		2.0
663	脚踏	脚踏	打明趾	10.4		1.5
664	脚踏	脚踏	打明趾	10.9		1.6
665	脚踏	脚踏	打明趾	8.6		1.3
666	脚踏	脚踏	打明趾	10.6		1.5
667	脚踏	脚踏	打明趾	10.2		1.4
668	脚踏	脚踏	打明趾	8.8	4.0	1.2
669	脚踏	脚踏	打明趾	8.8	4.4	1.2
670	脚踏	脚踏	打明趾	10.0	3.4	1.9
671	脚踏	脚踏	打明趾	8.6		1.1
672	脚踏	脚踏	打明趾	9.9	4.2	1.3
673	脚踏	脚踏	打明趾	10.6	4.8	1.6
674	脚踏	脚踏	打明趾	8.6		1.4
675	脚踏	脚踏	打明趾	10.0		1.5
676	脚踏	脚踏	踩		15.4	7.6
677	脚踏	脚踏	椭		7.0	4.0
678	脚踏	脚踏	椭	2.6		4.6
679	脚踏	脚踏	椭		5.0	9.0
680	脚踏	脚踏	踩	10.0	10.4	6.7
681	脚踏	脚踏	踩	12.3	12.2	6.7
682	脚踏	脚踏	椭		9.0	
683	脚踏	脚踏	椭		8.8	10.5
684	脚踏	脚踏	椭		8.4	19.5
685	千勇	脚踏	椭	14.2	6.9	
686	千勇	脚踏	椭		8.0	5.5 椭踏
687	千勇	脚踏	椭	14.0		3.0 铁踏
688	千勇	脚踏	椭		9.0	7.1 铁踏
689	千勇	脚踏	椭	12.6		2.5 高台单踏
690	千勇	脚踏	椭		7.6	2.0
691	千勇	脚踏	椭	12.8	4.4	高台单踏,底踏凹孔
692	千勇	脚踏	先生		9.2	
693	第	脚踏	椭	13.0	3.3	贴行打高台
694	第	脚踏	椭		16.2	3.2 贴行打高台
695	第	脚踏	椭		15.0	2.9 贴行打高台
696	第	脚踏	椭		17.4	3.4 贴行打高台
697	第	脚踏	椭		16.0	6.7 贴行打高台
698	第	脚踏	椭		16.2	6.7 贴行打高台
699	第	脚踏	椭	26.0	8.3	
700	第	脚踏	椭		29.6	7.8
701	第	脚踏	椭	35.4	7.0	
702	第	脚踏	椭	35.8	8.5	
703	第	脚踏	椭	35.0	8.9	
704	第	脚踏	椭	37.8	21.6	12.8
705	第	脚踏	椭	31.0	14.1	12.7
706	上筋堂上踏	椭			5.4	0.8
707	上筋堂上踏	椭			6.8	0.5
708	上筋堂上踏	椭			7.6	5.0
709	上筋堂上踏	椭			8.0	1.2
710	十脚筋上踏	椭			6.2	6.6

711	土師質上器	皿	6.0	1.5			
712	土師質上器	皿	8.0	5.8	1.1		
713	土師質上器	町明紙	7.5	5.0	1.0		
714	土師質上器	皿	11.8	—	2.0		
715	土師質上器	杯	13.6	—	2.1		
716	土師質上器	皿	13.7	6.5	2.6		
717	土師質上器	杯	16.0	9.1	2.6		
718	土師質上器	皿	15.0	7.0	2.4		
719	土師質上器	燒場造	6.2	5.4	7.2	タマヘウケツリ	
720	土師質上器	燒場造	8.0	—	1.5	希有	
721	土師質上器	燒場造	7.5	—	2.0	希有	
722	土師質上器	燒場造	7.8	7.5	1.7	希有	
723	土師質上器	燒場造	7.5	4.3	2.4	希有	
724	土師質上器	十練	8.5	—	6.0		
725	瓦質	大鉢	—	—	10.7		
726	土師質上器	切拂	36.0	—	3.7		
727	土師質上器	切拂	35.5	—	2.6	板ナゲ	
728	土師質上器	切拂	36.0	—	2.2		
729	土師質上器	切拂	37.8	—	5.5	ヨコハケ	
730	土師質上器	切拂	36.0	—	7.0	上手ヨコハケ、下手板ナゲ	
731	土師質上器	切拂	26.0	—	5.0	板ナゲ	
732	土師質上器	切拂	34.5	—	3.2	ヨコハケ	
733	土師質上器	燒場	32.0	—	2.6	ヨコハケ	
734	土師質上器	切拂	35.0	—	3.6		
735	土師質上器	切拂	41.3	—	4.5	板ナゲ	
736	土師質上器	切拂	27.8	—	5.6	ヨコハケ	
737	土師質上器	切拂	30.4	—	6.0	上手ヨコハケ、下手板ナゲ	
738	土師質上器	切拂	31.2	—	5.7	ヨコハケ	
739	土師質上器	切拂	32.1	—	6.2	指拂のちヨコハケ	
740	土師質上器	切拂	31.8	—	5.7	ヨコハケ	
741	土師質上器	切拂	31.0	—	5.9	板ナゲ	
742	土師質上器	切拂	3.0	—	2.9	板ナゲ	
743	土師質上器	切拂	31.0	—	4.1	板ナゲ	
744	土師質上器	燒場	30.0	—	5.2	ヨコハケ	
745	土師質上器	燒場	32.4	—	7.6	ヨコハケ	
746	土師質上器	燒場	28.5	—	6.3	板ナゲ	
747	土師質上器	燒場	34.2	—	6.1	ヨコハケ	
748	土師質上器	燒場	30.8	—	6.8	上手ヨコハケ、下手板ナゲ	
749	土師質上器	燒場	33.0	—	6.1	上手ヨコハケ、下手板ナゲ	
750	土師質上器	切拂	37.0	—	5.2	板ナゲ	
751	土師質上器	燒場	30.0	—	3.3	ヨコハケ	
752	土師質上器	燒場	32.8	—	5.1	ヨコハケ	
753	土師質上器	燒場	18.6	—	4.7	指拂のヨコハケ	
754	土師質上器	燒場	18.6	—	7.4	指拂のちヨコハケ	
755	土師質上器	羽釜	12.0	—	8.2		
756	土師質上器	羽釜	10.0	—	6.5	上手羽釜、下手ヨコハケ	
757	土師質上器	羽釜	16.0	—	11.8	指拂正	
758	土師質上器	羽釜	18.1	—	12.8	指拂のち板ナゲ	
759	土師質上器	羽釜	18.8	—	13.5	指拂正	
760	土師質上器	煮	—	11.7	4.5		
761	淡墨	休	—	9.4	1.6		
762	淡墨	休	—	20.6	7.0	南浦舟	
763	淡墨	休	—	21.4	12.7	指拂正	
764	淡墨	休	—	29.0	18.6	指拂正	
765	淡墨	休	—	30.4	8.8		
766	淡墨	休	—	26.0	16.8		
767	淡墨	休	—	40.0	19.0	指拂正	
768	淡墨	休	—	20.0	21.0	指拂正	
769	淡墨	便	—	23.0	15.6	指拂正	
770	淡墨	便	—	22.6	16.0	ヨコハケ	
771	淡墨	便	—	70.0	8.5		
772	淡墨	便	—	39.6	14.1	南浦舟	
773	淡墨	便	—	23.9	15.4	指拂のち板ナゲ	
774	淡墨	人形	4.1	5.6	1.7	型成形十製品	
775	淡墨	人形	1.6	5.8	1.6	型成形十製品	
776	淡墨	人形	6.1	3.6	2.2	型成形十製品	
777	淡墨	人形	6.9	4.9	1.8	型成形十製品	
778	淡墨	人形	4.5	4.5	3.6	型成形十製品	
779	淡墨	キツネ	6.8	4.0	2.2	型成形十製品	
780	淡墨	キツネ	5.7	3.8	2.3	型成形十製品	
781	不刷	器	—	4.5	1.7	型成形七製品	
782	不刷	器	—	3.1	5.1	1.8	型成形十製品
783	不刷	器	—	3.4	8.3	1.8	型成形十製品
784	不刷	器	—	3.2	6.5	1.9	型成形十製品
785	不刷	器	—	2.7	9.2	1.7	型成形十製品
786	不刷	器	—	2.6	3.0	1.2	型成形十製品
787	不刷	器	—	2.8	2.3	4.0	型成形十製品
788	不刷	器	—	3.0	4.6	2.1	型成形十製品
789	不刷	器	—	1.3	2.4	4.6	型成形十製品
790	不刷	器	—	3.2	3.3	1.1	型成形十製品
791	漆刷	刷	—	2.8	2.9	2.4	型成形十製品
792	木漆	刷	—	2.9	8.3	1.6	
793	土師質上器	刷	—	4.4	4.1	1.8	型成形十製品
794	肥前	刷	—	2.8	5.1	3.2	型成形十製品
795	土師質上器	スコ	—	3.7	3.2	1.1	型成形十製品
796	漆刷	刷	—	2.8	3.0	1.4	型成形十製品
797	漆刷	刷	—	3.1	3.2	1.4	型成形十製品
798	漆刷	刷	—	2.8	2.9	1.1	型成形十製品
799	漆刷	刷	—	2.8	2.5	1.1	型成形十製品

800	上美賀上器	鉢	3.6	2.1	二ニチニア	
801	不明	陶器	2.6	2.6	二ニチニア	
802	不明	陶器	11.0	3.5	二ニチニア	
803	土師質土器	壺	3.4	1.0	二ニチニア	
804	分仙葉	陶器	3.0	1.7	鈴内文研手印	
805	不明	陶器	2.5	1.9		金糸付蓋
806	轟戸美濃	陶器	4.4	2.2	2.7	高台無輪
807	不明	陶器	6.4	3.2	1.9	柴付円錐
808	不明	陶器	5.6	2.6	2.1	高台無輪、底面墨書き「セツ」
809	不明	陶器	7.0	1.0		柴付丸文
810	不明	陶器	3.0	1.2		柴付丸文
811	不明	陶器	9.6	1.0	圓錐2条	圓錐2条
812	不明	陶器	10.0	1.2	安付文様不明	柴付文様不明
813	不明	陶器	17.0	3.1	奈付草花文	奈付草花文
814	吉信葉	陶器	9.2	4.0		奈付草花文
815	轟戸美濃	陶器	11.1	3.5		高台無輪
816	轟戸美濃	鉢	12.8	3.0		高台無輪
817	土師質土器	鉢	10.4	1.5		高台無輪
818	土師質土器	壺	11.2	1.9		高台無輪
819	土師質土器	土器	10.6	3.8		高台無輪
820	土師質土器	壺	29.0	16.5	内丸	指標柱
821	肥前	陶器	9.0	4.8		高台無輪
822	肥前	陶器	7.0	2.2	2.4	高台無輪
823	肥前	陶器	8.6	6.9	解毛舟	高台無輪
824	肥前	陶器	6.6	2.4		柴付草花文
825	肥前	陶器	2.5	3.8		柴付草花文
826	吉信葉	陶器	4.8	1.3		高台無輪
827	轟戸	陶器	3.5			
828	上美賀上器	大神さん	5.3	2.3	4.1 型成形+製品	
829	上美賀上器	筋鉢	28.6	3.7	板ナギ	指標柱
830	上美賀上器	筋鉢	25.0	3.3	板ナギ	指標柱
831	上美賀上器	筋鉢	36.8	3.9	板ナギ	指標柱
832	上美賀上器	筋鉢	34.4	6.2	指標柱のもの?コハク	指標柱
833	吉信葉	陶器	18.7	6.2		
834	吉信葉	陶器	9.3	1.8		
835	肥前	陶器	8.8	3.0		柴付草花文
836	肥前	陶器	6.6	3.2		柴付草花文
837	肥前	陶器	4.4	1.2		型成形、高台無輪
838	瓦貯上器	大神	34.8	12.8	指標柱のもの?ハケ	
839	肥前	陶器	10.6	4.3	柴付西方陣	青面地
840	肥前	陶器	9.0	3.3	柴付西方陣	柴付草花文
841	肥前	陶器	6.5	5.9	無輪	柴付草花文
842	轟戸美濃	陶器	9.4	1.8	奈付田四	奈付門闌
843	吉信葉	陶器	5.4	1.4		高台無輪
844	吉信葉	陶器	10.8	4.6	1.5	
845	吉信葉	陶器	10.6	1.5		
846	秋貯陶器	蓋	3.4	2.5		高台内装跡?唐
847	土師質土器	鉢	6.8	4.4	1.0	
848	上美賀上器	大鉢	20.8	3.5	ナデ	ナデ
849	肥前	陶器	13.6	10.5	3.3	
850	肥前	陶器	7.0	4.0	2.7 砂目	高台無輪
851	肥前	陶器	13.6	11.2	1.4	
852	肥前	陶器	16.0	13.8	1.4	奈付易筋
853	土師質土器	鉢	9.8	7.6	4.3	圓錐2条
854	土師質土器	壺	13.4	9.6	1.4	
855	吉信葉	陶器	10.4	1.9		
856	吉信葉	陶器	12.0	4.0		
857	肥前	不明	24.9	13.7	13.6 柄嘴ナデ	上面に接合痕のみ
858	肥前	陶器	14.6	3.2		高台無輪
859	肥前	陶器	7.5	3.9	4.3	奈付草花文、圓錐2条
860	吉信葉	陶器	36.0	17.6	14.4	部出し?高台
861	吉信葉	陶器	32.6	10.1		
862	肥前	粘器	3.1	3.4		奈付文様不明
863	肥前	粘器	3.8	2.8	圓錐2条	奈付文様
864	肥前	粘器	7.6	2.2	奈付文様不明	奈付文様不明
865	肥前	粘器	3.2	2.4		圓錐2条
866	肥前	粘器	3.6	2.2	見込見込文	奈付文様
867	肥前	粘器	12.0	4.5		奈付文様不明
868	肥前	粘器	12.1	4.5	6.5 圓錐2条	奈付文様
869	肥前	粘器	10.6	5.9	6.0	奈付文様不明、前面露高輪
870	肥前	粘器	10.1	2.0	5.3	奈付草花文、圓錐2条、高台内装記号文
871	肥前	粘器	8.4	2.6	2.5	圓錐2条
872	肥前	粘器	10.0	4.8	5.0 型崩頃、圓錐2条、見込見込竹脚	型崩頃、圓錐2条
873	肥前	粘器	10.4	3.5	圓錐2条	奈付脚の裏文、圓錐2条
874	肥前	粘器	8.0	4.1	奈付脚云文、圓錐2条	奈付脚の裏文、圓錐2条
875	肥前	粘器	4.2	6.6	2.4	奈付脚云文
876	肥前	粘器	8.6	4.6	2.2	奈付脚云文
877	肥前	粘器	5.2	2.1		奈付脚云文
878	肥前	粘器	8.2	3.4	4.1	奈付脚云文
879	肥前	粘器	3.6	2.1	圓錐2条、見込見込文	奈付草花文、圓錐2条
880	肥前	粘器	8.0	5.0	圓錐2条、見込見込竹脚	奈付脚云文、奈付山形脚、圓錐2条
881	肥前	粘器	6.6	3.3	2.6	奈付脚云文
882	肥前	粘器	5.8	2.5		奈付脚云文
883	肥前	粘器	6.1	2.8	2.5	奈付脚云文
884	肥前	粘器	6.0	3.0	2.1	奈付脚云文
885	肥前	粘器	8.3	2.6	2.5	奈付脚云文
886	肥前	粘器	6.6	2.9	2.1	奈付脚云文
887	肥前	粘器	6.8	3.8	1.4	奈付脚云文
888	肥前	粘器	2.8	1.3		

889	肥前	陶器	紅釉口		3.2	1.3		
890	肥前	陶器	器		5.8	1.2	壹付意花文	
891	肥前	陶器	器		5.7	1.7	壹付山木綿	
892	肥前	陶器	器	12.4		3.1	全紙糊	壹付唐草文, 圓錐1条
893	肥前	陶器	器	16.0		3.7	壹付春花文	壹付唐草文
894	肥前	陶器	器		9.8	1.7		壹付小明
895	肥前	陶器	器		11.6	3.4	青細繪	壹付唐草文, 圆錐2条
896	肥前	陶器	器		11.0	3.2	壹付春花文	壹付竹文
897	肥前	陶器	器	24.0		6.1	壹付美文	壹付竹文
898	肥前	陶器	器		8.4	4.3		壹付秋花文
899	肥前	陶器	器		13.1	1.8	壹付杏花文	壹付2条
900	肥前	陶器	器		7.7	2.4	壹付文様不明	壹付文様不明
901	肥前	陶器	器		3.5	1.4	圓錐2条, 見松竹梅	壹付竹文
902	肥前	陶器	器	8.0		1.1		壹付文様不明
903	肥前	陶器	器	7.4		1.6		壹付松花文
904	肥前	陶器	器	11.2		1.9	山紋無地	壹付出文
905	肥前	陶器	器	6.1		1.7		
906	肥前	陶器	器	6.9		2.6		
907	肥前	陶器	圓足盤口		5.8	1.3		
908	肥前	陶器	圓足口	4.6	2.8	2.6		
909	肥前	陶器	圓足碟口		4.4	4.2		
910	肥前	陶器	器	7.0		3.5		
911	肥前	陶器	器	8.0	3.2	4.2	壹付花紋, 圆錐1条	壹付文様不明
912	肥前	陶器	器	5.8		2.7		壹付文様不明
913	肥前	陶器	器		2.6	2.5		堅放用
914	肥前	陶器	花生	7.6		2.3	無地	
915	肥前	陶器	瓶		3.2	1.7		
916	肥前	陶器	仏教具	4.6	3.6	3.5		
917	肥前	陶器	仏教具		4.2	3.0		
918	肥前	陶器	仏教具	8.7	3.5	5.5		
919	肥前	陶器	碗		12.7	4.0		
920	肥前	陶器	碗	11.6	5.2	6.5		
921	肥前	陶器	碗	7.0	3.8	2.1	刷毛口	刷口
922	肥前	陶器	皿	4.0		2.5		黑口無地, 粉土口
923	肥前	陶器	皿	10.6		3.5		
924	肥前	陶器	皿	14.2	4.8	3.2	研口	
925	肥前	陶器	片口盆	18.2		5.7	黑地	片口, 染口文様不明
926	肥前	陶器	皿	8.4	4.0	1.5		
927	肥前	陶器	皿		5.5	1.6		
928	肥前	陶器	杯	24.2		3.3	研手口	
929	肥前	陶器	皿		7.6	3.7	研筋, 要ね燒き底	
930	肥前	陶器	鉢		10.8	5.3	刷毛口, 砂口	
931	京伝美	陶器	碗	10.5		2.8		色繪草花文
932	京伝美	陶器	碗	10.6		5.0		鏡小紋
933	京伝美	陶器	碗	9.0		3.3		
934	京伝美	陶器	碗		2.8	1.5		
935	京伝美	陶器	皿	8.6		1.5		
936	京伝美	陶器	皿	8.8	4.0	1.8	青細繪	
937	京伝美	陶器	器	6.2	6.5	5.7		此形無地
938	京伝美	陶器	鉢	14.6		1.6	研筋	
939	京伝美	陶器	花生		8.0	2.8		瓶口無地
940	京伝美	陶器	花生	4.0	3.2	3.6		瓶部無地
941	京伝美	陶器	瓶	16.0	6.6	7.0	研地	瓶地, 近口無地, 研上口
942	京伝美	陶器	鉢	20.0		3.6		
943	吉野	陶器	碗		1.9			
944	吉野	陶器	碗		6.2			
945	吉野	陶器	碗	11.0	4.1	4.5		青細繪
946	吉野	陶器	器	7.8		3.5	山紋無地	壹付豆花文
947	吉野	陶器	碗	9.2		4.1		
948	吉野	陶器	鉢		5.0	1.8		
949	吉野	陶器	鉢		22.0	4.2		陰筋, 近口無地
950	吉野	陶器	器	9.9		5.4		高台無地
951	吉野	陶器	打明里	10.0	3.4	1.4		
952	吉野	陶器	打明里	10.4	5.7	1.4		
953	吉野	陶器	打明里	5.4	4.2	1.7		
954	吉野	陶器	打明里	8.8		1.4		
955	吉野	陶器	打明里	12.0		1.8		
956	吉野	陶器	鉢	26.6		6.7		
957	吉野	陶器	鉢	12.2	12.2	6.5		
958	吉野	陶器	鉢		12.7	3.8		
959	吉野	陶器	鉢	13.5	13.1	15.6		
960	不明	陶器	器		3.1	3.5		文字, 成形無地
961	小明	陶器	碗	11.4		4.8		
962	須前	陶器	器	6.5		3.8	成形形十製品	
963	須前	陶器	鉢		12.8	3.9		鉢
964	秋吉陶器	器	系	10.1		1.1	無地	
965	秋吉陶器	器	系	12.1		1.6	無地	
966	秋吉陶器	器	系	2.4	3.8	1.7		
967	秋吉陶器	器	十點		5.6	2.4		無地
968	秋吉陶器	器	系		5.2	2.2		
969	秋吉陶器	器	系	5.4	3.8	0.9		
970	土師質十	器	系	2.8	2.0	3.0	ニヒチア	
971	土師質十	器	系	14.0		1.6		
972	土師質十	器	系	13.8		1.9		
973	土師質十	器	系	10.2		1.3		
974	土師質十	器	系	23.4		5.0		
975	土師質十	器	系	22.3		3.2	堅ナラ	板ナラ
976	土師質十	器	系	14.1	6.2	3.9	ハコナラ	柄加工
977	土師質十	器	系	36.0		2.4	ヨコナラ	柄加工

970	上野乳上鶏	鶏林	32.0	10.9	脚踏みのちタチハケ	脚踏み
972	千葉県土産	大神	30.5	23.4	7.2 鹿沼庄のら抜ナゲ	
980	鹿児島土産	鹿	18.5		3.9	
981	奈良土産	西		5.2	2.7	
982	埼	浦林		29.6	3.1	
983	埼	浦林	29.6		8.0	
984	埼	浦林	37.0		11.0	
985	埼	浦林	26.0	22.4	4.0	
986	埼	浦林	26.0	20.0	9.8	削り出し高台
987	東鶴	浦林	14.0	8.3		
988	浦	浦林	13.0	9.2		
989	山口県	浦		3.0	1.3	高台無縫
990	肥前	浦	8.4	3.5	4.1	受け邊ヶ文
991	山形	船木鉢	12.8	12.8	3.1	高台無縫
992	新潟毛麪	浦	20.0		5.5	
993	G.C.美	浦		3.8	2.1	高台無縫
994	紀州	浦	19.0		6.1 備行菊文、995回、側面	受け文様不明
995	京極美	浦	8.5	4.2		
996	備前	浦	31.0		7.9	丸ねぎ各底
997	上野質七器	浦	31.0		2.8	船頭舟
998	吉井土器	便	17.4		5.3 ワコハケのちタチハケ	タタキのちタチハケ
999	吉仁美	浦	9.6	9.2	2.6	
1000	山口県	浦	9.4	5.0	2.2	
1001	新潟毛麪	浦	10.0	9.8	2.4	高台無縫
1002	紀州	丸馬口	6.6	3.6	2.2	側面
1003	紀州	丸馬口	7.6	6.0	6.0 舟行四方博、足込鏡面2箇、見込水差花文	舟行斜花敷紋、蛇ノ目開紙高台
1004	紀州	浦	10.6	5.0	2.8	舟行基花文
1005	紀州	浦	7.8	4.4	1.4	
1006	上野質上29	浦	39.8	36.8	1.8	受け文様不明
1007	笠野	浦	14.0	11.0	2.7	

遺物観察表(六種類)

番号	品名	口径(分)	瓶径(分)	瓶高(厚)	特記事項
S1	鐵瓶	4.4	2.2	1.6	両面に磨痕あり
S2	鐵	11.8	8.7	3.6	両面に磨痕あり
S3	大打ちら	2.6	2.0	2.1	説明書全体に墨打無あり
S4	鐵	6.6	3.8	1.6	脚部のみ残存
S5	鐵	19.5	6.2	2.2	海綿5の跡跡にかけて残存。質済も使用
S6	木桶	12.4	11.2	4.2	両面打ち多量の解体
S7	大打ちら	3.2	3.7	2.5	脚部全体に墨打張り

遺物観察表(今異型)

番号	品名	口径(分)	瓶径(分)	瓶高(厚)	特記事項
K1	刀	18.9	4.0	1.4	
K2	對	8.8	0.6	0.1	
K3	木桶	4.3	3.3	0.2	
K4	製品	4.8	3.2	0.3	
K5	鐵吸口	6.2	1.0	1.6	
K6	木桶	4.8	1.8	0.2	
K7	質工	4.6	4.6	0.2	
K8	生	1.2	1.2	1.2	
K9	管	16	1.3	0.1	
K10	生	8.6	1.4	1.0	

黒地銀目表(木版)

品名	口径(内)	底径(外)	厚さ(内)	裏面(内面)		裏面(外面)	裏方
				黒地 墨書き	黒地 墨書き		
961 蓋	12.5	2.4	0.5	黒地墨書き	黒地墨書き		
962 蓋	16.1	101.0	0.4	黒地墨書き	黒地墨書き		
963 蓋	25.3	8.6	0.5	黒地墨書き	黒地墨書き		
964 蓋	24.9	9.6	0.6				
965 墓誌板	13.1	1.7	0.4				
971 墓誌部材	15.2	1.5	0.7	和合2脚			
981 墓誌	13.4	4.3	0.5	印地2脚			
982 墓誌	6.8	5.3	0.4	印地			
910 墓誌	8.2	2.5	0.4	印地			
911 墓誌	5.9	2.6	0.4	印地			
912 墓誌	4.4	3.4	1.6				
913 墓誌	5.2	2.8	0.4				
914 墓誌	6.5	6.0	1.6				
915 墓誌	9.0	8.1	0.8	上口丸多板			
916 建築部材	16.7	0.6	0.5	黒地墨書きの脚材			
917 建築部材	11.4	1.2	0.5	黒地墨書きの脚材			
918 大盤	9.2	1.8	2.5	墨書き「草」			
919 盤			0.9	墨書き墨書き		黒地墨書き	
920 T盤	21.0	7.9	2.4	印地3.3, 丸孔2			
921 盤	12.6	5.0	3.0	墨書き		黒地墨書き 墨書き	
922 盤	10.0		2.1	墨書き		黒地墨書き	
923 盤	4.8		4.7	墨書き		黒地墨書き	
924 盤	5.0	2.0	2.0	墨書き		黒地墨書き 墨書き	
925 盤	4.5		1.1	墨書き		黒地墨書き 墨書き	
926 盤			1.6	墨書き		黒地墨書き	
927 盤			5.0	墨書き		黒地墨書き	
928 盤			5.0	墨書き		黒地墨書き 墓誌板	
929 盤			5.0	墨書き		黒地墨書き 墓誌板	
930 盤			5.0	墨書き		黒地墨書き 墓誌板	
931 盤			5.0	墨書き		黒地墨書き 墓誌板	
932 盤			7.0	4.6 墓書き		黒地墨書き	
933 盤			7.0	4.2 墓書き		黒地墨書き	
934 盤	9.0	4.5	2.1	墨書き		黒地墨書き 墓書き	
935 盤	8.4	4.0	2.0	墨書き		黒地墨書き 墓書き	
936 盤			6.9	墨書き		黒地墨書き 墓書き	
937 盤			4.0	墨書き		黒地墨書き 墓書き	
938 盤			16.3	墨書き		黒地墨書き 墓書き	
939 盤			5.0	3.6		黒地墨書き 墓書き	
940 盤	23.0	16.5	1.5	墨書き		黒地墨書き	
941 金	6.0		3.3			黒地墨書き	
942 金	5.0	5.2				黒地墨書き	
943 金	2.9	5.0				黒地墨書き	
944 金	21.2	3.5	0.5	墨書き		上平墨書き、下下朱墨書き	
945 板材	16.5	3.2	0.4	墨書き		黒地墨書き	
946 板材	22.1	5.6	0.5	墨書き		黒地墨書き	
947 板材	23.0	2.6	0.5	墨書き		黒地墨書き	
948 墓誌部材	5.5	6.5	1.0	墨書き		黒地墨書き	
949 竹編物	2.9		1.0	墨書き		全	
950 竹編物	2.6		2.2	墨書き		全	
951 墓誌部材	6.0	6.9	3.0	墨書き			
952 墓誌部材	14.2	2.5	2.0	墨書き「草」			
953 木軸	8.8	2.7	0.5	墨書き(中軸室中)		墨書き(小軸)	
954 木軸	18.8	3.4	0.5	墨書き(一小)		墨書き	
955 木軸	9.0	2.0	0.5	墨書き(中軸前板)			
956 木軸	2.1	8.0	2.0	墨書き(一)			
957 木軸	6.0	2.0	0.5	墨書き(中軸)		墨書き	
958 木軸	12.1	2.1	0.5	墨書き			
959 木軸	9.8	3.0	0.5	墨書き			
960 木軸	18.0	2.9	0.5	墨書き(替荷重)		墨書き半	
961 曲物鉢板	11.7	12.1	1.2	墨書き「子」			
962 曲物鉢板	10.5	6.4	1.0	墨書き			
963 曲物鉢板	12.7	13.0	1.2	墨書き			
964 曲物鉢板	11.6	11.7	1.0				
965 曲物鉢板	8.4	8.1	0.5				
966 曲物鉢板	9.2	9.6	1.6				
967 曲物鉢板	10.0	11.0	0.8				
968 曲物鉢板	11.0	11.5	1.5				
969 曲物鉢板	15.3	15.0	1.1	墨書き			
970 曲物鉢板	14.0	14.3	1.1				
971 曲物鉢板	9.7	8.5	0.8				
972 曲物鉢板	5.6	5.5	1.5				
973 曲物鉢板	7.8	6.1	1.1				
974 曲物鉢板	8.6	4.6	0.5				
975 曲物鉢板	8.1	4.0	0.4				
976 曲物鉢板	4.9	3.0	0.5				
977 曲物鉢板	11.3	6.5	0.7				
978 曲物鉢板	12.8	6.5	0.5				
979 曲物鉢板	6.1	6.5	5.5				
980 曲物鉢板	16.0	8.0	1.0				
981 曲物鉢板	27.5	14.9	1.2				
982 曲物鉢板	24.2	4.0	1.1				
983 曲物鉢板	24.2	5.9	1.1				

W85	滑物紙板	12.5	4.7	1.8	
W86	滑物紙板	13.2	9.7	1.8	
W87	滑物紙板	13.0	6.8	1.8	
W88	滑物紙板	11.3	7.3	1.8	側面に穴孔2, W88上縫合
W89	滑物紙板	3.8	10.5	1.8	側面に穴孔2, W89上縫合
W90	滑物大板	13.3	5.5	1.3	円孔1
W91	滑物大板	13.5	10.2	1.8	内孔1, 繻印
W92	滑物大板	13.1	6.1	1.2	円孔1
W93	滑物大板	9.2	5.0	0.9	円孔1
W94	内板	4.1	4.6	1.2	
W95	滑物	9.7	8.2	0.9	
W96	滑物側板	8.7	19.0	0.5	
W97	滑物紙封	6.0	33.1	0.8	方形孔1
W98	滑物紙材	3.0	31.8	0.8	方形孔1
W99	滑物紙製品	25.2	2.0	1.1	
W100	下駄	12.9	7.9	1.8	内孔2
W101	板材料	12.5	8.6	1.8	円孔1
W102	板材料	12.3	4.7	0.8	円孔1
W103	板材料	3.6	3.1	0.6	円孔1
W104	板材料	6.6	0.6	0.7	明込み多数
W105	板材料	17.5	1.0	0.5	小円孔多数
W106	板	12.6	2.3	0.2	
W107	建築部材	6.7	2.0	1.5	円孔1
W108	建築部材	8.5	3.0	1.8	
W109	板材料	17.4	1.4	0.8	
W110	板材料	19.9	1.7	1.8	
W111	板材料	15.0	1.6	2.1	
W112	板材料	14.9	4.8	2.0	
W113	建築部材	21.2	2.8	1.2	円孔2
W114	建築部材	17.6	2.8	1.5	円孔1
W115	建築部材	18.5	1.7	1.2	明込み1
W116	板材料	18.9	9.8	1.2	円孔2
W117	板材料	18.2	10.1	8.7	
W118	板材料	9.6	3.1	1.0	
W119	板材料	27.3	8.5	1.0	円孔11
W120	建築部材	19.7	9.6	5.8	
W121	建築部材	13.4	8.6	3.7	
W122	建築部材	8.2	5.2	6.0	ホリ/孔で接着
W123	板	27.6	9.0		
W124	鋼	30.1	1.1	0.9	
W125	鋼	16.7	0.7		
W126	鋼	5.9	0.3		
W127	鋼	5.6	2.3	2.3	
W128	鋼	3.0	2.8	2.5	
W129	鋼	3.8	2.6	2.0	
W130	鋼	4.4	3.2	2.1	
W131	鋼	2.9	3.2	2.9	
W132	鋼	4.6	3.5	1.5	
W133	鋼	4.7	3.0	3.0	
W134	鋼	5.3	3.3	3.7	
W135	鋼	5.8	3.1	2.6	
W136	鋼	5.1	3.3	2.3	
W137	鋼	2.5	2.9	3.6	
W138	鋼	5.6	2.7	2.3	
W139	鋼	5.1	2.9	2.8	
W140	鋼	3.9	2.4	1.6	
W141	鋼	4.9	3.0	2.3	
W142	鋼	6.3	2.8	2.5	
W143	鋼	4.9	2.9	2.2	
W144	鋼	5.2	3.4	3.0	
W145	著	22.5	0.6	0.7	
W146	著	22.2	0.6	0.6	
W147	著	22.1	0.8	0.7	
W148	著	21.3	0.7	0.8	
W149	著	22.1	0.8	0.5	
W150	著	21.9	0.6	0.6	
W151	著	22.3	0.9	0.7	
W152	著	21.7	0.8	0.9	
W153	著	21.0	7.5	6.0	
W154	著	18.5	0.7	0.6	
W155	著	22.0	1.1	0.8	
W156	著	22.0	0.7	0.6	
W157	著	20.9	0.7	0.5	
W158	著	21.8	0.6	0.6	



SD201·202,SA201·202完掘状况



SD203完掘状况



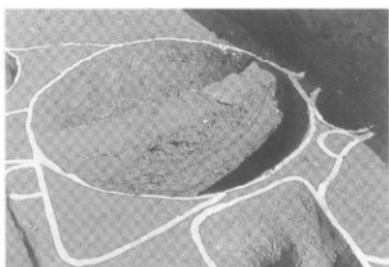
SD203土层断面



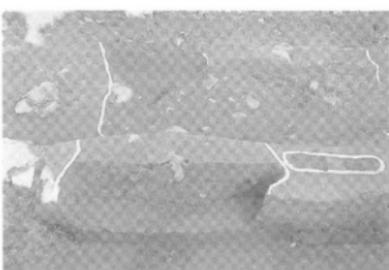
SD204土层断面



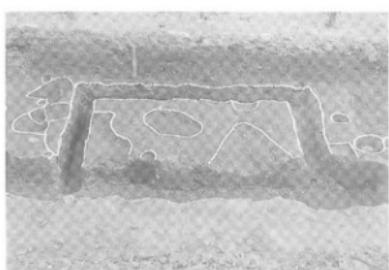
SK207土层断面



SK210土层断面



SD103土层断面



SD104完掘状况



SD105遺物出土狀況



SK123檢出狀況



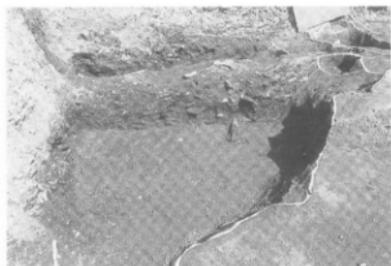
SK123遺物出土狀況



SK123遺物出土狀況



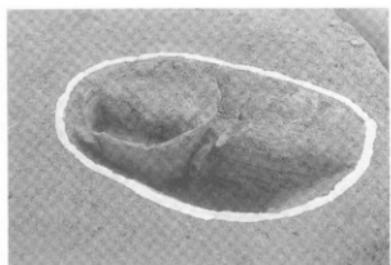
SK123遺物出土狀況



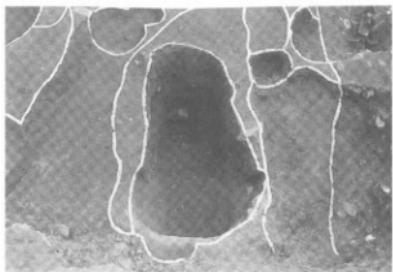
SK123土層斷面



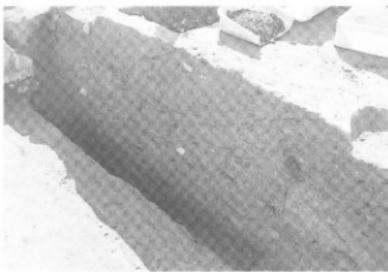
SK123完掘狀況



SK127土層斷面



SK126完掘状況



SD105・SK114~117・SK139土層断面



第1遺構横面完掘状況(北半)



第1遺構横面完掘状況(南半)



作業風景



作業風景



【高松市街古図(文化年間頃高松城下図)】



調査地周辺(左の絵図拡大)



SK123出土家紋入理兵衛燒

SK123出土家紋瓦



SK123出土将棋駒



SK123出土陶磁器類



木簡類



SK123出土須恵器



SK123出土漆器椀



SK121出土軟質陶器土瓶



SK123出土玩具類

報告書抄録

ふりがな	たかまつじょうあと (まつだいらだいぜんけなかやしきあと)						
書名	高松城跡 (松平大膳家中屋敷跡)						
副書名	香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	第1冊						
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	第61集						
編著者名	大嶋和則						
編集機関	高松市教育委員会						
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2636						
発行年月日	西暦2002年12月27日						
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
高松城跡 (松平大膳家 中屋敷跡)	香川県 高松市 丸の内	37201	34° 20' 40"	134° 03' 15"	2002.2.1 ~ 2002.3.25	99m ²	香川県弁 護士会会 館建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項		
高松城跡 (松平大膳家 中屋敷跡)	城館	江戸	上坑 溝 柱穴 井戸	理兵衛焼 瓦 陶磁器	松平大膳家家紋 入り理兵衛焼・瓦		

香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

高松城跡 (松平大膳家中屋敷跡)

平成14年12月27日

編集	高松市教育委員会
発行	高松市番町一丁目8番15号
発行	高松市教育委員会
印刷	香川県弁護士会